

OpenTP1 Version 7

TP1/Messaging 使用の手引

解説・手引・操作書

3000-3-D61-11

前書き

■ 対象製品

P-2464-3364 uCosminexus TP1/Messaging 07-51 (適用 OS : Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2016, Windows Server 2019, Windows 8.1, Windows 10)

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, OpenTP1, uCosminexus は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Microsoft は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

UNIX は、The Open Group の登録商標です。

Windows は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Windows Server は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 発行

2022 年 4 月 3000-3-D61-11

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, 2022, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3000-3-D61-11) uCosminexus TP1/Messaging 07-51

追加・変更内容	変更箇所
TP1/NET/High Availability の説明を追加しました。	1.1

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3000-3-D61-10) uCosminexus TP1/Messaging 07-51

追加・変更内容
TP1/Messaging - Extension 1 の説明を追加しました。
TP1/Messaging の前提プログラムを削除しました。
MHP 環境設定 GUI が生成する定義ソースファイルの説明を追加しました。
GUI が生成しない定義ソースファイルの説明を追加しました。
新規サポートのオプション，オペランド，および指定値を追加しました。
ユーザサービス定義の説明を追加しました。
システムサービス共通情報定義の説明を追加しました。
MCF 性能検証用トレース定義の説明を追加しました。
リアルタイム取得項目定義の説明を追加しました。
新規サポートの運用コマンドを追加しました。
TP1/Messaging と MCF の差異に関する説明を追加しました。
次に示すバージョンの変更点を記載しました。 <ul style="list-style-type: none">• TP1/Messaging 07-51

はじめに

このマニュアルは、プログラムプロダクト uCosminexus TP1/Messaging の概要と使用方法について説明したものです。

■ 対象読者

Windows が組み込まれているシステム環境の下で uCosminexus TP1/Messaging を運用するシステム管理者の方を対象としています。

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 概要

TP1/Messaging の概要と機能について説明しています。

第 2 章 環境設定

TP1/Messaging の具体的な環境設定の方法について説明しています。

第 3 章 オペレーション

TP1/Messaging の運用操作の方法について説明しています。

第 4 章 トラブルが発生したら

TP1/Messaging 運用中に発生するトラブルと、その対処方法について説明しています。

付録 A TP1/Messaging と MCF の差異

TP1/Messaging と MCF の機能、定義、運用コマンド、および関数の差異について説明しています。

付録 B バージョンアップ時の変更点

各バージョンでの GUI、および定義の変更点について説明しています。

付録 C サンプルプログラム

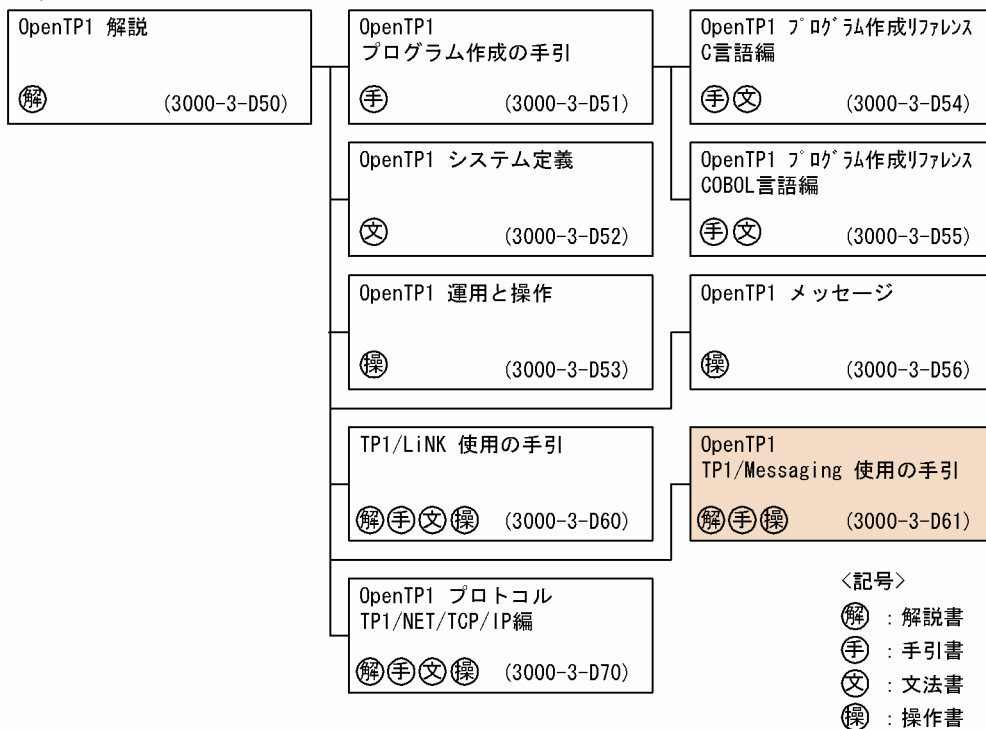
TP1/Messaging の UAP を作成するためのサンプルプログラムについて説明しています。

付録 D 用語解説

TP1/Messaging で使用する用語について説明しています。

■ 関連マニュアル

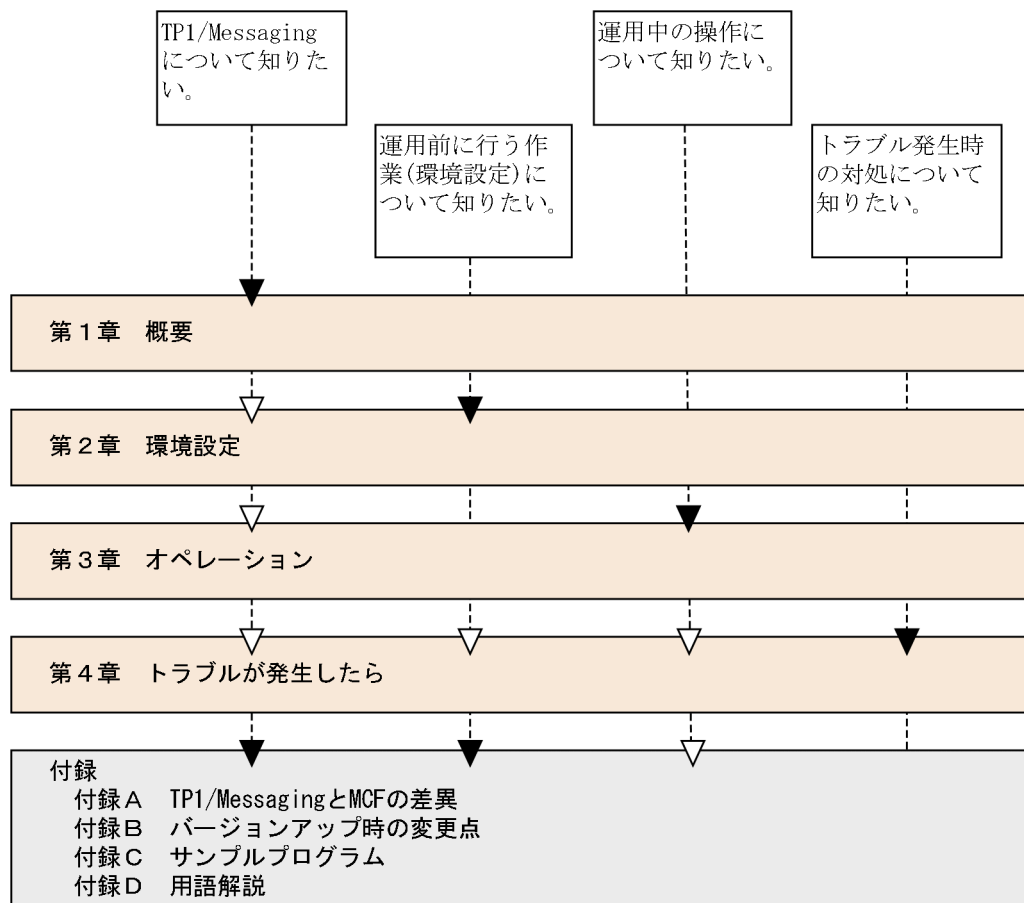
●OpenTP1 Version 7



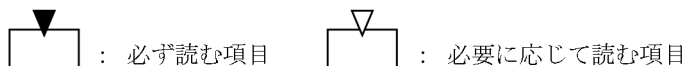
OpenTP1 の関連マニュアルには、TP1/Messaging で使用できない機能、定義、運用コマンド、および関数について説明している箇所があります。関連マニュアルのうち、TP1/Messaging で使用できない機能、定義、運用コマンド、および関数については、「[付録 A TP1/Messaging と MCF の差異](#)」を参照してください。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて直接章を選択して読むことができます。利用目的別に、次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



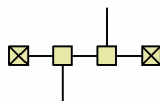
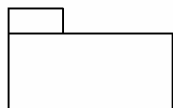
(凡例)



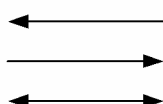
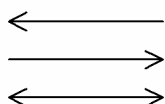
■ 図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

- パーソナルコンピュータ(PC)、ワークステーション(WS)
- ディレクトリ
- ネットワーク(LAN)



- データ、メッセージの流れ
- 制御の流れ
- その他の流れ



■ 文法の記号

(1) 文法記述記号

文法の記述記号について説明する記号です。

文法記述記号	意味
 (ストローク)	この記号で仕切られた項目は、選択できることを示します。 (例) サーバ クライアント サーバまたはクライアントのうち、どちらかを選択できることを示します。
△ (白三角)	半角スペースを示します。 (例) CBLDCMCF('OPEN△△△△') 'OPEN と'の間に、半角スペースを4個入力することを示します。

(2) 属性表示記号

ユーザ指定値の範囲などを説明する記号です。

属性表示記号	意味
《 》	ユーザが指定を省略したときに仮定される値を示します。
〈 〉	ユーザ指定値の構文要素を示します。
(())	ユーザ指定値の指定範囲を示します。
[]	GUI の画面に表示されるボックス、ボタンなどを示します。
【 】	GUI で値を設定する場合の初期値を示します。

(3) 構文要素記号

ユーザ指定値の内容を説明する記号です。

構文要素記号	意味
英字	アルファベット (A~Z, a~z), および_ (アンダスコア) の文字
英数字	英字と数字 (0~9)
符号なし整数	数字 (0~9)
識別子	先頭がアルファベット (A~Z, a~z) で始まる英数字列
文字列	任意の文字の配列
パス名	記号名称, /, および . (ピリオド) (ただし, パス名は使用する OS に依存)
<ホスト名>	先頭が英数字または- (ハイフン) で, 先頭以外が英数字, - (ハイフン), または. (ピリオド)

■ このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用する製品名称の略称を次に示します。

名称	略称
uCosminexus TP1/Client for .NET Framework	TP1/Client
uCosminexus TP1/Client/J	
uCosminexus TP1/Client/P	
uCosminexus TP1/Client/P(64)	
uCosminexus TP1/Client/W	
uCosminexus TP1/Client/W(64)	
uCosminexus TP1/High Availability	TP1/High Availability
uCosminexus TP1/LiNK	TP1/LiNK
uCosminexus TP1/Message Control	TP1/Message Control
uCosminexus TP1/Messaging	TP1/Messaging
uCosminexus TP1/Messaging - Extension 1	TP1/Messaging - Extension 1
uCosminexus TP1/NET/High Availability	TP1/NET/High Availability
uCosminexus TP1/NET/Library	TP1/NET/Library
uCosminexus TP1/NET/TCP/IP	TP1/NET/TCP/IP
uCosminexus TP1/Server Base	TP1/Server Base
Windows 8.1 Enterprise (x86)	Windows 8.1
Windows 8.1 Pro (x86)	
Windows 8.1 Enterprise (x64)	
Windows 8.1 Pro (x64)	
Windows 10 Enterprise (x86)	Windows 10
Windows 10 Pro (x86)	
Windows 10 Enterprise (x64)	
Windows 10 Pro (x64)	
Microsoft Windows Server 2012 Datacenter	Windows Server 2012
Microsoft Windows Server 2012 Standard	
Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2
Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	

名称	略称
Microsoft Windows Server 2016 Datacenter	Windows Server 2016
Microsoft Windows Server 2016 Standard	
Microsoft Windows Server 2019 Datacenter	Windows Server 2019
Microsoft Windows Server 2019 Standard	

- 表中の OS 間で機能差がない場合、Windows と表記しています。

■ 略語一覧

このマニュアルで使用する英略語の一覧を示します。

英略語	英字での表記
FAT	File <u>A</u> llocation <u>T</u> able
GUI	<u>G</u> raphical <u>U</u> ser <u>I</u> nterface
MCF	TP1/ <u>M</u> essage <u>C</u> ontrol (<u>F</u> acility)
MHP	<u>M</u> essage <u>H</u> andling <u>P</u> rogram
NTFS	<u>N</u> ew <u>T</u> echnology <u>F</u> ile <u>S</u> ystem
OSI	<u>O</u> pen <u>S</u> ystems <u>I</u> nterconnection
PC	<u>P</u> ersonal <u>C</u> omputer
SPP	<u>S</u> ervice <u>P</u> roviding <u>P</u> rogram
SUP	<u>S</u> ervice <u>U</u> sing <u>P</u> rogram
TCP/IP	<u>T</u> ransmission <u>C</u> ontrol <u>P</u> rotocol/ <u>I</u> nternet <u>P</u> rotocol
UAP	<u>U</u> ser <u>A</u> pplication <u>P</u> rogram
UOC	<u>U</u> ser <u>O</u> wn <u>C</u> oding
WS	<u>W</u> orkstation

■ KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

目次

前書き	2
変更内容	3
はじめに	4

1 概要 12

1.1	TP1/Messaging の概要	13
1.2	TP1/Messaging の機能	15
1.2.1	GUI 機能	15
1.2.2	資源自動見積もり機能	15

2 環境設定 16

2.1	環境設定をする前に	17
2.2	アプリケーションの準備	18
2.2.1	作業の流れ	18
2.3	実行環境の設定	21
2.3.1	GUI による環境設定	21
2.3.2	定義ソースファイル編集による環境設定	47
2.3.3	共用メモリ算出用定義ソースファイルの編集による環境設定	60

3 オペレーション 62

3.1	TP1/Messaging の起動と停止	63
3.2	MCF のオペレーション	64
3.2.1	GUI の画面からのオペレーション (MCF)	64
3.2.2	コマンドプロンプト画面からのオペレーション (MCF)	71
3.3	MHP のオペレーション	74
3.3.1	GUI の画面からのオペレーション (MHP)	74
3.3.2	コマンドプロンプト画面からのオペレーション (MHP)	82

4 トラブルが発生したら 83

4.1	トラブルの種類と原因	84
4.1.1	TP1/Messaging のトラブル	84
4.2	トラブルシュート情報	89
4.3	メッセージ	90

付録 91

付録 A	TP1/Messaging と MCF の差異	92
------	-------------------------	----

付録 A.1	TP1/Messaging と MCF の機能の差異	92
付録 A.2	TP1/Messaging と MCF の定義の差異	93
付録 A.3	TP1/Messaging と MCF の運用コマンドの差異	104
付録 A.4	TP1/Messaging と MCF の関数の差異	106
付録 A.5	TP1/Messaging と MCF の仕様差異	108
付録 B	バージョンアップ時の変更点	110
付録 B.1	07-51 での変更点	110
付録 B.2	07-00 での変更点	114
付録 C	サンプルプログラム	116
付録 D	用語解説	117

索引 119

1

概要

この章では、TP1/Messaging の概要と機能について説明します。

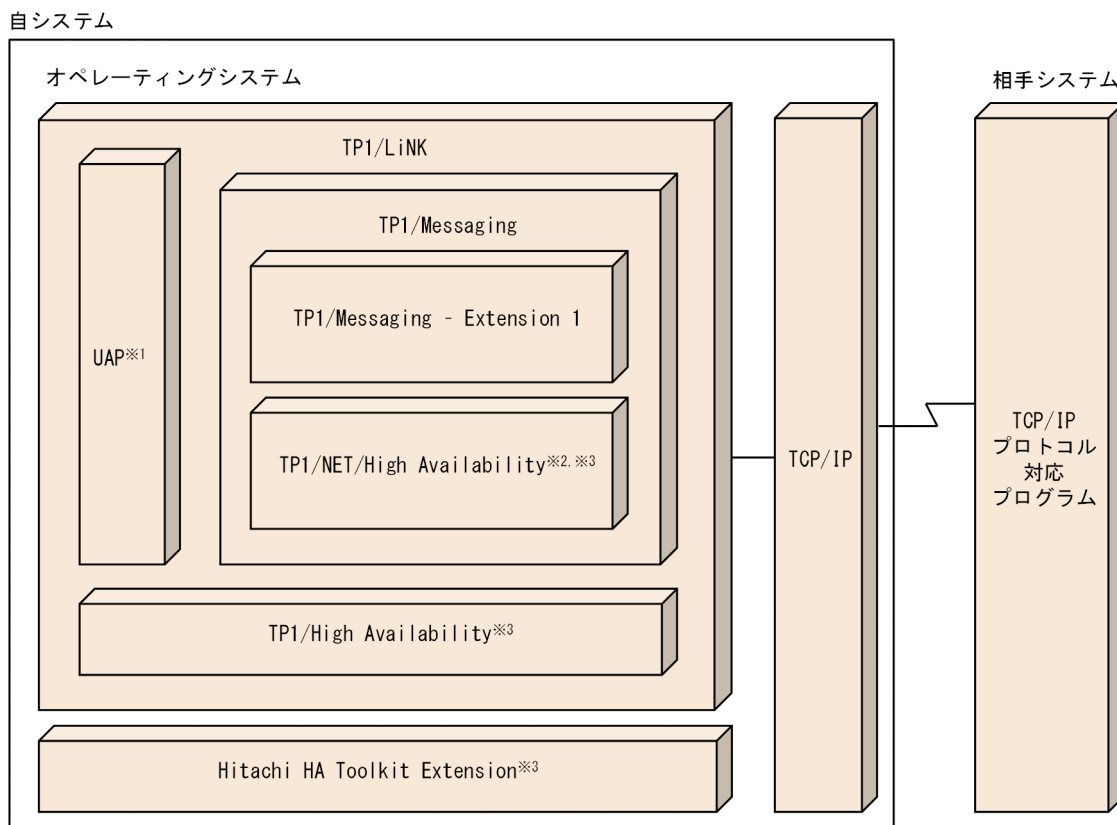
1.1 TP1/Messaging の概要

TP1/Messaging は、Windows を組み込んだシステム環境で、OpenTP1 のメッセージ制御をする製品です。TP1/LiNK があらかじめ組み込まれている環境で動作し、TCP/IP 通信機能を使用したオンラインシステムを構築できます。

さらに、TP1/Messaging - Extension 1 をインストールすれば、TP1/Messaging の機能を拡張できます。TP1/Messaging - Extension 1 が必要な定義、運用コマンド、および関数については、「付録 A TP1/Messaging と MCF の差異」を参照してください。

TP1/Messaging のシステムでの位置づけを次の図に示します。

図 1-1 システムでの位置づけ



注※1

TP1/Messaging で扱う UAP は、MHP および SPP です。UAP については、マニュアル「OpenTP1 プログラム作成の手引」を参照してください。

注※2

コネクション切り替え機能を使うときに必要な製品です。コネクション切り替え機能については、マニュアル「OpenTP1 プロトコル TP1/NET/TCP/IP 編」を参照してください。

注※3

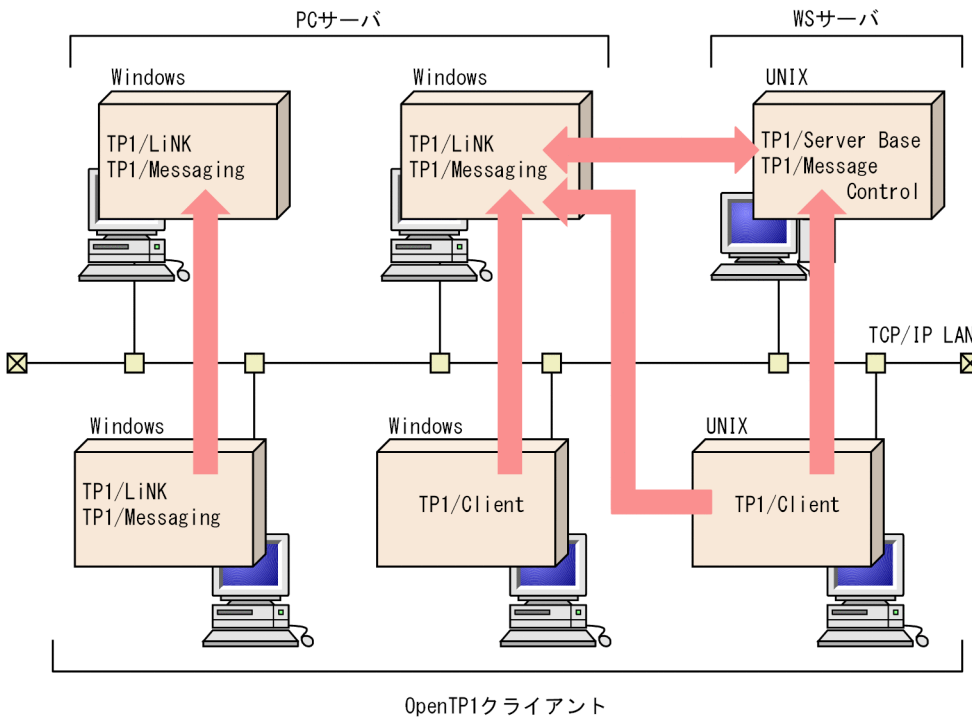
系切り替え機能を使うときに必要な製品です。系切り替え機能については、マニュアル「OpenTP1 解説」を参照してください。

TP1/Messaging を使用すると、WS サーバで動作している OpenTP1 のメッセージ制御機能（MCF）や、OpenTP1 のクライアント機能（TP1/Client）と、TCP/IP プロトコルで接続できます。

TP1/Messaging を組み込んだシステムは、複雑なシステム構成を行う必要がありません。また、同じシステム構成を持つ PC を、サーバとしてもクライアントとしても使用できます。そのため、柔軟なオンラインネットワークを構築できます。

TP1/Messaging を使用したオンラインネットワークの概要を次の図に示します。

図 1-2 オンラインネットワークの概要



1.2 TP1/Messaging の機能

この節では、TP1/Messaging の機能について説明します。

1.2.1 GUI 機能

TP1/Messaging では、Windows の画面に表示されたボタンの絵をクリックすることで、設定する値を入力したり、運用操作をしたりできます。これを GUI（グラフィカルユーザインタフェース）といいます。GUI を使用すると、設定などの作業が効率的に行えます。

また、GUI を使用しないで、コマンドプロンプトからコマンドを入力することもできます。

TP1/Messaging では、次の GUI 機能を使用できます。

- MCF 環境設定 GUI, MHP 環境設定 GUI
TP1/Messaging の実行環境を設定するときに表示されます。
- MCF オペレーション GUI, MHP オペレーション GUI
TP1/Messaging の運用操作をするときに表示されます。

GUI を使用した設定方法、および操作方法については、「[2. 環境設定](#)」, 「[3. オペレーション](#)」を参照してください。

1.2.2 資源自動見積もり機能

TP1/Messaging では、TP1/Messaging が動作するために必要な資源の容量を、自動的に見積もり、割り当てます。TP1/Messaging で必要となる資源は、**共用メモリとステータスファイル**です。

共用メモリとは、複数のプロセスで共有して、データの参照や更新をするメモリです。主に、TP1/Messaging を制御するテーブル、および共用のバッファのために領域が取られます。共用メモリには、固定的なデータを格納するための静的共用メモリと、必要に応じて使用する動的共用メモリの 2 種類があります。

ステータスファイルは、TP1/Messaging の状態（ステータス）を示す情報を格納しておくファイルです。

TP1/Messaging では、システム起動時に、上記の資源を自動的に確保します。ただし、TP1/Messaging を使用する状況によっては、共用メモリが不足する場合があります。オンライン中に共用メモリが不足した場合は、作業を中断し、直ちに保守員へ連絡してください。

2

環境設定

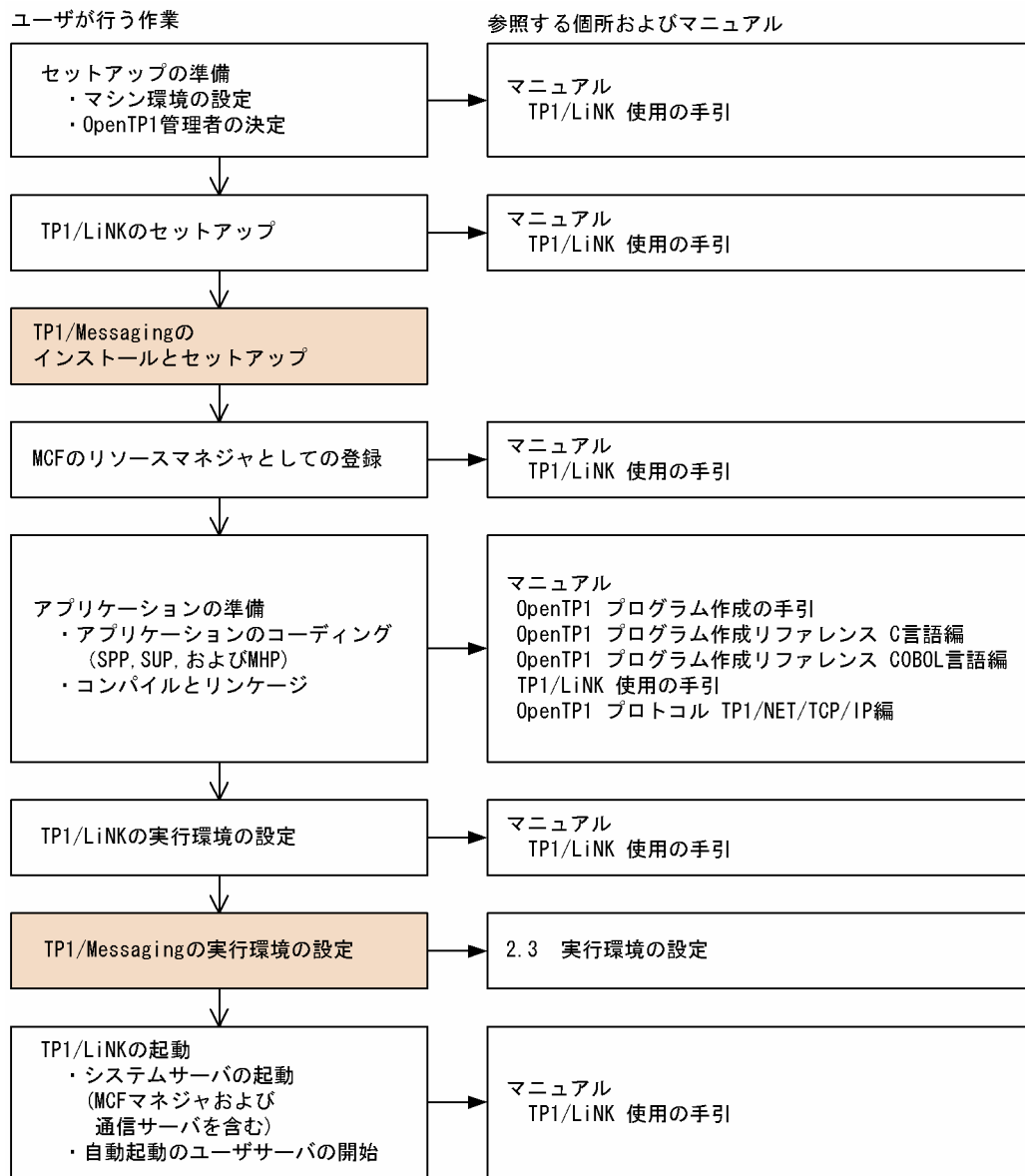
環境設定とは、TP1/Messaging を運用する前に行う、準備作業をいいます。この章では、TP1/Messaging の環境設定の詳細について説明します。

2.1 環境設定をする前に


TP1/Messaging の実行環境を設定する前に、行っておく作業について説明します。

TP1/Messaging の環境設定の手順を、次の図に示します。

図 2-1 環境設定の手順



(凡例)

 : TP1/Messagingの環境設定時に行う作業を示します。

2.2 アプリケーションの準備

業務処理に必要なアプリケーションプログラムを準備する手順について説明します。

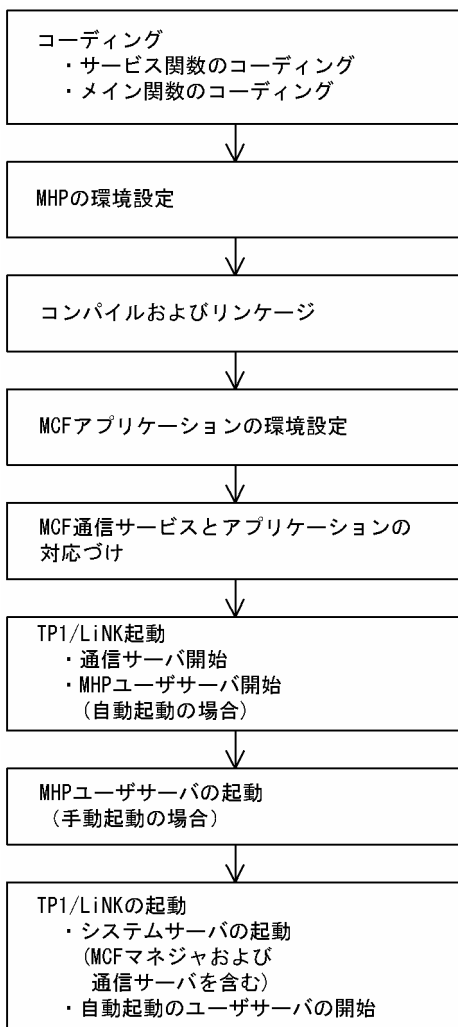
2.2.1 作業の流れ

TP1/Messaging のアプリケーションプログラムを準備する手順について説明します。

TP1/Messaging のアプリケーションプログラムとして MHP（メッセージ処理プログラム）を作成することができます。MHP の詳細については、マニュアル「OpenTP1 プログラム作成の手引」を参照してください。

アプリケーションの準備の手順を次の図に示します。

図 2-2 アプリケーションの準備の手順



(1) コーディング

MHP のサービス関数およびメイン関数を C 言語、または COBOL 言語で作成します。コーディングの詳細に関しては、次に示す OpenTP1 のマニュアルを参照してください。

- 「OpenTP1 プログラム作成の手引」
- 「OpenTP1 プログラム作成リファレンス C 言語編」
- 「OpenTP1 プログラム作成リファレンス COBOL 言語編」

(2) MHP 環境設定

MHP を TP1/Messaging で実行するための環境を設定します。MHP は TP1/LiNK 上でサービスを提供するユーザサーバに当たるものです。MHP の環境設定は、GUI 画面から行います。MHP 管理画面のユーザサーバ環境設定画面で設定してください。

MHP の環境設定内容を保存すると、それぞれの MHP に対して、スタブソースファイルが作成されます。スタブソースファイルは、%DCDIR%\%APLIB%ディレクトリの下に、×××_sstb.c という名称で作成されます。×××は MHP のユーザサーバ名を示します。このスタブソースファイルは、C 言語で記述されています。

MHP の環境設定の詳細については、「[2.3.1 GUI による環境設定](#)」を参照してください。

(3) コンパイルとリンケージ

MHP のサービス関数、メイン関数、およびスタブソースファイルをコンパイルし、オブジェクトファイルと、トランザクション制御用オブジェクトファイルをリンケージして MHP の実行形式ファイルを作成します。実行形式ファイル名は、MHP 環境設定画面で設定したプログラム名に拡張子 (.EXE) を付けた名称としてください。MHP の実行形式ファイルは%DCDIR%\%APLIB%ディレクトリの下に格納してください。

(4) MCF アプリケーションの環境設定

MHP のサービス関数を MCF のアプリケーションとして登録します。MCF アプリケーション名は、MCF で受け取ったメッセージを処理するとき、該当するメッセージを処理するアプリケーションであることを識別する名称です。MCF アプリケーションの環境設定は、GUI の画面の MCF 環境設定画面で、MCF アプリケーション環境設定画面または MCF アプリケーション定義ソース編集で行ってください。

MCF 環境設定 GUI で環境設定をする場合は、1 個以上の MCF アプリケーションを 1 個の MCF アプリケーショングループとして定義します。このアプリケーショングループ名称は、MCF 通信サービスとの対応づけに使います。MCF アプリケーション環境設定の詳細は、「[2.3.1 GUI による環境設定](#)」を参照してください。

コマンドプロンプト画面から、MCF アプリケーション定義ソースファイルを編集して環境設定をする場合は、1 個以上の MCF アプリケーションを 1 個の MCF アプリケーション定義ソースファイルの中で定義してください。MCF アプリケーション定義ソースファイルは、定義変換コマンドを使用して MCF アプリ

ケーション定義オブジェクトファイルに変換する必要があります。この定義オブジェクトファイル名は、MCF 通信サービスとの対応づけに使用します。詳細については、「[2.3.2 定義ソースファイル編集による環境設定](#)」、およびマニュアル「[OpenTP1 システム定義](#)」を参照してください。

(5) MCF 通信サービスとアプリケーションの対応づけ

MCF 通信サービス (TCP/IP 通信サービスおよびアプリケーション間通信サービス) がどのアプリケーションを使用するかを定義します。

MCF 環境設定 GUI で環境設定をする場合は、MCF 環境設定 GUI を使用します。MCF の通信サービス環境設定画面中のアプリケーショングループ名欄に、MCF アプリケーションの環境設定で定義した MCF アプリケーショングループ名称を設定してください。それによって、通信サービスとアプリケーショングループが対応づけられます。1 個のアプリケーショングループを複数の通信サービスに対応づけることができます。MCF 通信サービス環境設定の詳細については、「[2.3.1 GUI による環境設定](#)」を参照してください。

定義ソースファイルを編集して環境設定をする場合は、MCF 通信構成定義共通部の MCF アプリケーション定義オブジェクトファイル名に、MCF アプリケーション定義ソースファイルから作成した定義オブジェクトファイル名を指定します。それによって、MCF 通信サービスと MCF アプリケーション定義ソースが対応づけられます。詳細については、「[2.3.2 定義ソースファイル編集による環境設定](#)」、およびマニュアル「[OpenTP1 システム定義](#)」を参照してください。

(6) TP1/LiNK 起動

TP1/LiNK オペレーション GUI から TP1/LiNK を起動すると、MCF 通信サーバ、および自動起動設定された MHP ユーザサーバが引き続き起動されます。詳細については、「[3.1 TP1/Messaging の起動と停止](#)」、およびマニュアル「[TP1/LiNK 使用の手引](#)」を参照してください。

(7) MHP ユーザサーバの起動

MHP ユーザサーバを手動起動する場合は、GUI 画面の MHP 管理画面から起動してください。

詳細については、「[3.3 MHP のオペレーション](#)」を参照してください。

2.3 実行環境の設定

TP1/Messaging の実行環境の設定について説明します。

TP1/Messaging では、環境設定の方法として、GUI による環境設定と、定義ソースファイル編集による環境設定とが選択できます。

なお、TP1/Messaging の環境設定をするときには、TP1/LiNK の環境があらかじめ設定されている必要があります。TP1/LiNK の環境設定については、マニュアル「TP1/LiNK 使用の手引」を参照してください。

2.3.1 GUI による環境設定

TP1/Messaging では、セットアップ完了時に、実行環境が初期設定されます。TP1/Messaging 環境設定を起動すると、GUI の画面が表示されます。ボタンで任意の画面を選択し、初期設定された実行環境を実際の実行環境に変更してから、TP1/Messaging を開始してください。一度設定した実行環境を変更する場合は、画面を再度表示させ、変更したい項目を再設定してください。

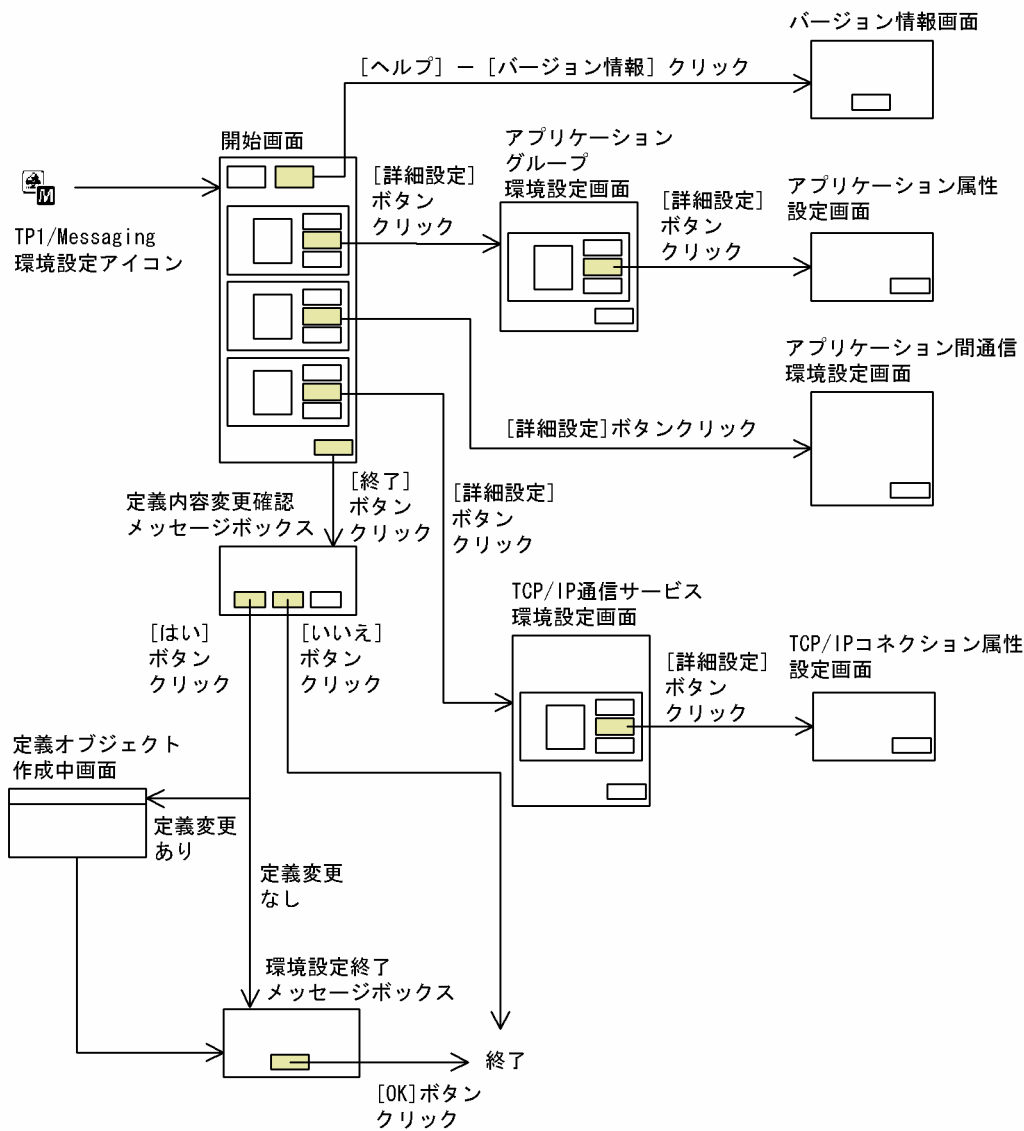
GUI で設定する TP1/Messaging の環境設定項目を次の表に示します。

表 2-1 TP1/Messaging の環境設定項目（GUI による設定の場合）

設定種別	設定項目	内容
MCF 環境設定	アプリケーショングループ環境設定およびアプリケーション属性設定	通信サービスを使用するアプリケーションの実行環境を設定します。
	アプリケーション間通信環境設定	ノード内通信のための通信サービスの実行環境を設定します。
	TCP/IP 通信環境設定および TCP/IP コネクション属性設定	TCP/IP プロトコルを使用して外部通信をするための実行環境を設定します。
MHP 環境設定	MHP ユーザサーバ環境設定	TP1/Messaging を使用してメッセージ送受信をする MHP ユーザサーバの実行環境を設定します。
	ユーザサーバ自動起動順位の設定	ユーザサーバの自動起動の有無と、自動起動する場合の起動順位を設定します。

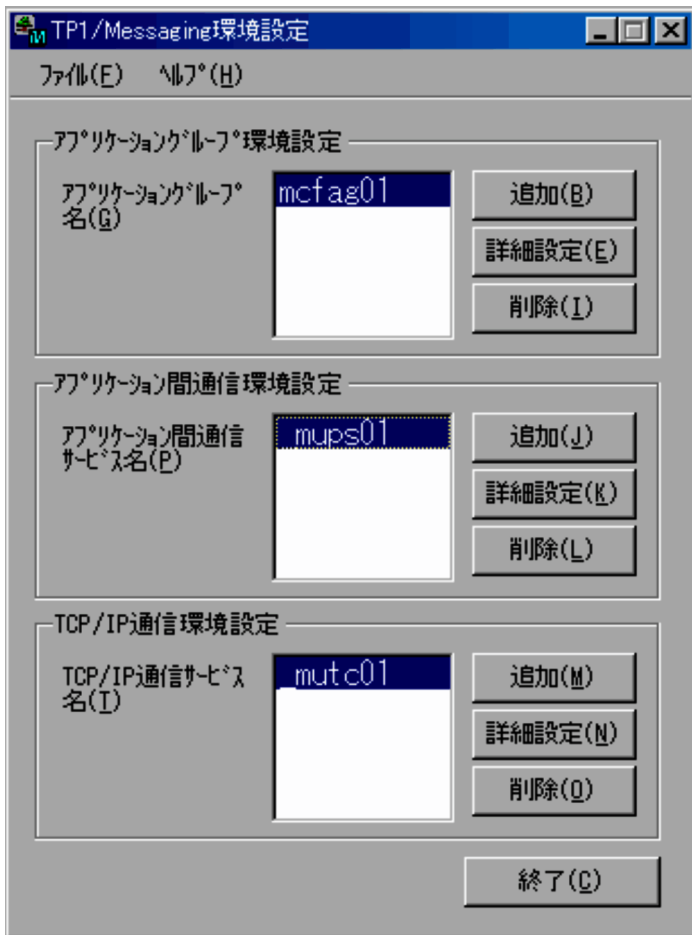
MCF 環境設定時の画面構成について、次の図に示します。

図 2-3 MCF 環境設定時の画面構成



(1) MCF 環境設定

まず、TP1/Messaging 環境設定を起動すると、開始画面が表示されます。



開始画面に表示されている項目について説明します。

アプリケーショングループ環境設定欄

【アプリケーショングループ名 (G)】 リストボックス

TP1/Messaging で定義しているアプリケーショングループ名を表示します。

【追加 (B)】 ボタン

【アプリケーショングループ名 (G)】 リストボックスに新規のアプリケーショングループ名を追加します。

【詳細設定 (E)】 ボタン

このボタンをクリックすると、アプリケーショングループ環境設定画面が表示されます。

アプリケーショングループ環境設定画面で行う詳細設定については、「2.3.1(1)(a) アプリケーショングループ環境設定」を参照してください。

【削除 (I)】 ボタン

リストボックスで選択されているアプリケーショングループを削除します。

アプリケーション間通信環境設定欄

【アプリケーション間通信サービス名 (P)】 リストボックス

TP1/Messaging で定義しているアプリケーション間通信サービスを表示します。

【追加 (J)】 ボタン

【アプリケーション間通信サービス名 (P)】 リストボックスに新規のアプリケーション間通信サービス名を追加します。

【詳細設定 (K)】 ボタン

このボタンをクリックすると、アプリケーション間通信環境の詳細設定画面が表示されます。

アプリケーション間通信環境設定画面での設定の詳細については、[「2.3.1\(1\)\(c\) アプリケーション間通信環境設定」](#)を参照してください。

【削除 (L)】 ボタン

リストボックスで選択されているアプリケーション間通信サービス名を削除します。

TCP/IP 通信環境設定欄

【TCP/IP 通信サービス名 (T)】 リストボックス

TP1/Messaging で定義している TCP/IP 通信サービスを表示します。

【追加 (M)】 ボタン

【TCP/IP 通信サービス名 (T)】 リストボックスに新規の TCP/IP 通信サービス名を追加します。

【詳細設定 (N)】 ボタン

このボタンをクリックすると、TCP/IP 通信サービス環境の詳細設定画面が表示されます。

TCP/IP 通信サービス環境設定画面での設定の詳細については、[「2.3.1\(1\)\(d\) TCP/IP 通信サービス環境設定」](#)を参照してください。

【削除 (O)】 ボタン

リストボックスで選択されている TCP/IP 通信サービス名を削除します。

【終了 (C)】 ボタン

MCF の環境設定を終了します。

設定内容が変更されている場合は、「定義内容変更確認メッセージ」のダイアログが表示されます。設定内容を変更して終了する場合は [はい (Y)] ボタンを、変更しないで終了する場合は [いいえ (N)] ボタンをクリックします。また、終了を取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

メニューバー

【ファイル (F)】 メニュー

このメニューから [終了 (C)] を選択すると、環境設定を終了します。

【ヘルプ (H)】 メニュー

このメニューから [バージョン情報] を選択すると、TP1/Messaging のバージョン情報が表示されます。

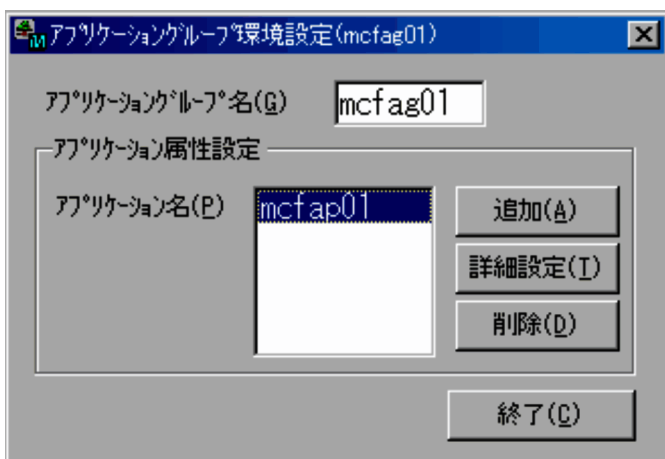
開始画面で設定する項目について、次の表に示します。

表 2-2 開始画面で設定する項目

項目名	指定値	対応する定義
アプリケーショングループ名	〈1~8文字の識別子〉 指定数：1~16	mcfagenv -a
	【mcfagnn】 (nn：整数)	
アプリケーション間通信サービス名	〈先頭が_mu で始まる 1~8文字の識別子〉 指定数：0~1	mcfteenv -a
	【_mupsnn】 (nn：整数)	
TCP/IP 通信サービス名	〈先頭が_mu で始まる 1~8文字の識別子〉 指定数：1~16	mcfteenv -a
	【_mutcnn】 (nn：整数)	

(a) アプリケーショングループ環境設定

開始画面のアプリケーショングループ環境設定欄でアプリケーショングループ名を選択したあと、[詳細設定 (E)] ボタンをクリックすると、アプリケーショングループ環境設定画面が表示されます。



アプリケーショングループ環境設定画面に表示されている項目を、次に示します。

[アプリケーショングループ名 (G)] テキストボックス

開始画面で選択したアプリケーショングループ名が表示されます。

アプリケーション名を変更したい場合は、テキストボックスに名称を直接入力します。アプリケーショングループ名には、英字の大文字と小文字の区別はありません。例えば mcfag01 と mcfAG01 は同じアプリケーショングループ名になります。

アプリケーション属性設定欄

[アプリケーション名 (P)] リストボックス

選択したアプリケーショングループに属するアプリケーション名を表示します。

【追加 (A)】 ボタン

アプリケーショングループに新しいアプリケーションを一つ追加します。リストボックスには、追加されたアプリケーション名が表示されます。

追加するアプリケーションには、該当するアプリケーショングループ内で重複しない名称（一意名）を付けてください。

【詳細設定 (T)】 ボタン

このボタンをクリックすると、リストボックスで選択されているアプリケーションのアプリケーション属性設定画面が表示されます。

アプリケーション属性設定画面の詳細については、「2.3.1(1)(b) アプリケーション属性設定」を参照してください。

【削除 (D)】 ボタン

リストボックスで選択されているアプリケーションを、該当するアプリケーショングループから削除します。

【終了 (C)】 ボタン

アプリケーショングループ環境設定を終了します。

アプリケーショングループ環境設定画面で設定する項目について、次の表に示します。

表 2-3 アプリケーショングループ環境設定画面で設定する項目

項目名	指定値	対応する定義
アプリケーショングループ名	<1~8文字の識別子>	mcfaenv -a
	【mcfagnn】 (nn: 整数)	
アプリケーション名	<1~8文字の識別子> 指定数: 1~64	mcfaalcap -n
	【mcfapnn】 (nn: 整数)	

(b) アプリケーション属性設定

アプリケーショングループ環境設定画面の [アプリケーション名 (P)] 欄でアプリケーション名を選択したあと、【詳細設定 (T)】 ボタンをクリックすると、アプリケーション属性設定画面が表示されます。

アプリケーション属性設定(mcfap01)

アプリケーション名(A)

アプリケーションの種別

ユーザのアプリケーション

MCFイベント

アプリケーションの型

応答型

非応答型

継続問い合わせ応答型

サービスグループ名(G)

サービス名(S)

トランザクション機能(T)

アプリケーション属性設定画面に表示されている項目について説明します。

[アプリケーション名 (A)] テキストボックス

アプリケーショングループ環境設定画面で選択したアプリケーション名を表示します。アプリケーション名を変更する場合は、このテキストボックスに新しいアプリケーション名を直接入力します。アプリケーション名には、英字の大文字と小文字の区別はありません。例えば mcfap01 と mcfAP01 は同じアプリケーション名になります。

[アプリケーションの種別] オプションボタン

[アプリケーション名 (A)] テキストボックスに表示されているアプリケーションの種別を表示します。種別を変更する場合は、この欄にあるオプションボタンの中から、選択する種別をクリックします。

[アプリケーションの型] オプションボタン

[アプリケーション名 (A)] テキストボックスに表示されているアプリケーションの型を表示します。型を変更する場合は、この欄にあるオプションボタンの中から、選択する種別をクリックします。ただし、TP1/Messaging では、応答型、および継続問い合わせ応答型は選択できません。

[サービスグループ名 (G)] テキストボックス

[アプリケーション名 (A)] テキストボックスに表示されているアプリケーションに対応するサービスが属するサービスグループ名を表示します。サービスグループ名を変更する場合は、このテキストボックスに新しいサービスグループ名を直接入力します。

[サービス名 (S)] テキストボックス

[アプリケーション名 (A)] テキストボックスに表示されているアプリケーションに対応するサービス名を表示します。サービス名を変更する場合は、このテキストボックスに新しいサービス名を直接入力します。

[トランザクション機能 (T)] チェックボックス

アプリケーションで、トランザクション機能を使用するかどうかを表示します。使用する場合は、ボックスにチェック (×印) を表示させ、使用しない場合は空白にします。チェック表示は、ボックスをクリックして行います。

[終了 (C)] ボタン

アプリケーション属性設定を終了し、アプリケーショングループ環境設定の画面に戻ります。

このボタンをクリックしたとき、アプリケーション属性設定の内容に誤りがある場合は、エラーメッセージのダイアログが表示されます。

エラーメッセージの内容を確認後、ダイアログ内の [OK] ボタンをクリックすると、ダイアログの表示が消え、アプリケーション属性設定画面に戻ります。

設定内容がすべて正しい場合は、アプリケーション属性設定を終了し、アプリケーショングループ環境設定の画面に戻ります。

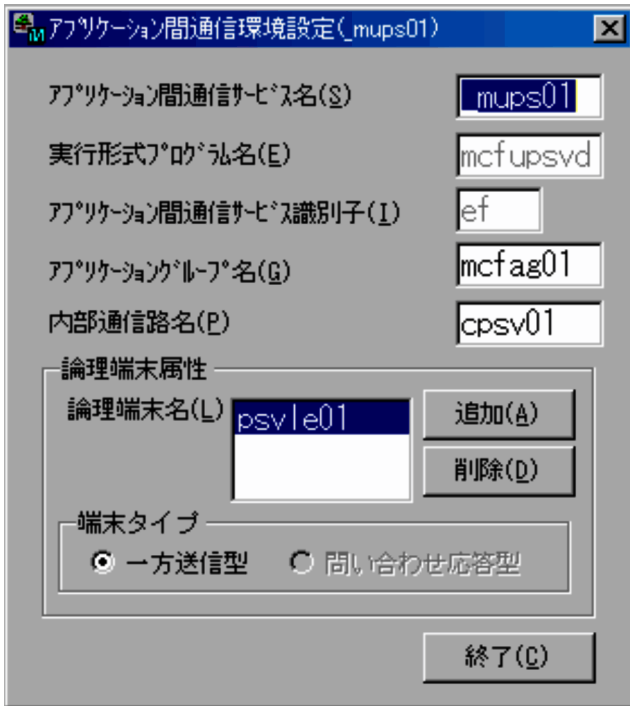
アプリケーション属性設定画面で設定する項目を次の表に示します。

表 2-4 アプリケーション属性設定画面で設定する項目

項目名	指定値	対応する定義
アプリケーション名	<1~8 文字の識別子>	mcfaalcap -n name
	【mcfapnn】 (nn : 整数)	
アプリケーションの種別	ユーザのアプリケーション MCF イベント (オプションボタンで選択)	mcfaalcap -n kind
アプリケーションの型	非応答型	mcfaalcap -n type
サービスグループ名	<1~31 文字の識別子>	mcfaalcap -g servgrpn
	【mhpsgnn】 (nn : 整数)	
サービス名	<1~31 文字の識別子>	mcfaalcap -v servname
	【mhpsvnn】 (nn : 整数)	

(c) アプリケーション間通信環境設定

開始画面のアプリケーション間通信環境設定欄でアプリケーション間通信サービス名を選択したあと、[詳細設定 (K)] ボタンをクリックすると、アプリケーション間通信環境設定画面が表示されます。



アプリケーション間通信環境設定画面に表示されている項目について説明します。

[アプリケーション間通信サービス名 (S)] テキストボックス

開始画面で選択したアプリケーション間通信サービス名と同じ名称を表示します。アプリケーション間通信サービス名を変更する場合は、このテキストボックスに新しいサービス名を直接入力します。アプリケーション間通信サービス名には、英字の大文字と小文字の区別はありません。例えば_mups01と_muPS01は同じアプリケーション間通信サービス名になります。

[実行形式プログラム名 (E)] テキストボックス

テキストボックスに表示されているアプリケーション間通信サービスの実行形式プログラム名を表示します。この名称は、変更できません。

[アプリケーション間通信サービス識別子 (I)] テキストボックス

テキストボックスに表示されているアプリケーション間通信サービスの識別子を表示します。この識別子は変更できません。

[アプリケーショングループ名 (G)] テキストボックス

テキストボックスに表示されているアプリケーション間通信サービスに対応するアプリケーショングループ名を表示します。アプリケーショングループ名を変更する場合は、このテキストボックスに新しい名称を直接入力します。

[内部通信路名 (P)] テキストボックス

テキストボックスに表示されているアプリケーション間通信サービスに対応する内部通信路名を表示します。内部通信路名を変更する場合は、このテキストボックスに新しい名称を直接入力します。

論理端末属性欄

【論理端末名 (L)】 リストボックス

テキストボックスに表示されているアプリケーション間通信サービスの論理端末名を表示します。
論理端末名は、変更できません。

このリストボックスには、最大二つの論理端末名を設定できます。

【追加 (A)】 ボタン

リストボックスに論理端末名を一つ追加します。

【削除 (D)】 ボタン

リストボックスから、選択されている論理端末名を削除します。

【端末タイプ】 オプションボタン

リストボックスで選択されている論理端末の端末タイプを表示します。

一方送信型だけ指定できます。

【終了 (C)】 ボタン

アプリケーション間通信環境設定を終了し、開始画面に戻ります。

このボタンをクリックしたとき、アプリケーション間通信環境設定の内容に誤りがある場合は、エラーメッセージのダイアログが表示されます。

エラーメッセージの内容を確認後、ダイアログ内の [OK] ボタンをクリックすると、ダイアログの表示が消え、アプリケーション間通信環境設定画面に戻ります。

設定内容がすべて正しい場合は、アプリケーション間通信環境設定を終了し、開始画面に戻ります。

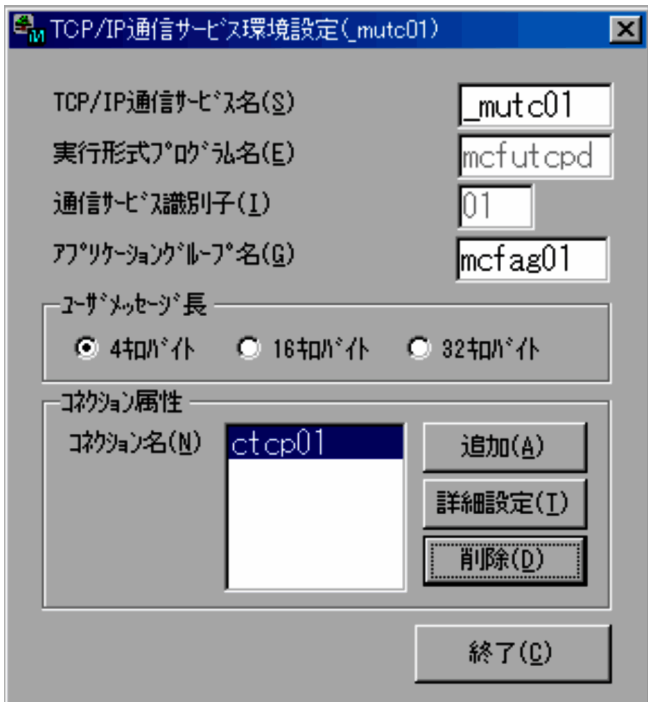
アプリケーション間通信環境設定画面で設定する項目を次の表に示します。

表 2-5 アプリケーション間通信環境設定画面で設定する項目

項目名	指定値	対応する定義
アプリケーション間通信サービス名	<_mu で始まる 1~8 文字の識別子>	定義オブジェクトファイル名
	【_mupsnn】 (nn: 整数)	
アプリケーショングループ名	<1~8 文字の識別子>	mcfteenv -a
	【mcfagnn】 (nn: 整数)	
内部通信路名	<1~8 文字の識別子>	mcftpsivr -c
	【cpsvnn】 (nn: 整数)	
論理端末名	<1~8 文字の識別子> 指定数: 1~2	mcfatalcle -l
	【psvlenn】 (nn: 整数)	
端末タイプ	一方送信型	mcfatalcle -t

(d) TCP/IP 通信サービス環境設定

開始画面の TCP/IP 通信環境設定欄で TCP/IP 通信サービス名を選択したあと、[詳細設定 (N)] ボタンをクリックすると、TCP/IP 通信サービス環境設定画面が表示されます。



TCP/IP 通信サービス環境設定画面に表示されている項目について説明します。

[TCP/IP 通信サービス名 (S)] テキストボックス

開始画面で選択した TCP/IP 通信サービス名と同じ名称を表示します。TCP/IP 通信サービス名を変更する場合は、このテキストボックスに新しいサービス名を直接入力します。TCP/IP 通信サービス名には、英字の大文字と小文字の区別はありません。例えば _mutc01 と _muTC01 は同じ TCP/IP 通信サービス名になります。

[実行形式プログラム名 (E)] テキストボックス

テキストボックスに表示されている TCP/IP 通信サービスの実行形式プログラム名を表示します。この名称は、変更できません。

[通信サービス識別子 (I)] テキストボックス

テキストボックスに表示されている TCP/IP 通信サービスの通信サービス識別子を表示します。この名称は、変更できません。

[アプリケーショングループ名 (G)] テキストボックス

テキストボックスに表示されている TCP/IP 通信サービスに対応するアプリケーショングループ名を表示します。アプリケーショングループ名を変更する場合は、このテキストボックスに新しい名称を直接入力します。

【ユーザメッセージ長】 オプションボタン

TCP/IP 通信サービスで 1 回に送受信するユーザメッセージの長さを表示します。ユーザメッセージ長を変更する場合は、オプションボタンの中からどれかを選択し、ボタンをオンにします。

コネクション属性欄

【コネクション名 (N)】 リストボックス

TCP/IP 通信サービスのコネクション名の一覧が表示されます。

【追加 (A)】 ボタン

TCP/IP 通信サービスに新しいコネクションを一つ追加します。リストボックスには、追加されたコネクション名が表示されます。

【詳細設定 (T)】 ボタン

このボタンをクリックすると、リストボックスで選択されているコネクションのコネクション属性設定画面が表示されます。

コネクション属性設定画面の詳細については、「2.3.1(1)(e) TCP/IP コネクション属性設定」を参照してください。

【削除 (D)】 ボタン

リストボックスで選択されているコネクションを削除します。

【終了 (C)】 ボタン

TCP/IP 通信サービス環境設定を終了し、開始画面に戻ります。

このボタンをクリックしたとき、TCP/IP 通信サービス環境設定の内容に誤りがある場合は、エラーメッセージのダイアログが表示されます。

エラーメッセージの内容を確認後、ダイアログ内の [OK] ボタンをクリックすると、ダイアログの表示が消え、TCP/IP 通信サービス環境設定画面に戻ります。

設定内容がすべて正しい場合は、TCP/IP 通信サービス環境設定を終了し、開始画面に戻ります。

TCP/IP 通信サービス環境設定画面で設定する項目を次の表に示します。

表 2-6 TCP/IP 通信サービス環境設定画面で設定する項目

項目名	指定値	対応する定義
TCP/IP 通信サービス名	<_mu で始まる 1~8 文字の識別子>	定義オブジェクトファイル名
	【_mutcnn】 (nn: 整数)	
アプリケーショングループ名	<1~8 文字の識別子>	mcfaenv -a
	【mcfagnn】 (nn: 整数)	
ユーザメッセージ長	4 キロバイト 16 キロバイト 32 キロバイト (オプションボタンで選択)	mcftbuf -g length
コネクション名	<1~8 文字の識別子> 指定数: 1~16	mcftalccn -c

項目名	指定値	対応する定義
コネクション名	【ctcpnn】 (nn：整数)	mcftalccn -c

(e) TCP/IP コネクション属性設定

TCP/IP 通信サービス環境設定画面の [TCP/IP 通信サービス名 (S)] テキストボックスで TCP/IP 通信サービス名を選択したあと, [詳細設定 (T)] ボタンをクリックすると, TCP/IP コネクション属性設定画面が表示されます。

TCP/IP コネクション属性設定画面に表示されている項目について説明します。

[コネクション名 (N)] テキストボックス

開始画面のコネクション属性欄で選択したコネクション名と同じ名称を表示します。コネクション名を変更する場合は, このテキストボックスに新しいコネクション名を直接入力します。コネクション名には, 英字の大文字と小文字の区別はありません。例えば ctcp01 と ctCP01 は同じコネクション名になります。

[論理端末名 (L)] テキストボックス

テキストボックスに表示されているコネクションに対応する論理端末名を表示します。論理端末名を変更する場合は, このテキストボックスに新しい論理端末名を直接入力します。

[アプリケーション名 (A)] テキストボックス

メッセージを受信した場合に起動するアプリケーション名を表示します。テキストボックスに、アプリケーション名を直接入力してください。なお、このテキストボックスの設定は省略できます。

[確立モード] オプションボタン

自システムのコネクション確立モードを表示します。確立モードを変更する場合は、オプションボタンの中から選択し、ボタンをオンにします。

[コネクションの自動確立] オプションボタン

自システムがクライアントの場合、OpenTP1 システム開始時にコネクションの自動確立をするかどうかを表示します。オプションボタンの中から選択し、ボタンをオンにします。なお、自システムがサーバの場合は、ボタンは選択できません。

[コネクションリプレースの使用] オプションボタン

自システムがサーバの場合に、コネクションリプレースを使用するかどうかを指定します。なお、自システムがクライアントの場合は、ボタンは選択できません。

自システム属性欄

[ポート番号] オプションボタン, [任意のポート番号] オプションボタン

自システムがサーバの場合に、ポート番号の属性を表示します。ポート番号の属性を変更する場合は、オプションボタンの中から選択し、ボタンをオンにします。

相手システム属性欄

[ホスト名称設定] テキストボックス

hosts ファイルに記述してある相手システムのホスト名称を表示します。ホスト名称を変更する場合は、テキストボックスに新しい名称を直接入力してください。

[IP アドレス指定] テキストボックス

相手システムの IP アドレスを直接入力してください。

ホスト名称、および IP アドレスは、該当するオプションボタンをオンにしてから指定します。

[ポート番号] オプションボタン, [ポート番号 Free] オプションボタン

ポート番号を選択したときに、相手システムのポート番号の属性を表示します。属性を変更する場合は、該当するオプションボタンを選択します。なお、[ポート番号 Free] オプションボタンは、自システムがサーバの場合だけ選択できます。

[終了 (C)] ボタン

TCP/IP コネクション属性設定を終了します。

このボタンをクリックしたとき、TCP/IP コネクション属性設定の内容に誤りがある場合は、エラーメッセージのダイアログが表示されます。

エラーメッセージの内容を確認後、ダイアログ内の [OK] ボタンをクリックすると、ダイアログの表示が消え、TCP/IP コネクション属性設定画面に戻ります。

設定内容がすべて正しい場合は、TCP/IP コネクション属性設定を終了し、TCP/IP 通信サービス環境設定画面に戻ります。

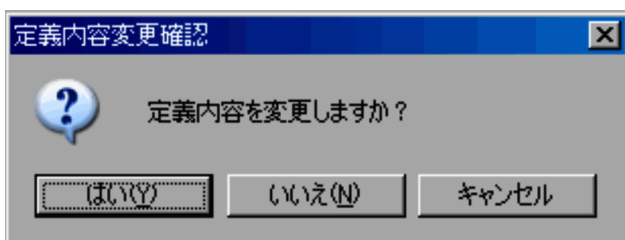
TCP/IP コネクション属性設定画面で設定する項目を次の表に示します。

表 2-7 TCP/IP コネクション属性設定画面で設定する項目

項目名	指定値	対応する定義
コネクション名	<1~8 文字の識別子>	mcftalccn -c
	【ctcpnn】 (nn : 整数)	
論理端末名	<1~8 文字の識別子>	mcftalcle -l
	【leidnn】 (nn : 整数)	
アプリケーション名	<1~8 文字の識別子>	mcftalcle -v
確立モード	サーバ クライアント (オプションボタンで選択)	mcftalccn -y
コネクションの自動確立	する しない (オプションボタンで選択)	mcftalccn -i
コネクションリプレースの使用	する しない (オプションボタンで選択)	mcftalccn -h chgconn
ポート番号 (自システム)	ポート番号 任意のポート番号 (オプションボタンで選択)	mcftalccn -r portno
	(ポート番号を選択した場合) <整数> ((1024~65535)) 【10001】	
ホスト名称	<255 文字以内のホスト名>	mcftalccn -o hostname
IP アドレス	<整数> ((0~255))	mcftalccn -o oipaddr
	【nnn.nnn.nnn.nnn】 (nnn : 整数)	
ポート番号 (相手システム)	ポート番号 ポート番号 free (オプションボタンで選択)	mcftalccn -o oportno
	(ポート番号を選択した場合) <整数> ((1~65535)) 【20001】	

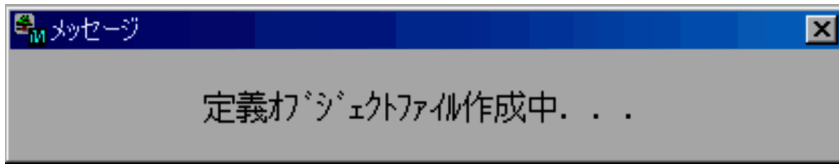
(f) 環境設定終了時の表示画面

MCF 環境設定を終了する場合は、開始画面の [終了 (C)] ボタンをクリックします。定義内容変更確認メッセージボックスが表示されます。



定義内容を変更する場合は [はい (Y)] ボタンを、変更しない場合は、[いいえ (N)] ボタンをクリックします。また、環境設定の終了を取りやめて開始画面に戻る場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

[はい (Y)] ボタンをクリックし、環境設定の内容に変更があった場合だけ、次の定義オブジェクト作成中を示す画面が表示されます。



定義オブジェクトの作成が終了した場合、または環境設定の内容に変更がない場合は、次に示す環境設定終了メッセージボックスが表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、環境設定がすべて終了します。



(g) バージョン情報の表示

環境設定時、メニューバーの [ファイル (F)] メニューから [バージョン情報] を選択すると、バージョン情報画面が表示されます。この画面には、次の情報が表示されます。

- TP1/Messaging のバージョンおよびリビジョン
- コピーライト
- ライセンス登録名 (OpenTP1 管理者の名前および会社名)

表示内容を確認し、[OK] ボタンをクリックすると、バージョン情報表示画面が終了し、環境設定画面に戻ります。

(h) 生成されるファイル

GUI の画面から MCF 環境設定をすると、設定内容に基づいて定義テキストファイルが生成されます。このファイルは、次回に GUI で MCF 環境設定をするときの、入力ファイルとなります。それぞれの設定画面には、定義テキストファイルの設定内容が、初期値として仮定されます。

MCF 環境設定で生成される定義テキストファイルの一覧を次の表に示します。

表 2-8 MCF 環境設定で生成される定義テキストファイル一覧

定義種別		定義ソースファイルパス名 (TEXTPATH=%DCCONFPATH%\mcfconf\text)
マネージャ定義		TEXTPATH\mng\mcfmng
アプリケーション定義		TEXTPATH\apl\アプリケーショングループ名
アプリケーション間通信サービス定義	通信構成定義共通部	TEXTPATH\psv\ccm\アプリケーション間通信サービス名※
	アプリケーション起動環境定義	TEXTPATH\psv\cpr\アプリケーション間通信サービス名※
TCP/IP 通信サービス定義	通信構成定義共通部	TEXTPATH\tcp\ccm\TCP/IP 通信サービス名※
	TCP/IP 定義	TEXTPATH\tcp\cpr\TCP/IP 通信サービス名※

注※

MCF 環境設定 GUI で指定した各通信サービス名称の先頭 '_' を削除した名称となります。

生成された定義テキストファイルは TP1/Messaging が提供する定義変換コマンドによって、定義オブジェクトファイルに変換されます。定義変換コマンドの詳細については、マニュアル「OpenTP1 システム定義」を参照してください。

MCF 環境設定で生成される定義オブジェクトファイルの一覧を次の表に示します。

表 2-9 MCF 環境設定で生成される定義オブジェクトファイル一覧

定義種別		定義変換コマンド名	定義オブジェクトファイルパス名 (OBJPATH=%DCCONFPATH%\mcfconf\obj)
マネージャ定義		mcfmng	OBJPATH\mng_mumng
アプリケーション定義		mcfapli	OBJPATH\apl\アプリケーショングループ名
アプリケーション間通信サービス定義	通信構成定義共通部	mcfcomn	OBJPATH\psv\ccm\アプリケーション間通信サービス名※
	アプリケーション起動環境定義	mcfpsv	OBJPATH\psv\cpr\アプリケーション間通信サービス名※
	上記の結合後ファイル	mcfliink	OBJPATH\psv\アプリケーション間通信サービス名
TCP/IP 通信サービス定義	通信構成定義共通部	mcfcomn	OBJPATH\tcp\ccm\TCP/IP 通信サービス名※
	TCP/IP 定義	mcftcp	OBJPATH\tcp\cpr\TCP/IP 通信サービス名※
	上記の結合後ファイル	mcfliink	OBJPATH\tcp\TCP/IP 通信サービス名

注※

MCF 環境設定 GUI で指定した各通信サービス名称の先頭 '_' を削除した名称となります。

定義オブジェクトファイルのうち、次に示す定義オブジェクトファイルについては、%DCCONFPATH%の下にも同じファイルが生成されます。

- OBJPATH¥mng¥_mumngr
- OBJPATH¥apl¥アプリケーショングループ名
- OBJPATH¥psv¥アプリケーション間通信サービス名
- OBJPATH¥tcp¥TCP/IP 通信サービス名

MCF 環境設定 GUI によって%DCCONFPATH%下に作成される定義関連ファイルの一覧を次の表に示します。これらのファイルが MCF 起動時の入力ファイルとなります。

表 2-10 MCF 環境設定時%DCCONFPATH%下に生成されるファイル一覧

定義関連ファイル種別	ファイル名
マネージャ定義オブジェクトファイル	_mumngr
アプリケーション定義オブジェクトファイル	アプリケーショングループ名
アプリケーション間通信サービス定義（結合）オブジェクトファイル	アプリケーション間通信サービス名
TCP/IP 通信サービス定義（結合）オブジェクトファイル	TCP/IP 通信サービス名

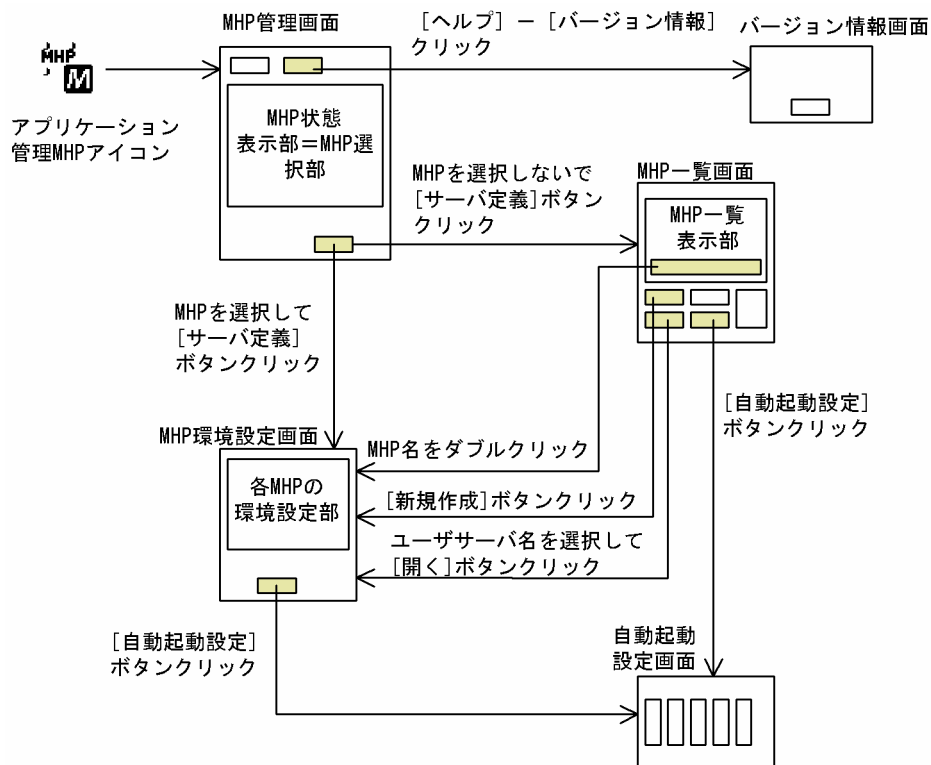
TP1/Messaging では、%DCCONFPATH%下に作成するマネージャ定義オブジェクトファイル名は、OBJPATH¥mng¥_mumngr 固定です。

GUI の画面を使用しないで環境設定する場合も、マネージャ定義オブジェクトファイル名は'_mumngr'としてください。

(2) MHP 環境設定

MHP 環境設定時の画面構成を次の図に示します。

図 2-4 MHP 環境設定時の画面構成



(a) MHP 管理

アプリケーション管理 MHP を起動すると、アプリケーション管理画面に MHP の状態が表示されます。



アプリケーション管理画面に表示されている項目について説明します。

メニューバー

[ファイル (F)] メニュー

このメニューから [終了] を選択すると、MHP の環境設定を終了します。

[ヘルプ (H)] メニュー

このメニューから [バージョン情報] を選択すると、TP1/Messaging のバージョン情報が表示されます。

MHP 状態表示部

MHP の状態を一覧で表示します。

表示されるのは、ユーザサーバ状態、ユーザサーバ名、サービスグループ名、および常駐・非常駐の区別です。

[サーバ定義 (E)] ボタン

MHP の環境を設定します。

新規に環境を設定する場合は、MHP 状態表示部からユーザサーバ名を選択しないで、このボタンをクリックします。クリック後、アプリケーション環境画面が表示されます。

すでに定義されている MHP の設定を変更する場合は、ユーザサーバ名を選択してから、ボタンをクリックしてください。MHP 環境設定画面が表示されます。

また、MHP の一覧を表示したい場合は、ユーザサーバ名を選択しないで、ボタンをクリックします。

MHP 環境設定画面での操作については、「2.3.1(2)(c) MHP 環境設定」を参照してください。

[終了 (C)] ボタン

MHP の環境設定を終了します。

アプリケーション管理画面では、上記以外にもボタンが表示されます。その他のボタンの説明については、「3.3 MHP のオペレーション」を参照してください。

(b) MHP 一覧表示

アプリケーション管理画面の [サーバ定義 (E)] ボタンをクリックすると、アプリケーション環境画面に、MHP の一覧が表示されます。



アプリケーション環境画面に表示されている項目について説明します。

MHP 一覧表示部

定義されている MHP ユーザーバ名、および MHP 環境設定画面の [コメント] で設定された内容を表示します。MHP 環境設定については、「2.3.1(2)(c) MHP 環境設定」を参照してください。

[新規作成 (N)] ボタン

MHP ユーザーバの環境設定画面を表示します。新規に MHP の環境を設定する場合は、このボタンをクリックします。

[開く (O)] ボタン

すでに設定されている MHP の環境を表示します。MHP 一覧表示部でユーザーバ名を選択してから、ボタンをクリックすると、MHP 環境設定画面が表示されます。MHP 環境設定画面については、「2.3.1(2)(c) MHP 環境設定」を参照してください。

[削除 (D)] ボタン

すでに設定されている MHP の環境を削除します。MHP 一覧表示部でユーザーバ名を選択してから、ボタンをクリックすると、該当する MHP の環境設定内容が削除されます。

[自動起動設定 (A)] ボタン

MHP ユーザーバの自動起動について、属性の表示および設定をします。ボタンをクリックすると、自動起動設定画面が表示されます。自動起動設定画面については、「2.3.1(2)(d) 自動起動設定」を参照してください。

[終了 (C)] ボタン

アプリケーション環境画面での設定を終了し、アプリケーション管理画面に戻ります。

(c) MHP 環境設定

アプリケーション環境画面で [新規作成 (N)] ボタンをクリックするか、またはユーザーバ名を選択してから [開く (O)] ボタンまたは [削除 (D)] ボタンをクリックすると、MHP 環境設定の画面が表示されます。

この画面では、MHP 環境の参照、設定、および削除ができます。

MHP 環境設定画面に表示されている項目について説明します。

[ユーザーバ名 (U)] テキストボックス

環境を設定したい MHP のユーザーバ名を表示します。ユーザーバを変更したい場合は、このテキストボックスに該当するユーザーバ名を直接入力します。ユーザーバ名には、英字の大文字と小文字の区別はありません。小文字で指定しても、すべて大文字で管理されます。

[サービスグループ名 (G)] テキストボックス

[ユーザーバ名 (U)] テキストボックスに表示されている MHP のサービスグループ名を表示します。サービスグループを変更したい場合は、このテキストボックスに該当するサービスグループ名を直接入力します。

[プログラム名 (P)] テキストボックス

[ユーザーバ名 (U)] テキストボックスに表示されている MHP のプログラム名を表示します。プログラムを変更したい場合は、このテキストボックスに該当するプログラム名を直接入力します。

プロセス数欄

[常駐 (R)] ボックス、および [非常駐 (N)] ボックス

MHP の実行プロセスのうち、常駐プロセスおよび非常駐プロセスの数をそれぞれ表示します。ボタンをクリックして値を表示させるか、またはボックスに直接入力します。

優先順位欄

[プロセス (M)] ボックス、および [スケジュール (H)] ボックス

MHP を実行する場合、プロセスおよびスケジュールの優先順位をそれぞれ表示します。ボタンをクリックして値を表示させるか、またはボックスに直接入力します。

スケジュール情報欄

[サービス滞留件数 (Q)] ボックス

MHP を実行する場合に、常駐プロセスで処理するサービス要求の、スケジュール待ち最大数を表示します。ボタンをクリックして値を表示させるか、またはボックスに直接入力します。サービス滞留件数がここで指定した値を超えると、非常駐プロセスが起動されます。

[トランザクション機能 (T)] チェックボックス

MHP で、トランザクション機能を使用するかどうかを表示します。使用する場合は、ボックスにチェック (×印) を表示させ、使用しない場合は、空白にします。チェック表示は、ボックスをクリックして行います。

登録するサービス欄

[登録するサービス] リストボックス

MHP に登録されているサービス名と、エントリポイント名の一覧を表示します。

[サービス名 (S)] テキストボックス

MHP に登録、または MHP から削除するサービス名を表示します。サービス名は、キーボードから直接入力してください。

[エントリポイント名 (E)] テキストボックス

MHP に登録、または MHP から削除するエントリポイント名を表示します。エントリポイント名は、キーボードから直接入力してください。

[設定 (J)] ボタン

[サービス名 (S)] テキストボックスおよび [エントリポイント名 (E)] テキストボックス内にある名称を、MHP として登録します。

[削除 (K)] ボタン

[サービス名 (S)] テキストボックスおよび [エントリポイント名 (E)] テキストボックス内にある名称を、MHP の登録から削除します。

ユーザサーバの環境変数欄

[グローバル] リストボックス

MHP のグローバル環境変数を表示します。

[ローカル] リストボックス

MHP のローカル環境変数を表示します。

[変数 (Y)] テキストボックス

MHP の環境変数として設定、または削除する変数名を表示します。変数名は、キーボードから直接入力してください。

[値 (Z)] テキストボックス

MHP の環境変数として設定、または削除する変数の値を表示します。値は、キーボードから直接入力してください。

【設定 (W)】 ボタン

【変数 (Y)】 テキストボックスおよび 【値 (Z)】 テキストボックス内にある値を、MHP の環境変数として設定します。

【削除 (X)】 ボタン

【変数 (Y)】 テキストボックスおよび 【値 (Z)】 テキストボックス内にある値を、MHP の環境変数から削除します。

【初期値設定 (I)】 ボタン

次に示す項目を初期値（標準値）に戻します。

- プロセス数欄
- 優先順位欄
- スケジュール情報欄
- 【トランザクション機能 (T)】 チェックボックス

【自動起動設定 (A)】 ボタン

MHP ユーザーバの自動起動について、属性の表示および設定をします。ボタンをクリックすると、自動起動設定画面が表示されます。自動起動設定画面については、「[2.3.1\(2\)\(d\) 自動起動設定](#)」を参照してください。

【開く (O)】 ボタン

【ユーザーバ名 (U)】 テキストボックスに設定されている MHP の環境設定の内容を表示します。

【削除 (D)】 ボタン

【ユーザーバ名 (U)】 テキストボックスに表示されている MHP の環境設定の内容を削除します。

【上書き保存 (V)】 ボタン

表示されている環境設定内容を、【ユーザーバ名 (U)】 テキストボックスに表示されている MHP の環境として保存します。

【終了 (C)】 ボタン

MHP の環境設定を終了し、この画面を表示する前の画面に戻ります。

このボタンをクリックしたとき、表示されている MHP 環境設定の内容が保存されていない場合は、保存確認のダイアログが表示されます。ダイアログ内の【はい (Y)】 ボタンをクリックすると、設定内容を保存して終了します。【いいえ (N)】 ボタンをクリックすると、設定内容を保存しないで、MHP 環境設定画面を表示する前の画面に戻ります。

MHP 環境設定画面で設定する項目を次の表に示します。

表 2-11 MHP 環境設定画面で設定する項目

項目名	指定値	対応するユーザーサービス定義項目
ユーザーバ名	(1~8 文字の識別子)	ユーザーサービス定義ファイル名
サービスグループ名	(1~31 文字の識別子)	service_group

項目名		指定値	対応するユーザサービス定義項目
プログラム名		〈1～14文字の識別子〉	module
プロセス数※	常駐	〈符号なし整数〉 ((0～128)) 【1】	parallel_count
	非常駐	〈符号なし整数〉 ((0～128)) 【0】	
優先順位	プロセス	〈符号なし整数〉 ((0～39)) 【0】	nice
	スケジュール	〈符号なし整数〉 ((1～16)) 【8】	schedule_priority
スケジュール情報	サービス滞留件数	〈符号なし整数〉 ((0～512)) 【3】	balance_count
トランザクション機能		【オフ】	atomic_update
登録するサービス	サービス名エントリポイント名	〈1～31文字の識別子〉	service
ユーザサーバの環境変数	ローカル変数値	〈1～63文字の英数字〉	環境変数名 環境変数値
	グローバル変数値	〈1～63文字の英数字〉	ユーザサービスデフォルト定義の環境変数名 ユーザサービスデフォルト定義の環境変数値

注※

MHP の環境設定で定義した MHP プロセスの数を、TP1/LiNK のシステム環境設定画面の [サーバ数] 欄内の [SPP (P)] 欄で設定する SPP プロセス数に加えてください。

(d) 自動起動設定

アプリケーション環境画面、または MHP 環境設定画面で、[自動起動設定] ボタンをクリックすると、自動起動設定画面が表示されます。この画面では、あらかじめ環境設定されている MHP ユーザサーバについて、属性の表示、および自動起動順位の設定をします。



自動起動設定画面に表示されている項目について説明します。

[自動起動あり] リストボックス

自動起動する MHP ユーザサーバ名を一覧で表示します。

リストボックスは、優先順位別に、1 番目から 5 番目までに分かれています。これらのボックスは、TP1/LiNK 起動時に、該当する MHP ユーザサーバが、ユーザサーバ内で何番目に自動起動されるかを示します。表示内容を次に示します。

- 1 番目：優先順位 1 番で起動される MHP ユーザサーバ名
- 2 番目：優先順位 2 番で起動される MHP ユーザサーバ名
- 3 番目：優先順位 3 番で起動される MHP ユーザサーバ名
- 4 番目：優先順位 4 番で起動される MHP ユーザサーバ名
- 5 番目：優先順位 5 番で起動される MHP ユーザサーバ名

[自動起動なし] リストボックス

TP1/LiNK 起動時に自動起動しない MHP ユーザサーバ名を一覧で表示します。

MHP ユーザサーバの自動起動の属性、または自動起動の優先順位を変更する場合は、該当する MHP ユーザサーバ名をドラッグし、変更したい属性のリストボックスへドロップしてください。移動した MHP ユーザサーバ名の属性または優先順位は、自動的に変更されます。

[上書き保存 (V)] ボタン

自動起動設定画面に表示されている設定内容を保存します。

[終了 (C)] ボタン

自動起動設定を終了し、この画面を表示する前の画面に戻ります。

(e) バージョン情報の表示

環境設定時、メニューバーの [ファイル (F)] メニューから [バージョン情報] を選択すると、バージョン情報画面が表示されます。

表示内容の詳細については、「2.3.1(1)(g) バージョン情報の表示」を参照してください。

(f) 生成されるファイル

ユーザサービス定義テキストファイル

GUI の画面から MHP 環境設定を行うと、設定内容に基づいて%DCONFPATH%に定義テキストファイルが作成されます。また、これらの定義テキストファイルは、次回に環境設定 GUI を起動したときの入力ファイルになるため、定義テキストファイルの設定内容が、MHP 環境設定の GUI 画面の初期値として仮定されます。

MHP ユーザサーバ用スタブソースファイル

GUI の画面から MHP 環境設定を行うと、設定内容に基づいて、MHP ユーザサーバ別にスタブソースファイルが生成されます。スタブソースファイルは、%DCDIR%\%APLIB ディレクトリに、×××_sstb.c という名称で生成されます。×××は MHP ユーザサーバ名を示します。

MHP 用のアプリケーションの実行形式ファイル名を作成する場合は、上記のスタブソースファイルを C 言語のコンパイラでコンパイルし、MHP 用のアプリケーションのオブジェクトファイルとリンケージさせてください。

ユーザサービス構成定義テキストファイル

MHP 環境設定の自動起動設定画面から自動起動設定を行うと、設定内容に基づいて%DCONFPATH%にあるユーザサービス構成定義テキストファイル (usrconf) が更新されます。

ユーザサービスデフォルト定義テキストファイル

MHP 環境設定の MHP 環境設定画面からグローバル変数の設定を行うと、設定内容に基づいて%DCONFPATH%にあるユーザサービスデフォルト定義テキストファイル (usrrc) が更新されます。

2.3.2 定義ソースファイル編集による環境設定

TP1/Messaging では、GUI を使用しないで環境設定ができます。GUI を使用しない場合は、テキストエディタで定義ソースファイルを直接編集します。テキストエディタで編集できる定義ソースファイルの一覧を表 2-12 および表 2-13 に示します。

表 2-12 GUI が生成する定義ソースファイル一覧

定義種別	定義ソースファイル	定義生成先ディレクトリ	定義格納ディレクトリ	編集方法
MCF 環境設定 GUI が生成する定義 ソースファイル	マネージャ定義	表 2-8 参照	%DCONFPATH%※	◎
	アプリケーション定義	表 2-8 参照	%DCONFPATH%※	◎

定義種別	定義ソースファイル		定義生成先ディレクトリ	定義格納ディレクトリ	編集方法
MCF 環境設定 GUI が生成する定義ソースファイル	アプリケーション間通信サービス定義	通信構成定義共通部	表 2-8 参照	%DCCONFPATH%※	◎
		アプリケーション起動環境定義	表 2-8 参照	%DCCONFPATH%※	◎
	TCP/IP 通信サービス定義	通信構成定義共通部	表 2-8 参照	%DCCONFPATH%※	◎
		TCP/IP 定義	表 2-8 参照	%DCCONFPATH%※	◎
MHP 環境設定 GUI が生成する定義ソースファイル	ユーザサービス定義		%DCCONFPATH%	○	

(凡例)

- ◎：GUI が生成した定義ソースファイルを編集するか、またはユーザが作成した定義ソースファイルを編集してください。
- ：GUI が生成した定義ソースファイルを編集してください。

注※

編集後の定義ソースファイルから作成した定義オブジェクトファイルをこのディレクトリに格納してください。

表 2-13 GUI が生成しない定義ソースファイル一覧

定義種別	定義ソースファイル	定義格納ディレクトリ
インストールされる定義ソースファイル	システムサービス共通情報定義	%DCDIR%¥Lib¥sysconf※
ユーザが作成する定義ソースファイル	MCF性能検証用トレース定義	%DCCONFPATH%
	リアルタイム取得項目定義	%DCCONFPATH%

注※

このディレクトリの定義ソースファイルを編集してください。

< MCF 環境設定 GUI が生成する定義ソースファイルについて >

マネージャ定義、アプリケーション定義、アプリケーション間通信サービス定義、および TCP/IP 通信サービス定義は、GUI の画面から MCF 環境設定をした場合、定義生成先ディレクトリに自動的に生成されます。これらのファイルは、直接、またはファイルコピー後に変更できます。

ただし、GUI が生成した定義ソースファイルをテキストエディタで直接編集した場合は、それ以降の MCF 環境設定は、GUI からは行えません。定義ソースファイル編集によって行ってください。また、アプリケーション定義ソースファイルをテキストエディタで直接編集すると、アプリケーション管理画面の内容が不正になるおそれがあります。

< MHP 環境設定 GUI が生成する定義ソースファイルについて >

ユーザサービス定義は、GUI の画面から MHP 環境設定をした場合、定義生成先ディレクトリに自動的に生成されます。このファイルは、直接またはファイルコピー後に変更できます。

ただし、GUI が生成した定義ソースファイルをテキストエディタで直接編集した場合は、それ以降の MHP 環境設定は、GUI からはできません。定義ソースファイル編集によって行ってください。

注意事項

テキストエディタでユーザサービス定義を直接編集する場合の注意

- MHP でサービス関数動的ローディング機能を使用する場合だけにしてください。UAP 共有ライブラリ名の指定方法については、マニュアル「TP1/LiNK 使用の手引」を参照してください。
- GUI が生成したユーザサービス定義を編集してください。そうでない場合は、MHP ユーザサーバを起動できなくなるおそれがあります。
- 編集可能な項目は表 2-11（ユーザサーバ名は除きます）および表 2-21 で示している項目だけです。
- エントリポイント名を変更した場合は、変更後のエントリポイント名に対応するスタブソースファイルを作成してください。スタブソースファイルの作成方法については、マニュアル「OpenTP1 使用の手引 Windows(R)編」を参照してください。

< GUI が生成しない定義ソースファイルについて >

システムサービス共通情報定義は、TP1/Messaging のインストール時に定義格納ディレクトリに配置されます。これらのファイルは、直接、変更できます。MCF 性能検証用トレース定義およびリアルタイム取得項目定義は、ユーザが作成してください。

TP1/Messaging で設定できる定義項目の一覧を、表 2-14～表 2-18 および表 2-21～表 2-24 に示します。ここに示す値は、GUI の画面に設定される値と異なります。また、TP1/Messaging の定義変換コマンドの一覧を表 2-19 に、定義オブジェクトファイルの一覧を表 2-20 に示します。

なお、環境設定の各定義ソースファイルの作成方法の詳細については、マニュアル「OpenTP1 システム定義」、および「OpenTP1 プロトコル TP1/NET/TCP/IP 編」を参照してください。

表 2-14 定義設定項目一覧 (MCF マネジャ定義)

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
MCF 環境定義	mcfmenv	-m	name	MCF サービス(マネジャ)名	<1~8 文字の識別子>
MCF 共通定義	mcfmcomm	-n	-	通番を使用する論理端末数	((0~2048))《0》
		-p	-	MCF 作業領域長※1	((100~2000000))
MCF 通信サービス定義	mcfmcname 指定数: 1~239	-s	mcfsvname	MCF 通信サービス名	<1~8 文字の英数字>
			sysssvname	システムサービス情報定義ファイル名※2	<1~8 文字の識別子>

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
UAP 共通定義	mcfmuap	-d	-	MHP がトランザクション処理中に発行する通信関数の発行回数の上限值	((0~65535)) 《0》
		-t	sndtim	同期型送信監視時間	((0~65535)) 《0》 (単位：秒)
			sndrcvtim	同期型送受信監視時間	((0~65535)) 《0》 (単位：秒)
			recvtim	同期型受信監視時間	((0~65535)) 《0》 (単位：秒)
		-e	segsize	エラーイベント処理用 MHP 起動時、またはアプリケーション起動機能使用時の最大セグメント長	((512~2147483647)) 《512》
		-l	initseq	通番の初期値	((0~2147483647)) 《1》
			maxseq	ラップ時の通番の最大値	((0~2147483647)) 《65535》
			minseq	ラップ後の通番の開始値	((0~1)) 《1》
		-u	ntmetim	非トランザクション MHP 限界経過時間	((0~65535)) 《0》 (単位：秒)
		-a	delaytim	アプリケーション起動時の遅延許容時間	((0~360)) 《0》 (単位：分)
		-c	order	メッセージ送信順序および再送順序ならびにアプリケーション起動順序の選択	function 《commit》
			noansreply ^{※3}	非応答型の MHP からの問い合わせ応答をしないかどうかを指定	yes 《no》
			otqinhold	出力キューの入力保留中の動作を指定	《commit》 function
		-r	reschedulecnt ^{※3}	アプリケーション異常終了時の再スケジュール回数	〈符号なし整数〉 ((0~3)) 《0》 (単位：回)
			rescheduleint ^{※3}	アプリケーション異常終了時の再スケジュール間隔	〈符号なし整数〉 ((0~3)) 《0》 (単位：秒)
reschedulelog ^{※3}	異常終了したアプリケーションを再スケジュールするときに、ログ		yes 《no》		

定義コマンド		オプション	オペラント	定義内容	指定値
UAP 共通定義	mcfmuap	-r	reschedule log ※3	メッセージを出力するかどうかを指定	yes 《no》
ログメッセージ出力抑止定義	mcfmsmsg	-m※3	-	ログファイルへの出力を抑止するメッセージ ID	〈符号なし整数〉 (10000~19999, 28000~29999)
サービスグループ属性定義	mcfmsgv 指定数：0~8192	-g	servgrpn※3	サービスグループ名	〈1~31 文字の識別子〉
		-w	watchcnt※3	入力キューの滞留監視数	〈符号なし整数〉 (0~65535) 《0》
			watchint※3	入力キューの滞留監視インタバル時間	〈符号なし整数〉 (5~3600) 《10》 (単位：秒)
			expectcnt※3	MHP に期待するサービス要求の処理数	〈符号なし整数〉 (1~65535)
			abort※3	MHP の処理能力不足時の OpenTP1 システムのダウン可否	yes 《no》

(凡例)

-：該当する項目はありません。

注※1

資源自動見積もり機能で共用メモリ所要量を算出しますので、-p オプションの指定値は無視しますが、指定値の欄に示す値を指定しておく必要があります。

注※2

TP1/Messaging では、システムサービス情報定義は自動的にインストールされます。sysvname オペラントには、次の名称を指定してください。

- ・TCP/IP 通信サービスの場合：mcfutcpd
- ・アプリケーション間通信サービスの場合：mcfupsvd

注※3

このオプションまたはオペラントを指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

表 2-15 定義設定項目一覧 (MCF アプリケーション定義共通部)

定義コマンド		オプション	オペラント	定義内容	指定値
アプリケーション環境定義	mcfenv	-a	-	MCF アプリケーション定義識別子	〈1~8 文字の識別子〉
		-p	-	アプリケーション起動プロセス識別子	ef

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
アプリケーション属性定義	mcfaalcap 指定数：1～64 または1～8192※4	-n	name	アプリケーション名	<1～8文字の識別子>
			kind	アプリケーション種別	《user》 mcf
			type	アプリケーションの型	ans※5 《noans》
			aplihold	アプリケーション異常終了時のアプリケーションの処置	《m》 a s
			msgcnt	入力メッセージの最大格納数	((0～65535)) 《0》
			lname	アプリケーション起動機能使用時の内部通信路上の論理端末名称	<1～8文字の識別子>
			cname	アプリケーション起動機能使用時の内部通信路名	<1～8文字の識別子>
			trnmode	アプリケーションのトランザクション属性	《trn》 nontrn
			errevt※6	通信イベント障害時のエラーイベントを通知するかどうかを指定	yes 《no》
		replychk※6	応答送信チェックをするかどうかを指定	《yes》 no	
		-N	modelname※6	モデルアプリケーション名、またはモデルMCFイベント名	<1～8文字の識別子>
		-g	servgrp	アプリケーションのサービスグループ名	<1～31文字の識別子>
			srgvhold	アプリケーション異常終了時のサービスグループの処置	《m》 s
		-v	servname	アプリケーション名に対応するサービス名	<1～31文字の識別子>
			servhold	アプリケーション異常終了時のサービスの処置	《m》 a s
			ntmetim	非トランザクションMHP限界経過時間※1	((0～65535)) (単位：秒)
		-d	holdlimit	アプリケーション異常終了時限界回数※2	((1～65535)) 《1》
			holdmtyp	アプリケーション異常終了回数カウント方法※3	sum 《cont》
			reschedulecnt※6	アプリケーション異常終了時の再スケジュール回数	<符号なし整数> ((0～3)) (単位：回)

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
アプリケーション属性定義	mcfaalcap 指定数：1～64 または1～8192※4	-d	rescheduleint ※6	アプリケーション異常終了時の再スケジュール間隔	〈符号なし整数〉 (0～3) (単位：秒)
			reschedulelog ※6	異常終了したアプリケーションを再スケジュールするときに、ログメッセージを出力するかどうかを指定	yes no
		-e	evtlogout※6	ERREVT1～ERREVT4を起動するとき、ログメッセージを出力するかどうかを指定	yes 《no》

(凡例)

－：該当する項目はありません。

注※1

アプリケーション属性定義の-n trnmode で nontrn を指定した場合だけ有効です。

注※2

アプリケーション属性定義の-n aplihold, または-v servhold のどちらかで a を指定した場合だけ有効です。

注※3

アプリケーション属性定義の-d holdlimit に対応しています。

注※4

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしていない場合：1～64

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしている場合：1～8192

注※5

type オペランドに ans を指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

注※6

このオペランドを指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

表 2-16 定義設定項目一覧 (MCF 通信構成定義共通部)

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
MCF 環境定義	mcftenv	-s	-	MCF 通信プロセス識別子, またはアプリケーション起動プロセス識別子	((01～ee)) (アプリケーション起動プロセス識別子の場合：ef)
		-a	-	MCF アプリケーション定義オブジェクトファイル名	〈1～8 文字の識別子〉
MCF 通信構成共通定義	mcftconn	-	-	-	-

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
最大処理多重度定義	mcfttred	-m	-	最大処理多重度 (並行処理メッセージ数)	((1~10)) 《10》
タイマ定義	mcfttim	-t	btim	時間監視間隔	((1~60)) 《1》 (単位：秒)
			mtim	未処理送信メッセージ滞留時間	((60~65535)) 《180》 (単位：秒)
			rmtim	未処理受信メッセージ滞留時間	((0~65535)) 《0》 (単位：秒)
		-p	usertime	ユーザタイマ監視機能を使用するかどうかを指定	yes 《no》
			timereqno	最大タイマ監視要求数	〈符号なし整数〉 ((1~10000)) 《16》
			msgsize	最大メッセージ長	〈符号なし整数〉 ((0~256)) 《0》 (単位：バイト)
			msgout	メッセージを出力するかどうかを指定	yes 《no》
		トレース環境定義	mcfttrc	-t	size
disk	MCF トレースのディスク出力機能を使用するかどうかを指定				《yes》 no
bufcnt	MCF トレースバッファの数				((10~2147483647)) 《100》
trccnt	MCF トレースファイルの数				(3~99) 《3》
msgsize	トレースとして取得する送受信メッセージの最大サイズ				((0~1073741824)) 《128》 (単位：バイト)
-m	-			MCF トレースファイルの数を越えたときの処置	《del》 off
バッファグループ定義	mcftbuf 指定数：0 または 1~512 ※2	-g	groupno	メッセージ送信用およびメッセージ編集用バッファグループ番号	((1~512))
			length	メッセージ送信用およびメッセージ編集用バッファ長	((512~1073741824)) (単位：バイト)
			count	メッセージ送信用およびメッセージ編集用バッファ数	((1~65535))

(凡例)

- : 該当する項目はありません。

注※1

このオプションを指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

注※2

アプリケーション起動プロセスの場合 : 0

MCF 通信プロセスの場合 : 1~512

表 2-17 定義設定項目一覧 (アプリケーション起動環境定義)

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
アプリケーション起動環境定義	mcftpsvr	-c	-	内部通信路名	<1~8 文字の識別子>
論理端末定義	mcftalcle	-l	-	論理端末名称	<1~8 文字の識別子>
		-t	-	この論理端末の端末タイプ	send request*
アプリケーション起動環境定義の終了	mcftped	-	-	アプリケーション起動環境定義の終了	-

(凡例)

- : 該当する項目はありません。

注※

-t オプションに request を指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

表 2-18 定義設定項目一覧 (MCF 通信構成定義 TCP/IP 固有部)

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
コネクション定義の開始	mcftalccn 指定数 : 1~16 または 1~300 *1	-c	-	コネクション ID	<1~8 文字の識別子>
		-N	modelName*2	モデルコネクション ID	<1~8 文字の識別子>
		-p	-	プロトコルの種別	<tcp>
		-g	sndbuf	メッセージ送信用バッファグループ番号	((1~512))
			rcvbuf	メッセージ受信用バッファグループ番号	((1~512))
		-i	-	システム開始時および再開時にコネクションを自動的に確立するかどうか	auto 《manual》

定義コマンド		オプション	オペランド	定義内容	指定値
コネクション定義の開始	mcfatalccn 指定数：1～16 または 1～300 ※1	-b	bretry	コネクション確立時に障害が発生した場合にコネクション確立再試行をするかどうか	《yes》 no
			bretrycnt	コネクション確立再試行回数	((0～65535)) 《0》 【10】 ※3
			bretryint	コネクション確立再試行の時間間隔	((0～2550)) 《60》 (単位：秒)
		-w	srtimout	コネクション切断抑止をするかどうかを指定	yes 《no》
		-t	-	トランスポート層のプロトコルの種別	tcp
		-y	mode	クライアントとサーバの種別	client server
		-r	portno	自システムのポート番号	((1024～65535)) 《0》
		-o	ohostname	相手システムのホスト名	〈1～255 文字のホスト名〉
			oipaddr	相手システムのホストの IP アドレス	〈符号なし整数〉 ((0～255)) (nnn.nnn.nnn.nnn)
			oportno	相手システムのホストのポート番号	((1～65535)) 〈free〉
		-k	keepalive	キープアライブ	yes 《no》
			nodelay※2	ソケットオプション「TCP_NODELAY」を使用するかどうかを指定	yes 《no》
			notrftime※2	無通信状態監視時間	符号なし整数 ((0～65535)) 《0》 (単位：秒)
		-f	kind	相手局からのコネクション解放の通知	《ccls》 cerr
			cnrelease※2	コネクション解放形態	《fin》 rst
			release log	コネクション解放時のログメッセージの形式	1 《2》
			cnerr log	障害によるコネクション切断時のログメッセージの形式	1 《2》
		-A	mastercn※4	現用コネクション ID	〈1～8 文字の識別子〉

定義コマンド		オプション	オペラント	定義内容	指定値	
コネクション定義の開始	mcftalccn 指定数：1~16 または1~300 ※1	-u	masm	受信メッセージ組み立て機能の使用※5	《yes》 no	
			ntimer	後続セグメント受信の監視タイマ	《yes》 no	
			ntime	後続セグメント受信の監視タイマ値	((1~2550)) 《30》 (単位：秒)	
			delichk※2	メッセージ送達確認機能を使用するかどうかを指定	dccm2m dccm2s dccm3m dccm3s 《nouse》	
		-h		addrchk※2	相手アドレス情報のチェックをするかどうかを指定	《yes》 no※6
				chgconn	コネクションリプレース使用の有無	replace 《keep》
				listen※2	オンライン開始時から自動的にコネクション確立要求を受け付けるかどうかを指定	《auto》 manual
		-l		replymsg※2	問い合わせ応答形態および継続問い合わせ応答形態のメッセージ送受信を行うかどうかを指定	yes 《no》
				cnassign※2	相手からのコネクション確立要求時にコネクションを割り当てる対象の選択	《freeonly》 all
論理端末定義	mcftalcle 指定数：1~16 または1~300 ※1	-l	-	論理端末名称	〈1~8文字の識別子〉	
		-N	modelname※2	モデル論理端末名称	〈1~8文字の識別子〉	
		-t	-	論理端末の端末タイプ	any	
		-i	-	論理端末の起動方法	《auto》 manual	
		-v	-	アプリケーション名	〈1~8文字の識別子〉	
		-d	replacemsg※2	コネクション再確立時に未送信メッセージを送信するかどうかを指定 (コネクション再確立時の未送信メッセージの送信抑止機能を使用するかどうかを指定)	《send》 discard	
コネクション定義の終了	mcftalced 指定数： mcftalccn と 同数	-	-	コネクション定義の終了	-	

(凡例)

- : 該当する項目はありません。

注※1

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしていない場合：1~16

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしている場合：1~300

注※2

このオペランドを指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

注※3

GUI によって生成される定義には自動的に 10 が設定されます。

注※4

このオペランドを指定する場合、TP1/NET/High Availability が必要です。

注※5

TP1/Messaging では UOC 機能をサポートしません。

注※6

TP1/Messaging ではコネクション確立 UOC をサポートしないため、addrchk オペランドに no を指定した場合、未確立コネクションがあれば必ずコネクション確立要求を受け入れます。必要に応じて、ネットワーク機器などによるアクセス制限を検討してください。

表 2-19 定義変換コマンド一覧

定義種別	定義変換コマンド名	
MCF マネージャ定義	mcfmgr	
MCF アプリケーション定義	mcfapli	
アプリケーション間通信サービス定義	通信構成定義共通部	mcfcomn
	アプリケーション起動環境定義	mcfpsvr
	結合	mcfliink
TCP/IP 通信サービス定義	通信構成定義共通部	mcfcomn
	TCP/IP プロトコル定義	mcftcp
	結合	mcfliink

表 2-20 定義オブジェクトファイル一覧

定義オブジェクトファイル種別	定義オブジェクトファイル名
マネージャ定義オブジェクトファイル※	_mumngr
アプリケーション定義オブジェクトファイル	1~8 文字の識別子
アプリケーション間通信サービス定義オブジェクトファイル	_mu で始まる 1~8 文字の識別子
TCP/IP 通信サービス定義オブジェクトファイル	_mu で始まる 1~8 文字の識別子

注※

TP1/Messaging では、マネージャ定義オブジェクトファイル名は必ず'_mumngr'としてください。異なる名称を指定した場合、TP1/LiNK 起動後に引き続いて TP1/Messaging が自動起動されません。

表 2-21 定義設定項目一覧（ユーザサービス定義）

形式	オペランド	定義内容	指定値
set	service	UAP 共有ライブラリ名*	〈1~255 文字のパス名〉

注※

この定義内容を指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

表 2-22 定義設定項目一覧（システムサービス共通情報定義）

形式	オペランド	定義内容	指定値
set	max_socket_descriptors*	ソケット用ファイル記述子の最大数	〈符号なし整数〉 ((64~3596))
	max_open_fds*	MCF 通信プロセスでアクセスするファイルの最大数	〈符号なし整数〉 ((100~4032))
	mcf_prf_trace_level	MCF 性能検証用トレース情報の取得レベル	((00000000~00000001)) 《00000001》
	mcf_start_watch_interval*	MCF 開始時プロセス間監視時間間隔	〈符号なし整数〉 ((10~3000)) 《3000》 (単位：ミリ秒)

注※

このオペランドを指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

表 2-23 定義設定項目一覧（MCF 性能検証用トレース定義）

形式	オペランド	定義内容	指定値
set	prf_file_size	MCF 性能検証用トレース情報ファイルのサイズ	〈符号なし整数〉 ((1024~1048576)) 《1024》 (単位：キロバイト)
	prf_file_count	MCF 性能検証用トレース情報ファイルの世代数	〈符号なし整数〉 ((3~256)) 《3》

表 2-24 定義設定項目一覧（リアルタイム取得項目定義）

形式	オペランド	定義内容	指定値
set	rts_mcf_ap_scd_stay*	スケジュール待ち情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》
	rts_mcf_ap_usr_srvc*	ユーザサービス実行情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》
	rts_mcf_in_msg_scd_wait*	論理端末単位に受信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》
	rts_mcf_out_msg_sync_scd_wait*	同期型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》

形式	オペランド	定義内容	指定値
set	rts_mcf_out_msg_resp_scd_wait*	問い合わせ応答型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》
	rts_mcf_out_msg_prio_scd_wait*	優先分岐型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》
	rts_mcf_out_msg_norm_scd_wait*	一般分岐型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》
	rts_mcf_que_scd_wait_num*	入力キューの滞留数の情報を取得するかどうかを指定	Y 《N》

注※

このオペランドに Y を指定する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

2.3.3 共用メモリ算出用定義ソースファイルの編集による環境設定

TP1/Messaging は、各論理端末のキューに滞留する平均メッセージ数を基に、各通信サービスの共用メモリ所要量を自動計算し、起動時に一括確保します。

平均メッセージ数に基づく値は共用メモリ算出用定義ソースファイル (%DCDIR%\lib\sysconf\mcfesti) の otqqnum オペランドおよび itqqnum オペランドに記述され、各オペランドには事前に 1 が設定されています。

ユーザはシステム構成および業務運用形態に応じて、otqqnum オペランドおよび itqqnum オペランドの値を変更できます。変更した場合、共用メモリ所要量が変動するので注意してください。また、他オペランドの設定値を変更しないでください。

共用メモリ算出用定義項目一覧を次の表に示します。

表 2-25 共用メモリ算出用定義項目一覧

オペランド	定義内容	共用メモリ所要量の計算式 (単位：バイト)	指定値
otqqnum	各出力先論理端末の出力キューに滞留する平均メッセージ数	動的共用メモリ： otqqnum 指定値 × 論理端末数 × TCP/IP 通信サービス環境設定のユーザメッセージ長の指定値 (アプリケーション間通信サービスの場合は 32000) × 安全値 (1.1)	((1 ~ 256))
		静的共用メモリ： otqqnum 指定値 × 論理端末数 × 768 × 安全値 (1.1)	

オペランド	定義内容	共用メモリ所要量の計算式 (単位：バイト)	指定値
itqqnum	各論理端末の入力キューに滞留する平均メッセージ数	動的共用メモリ： itqqnum 指定値 × 論理端末数 × TCP/IP 通信サービス環境設定のユーザ メッセージ長の指定値（アプリケーション 間通信サービスの場合は 32000） × 安全値（1.1） 静的共用メモリ： 0	((1~256))

3

オペレーション

この章では、TP1/Messaging のオペレーション（運用時の操作）について説明します。

3.1 TP1/Messaging の起動と停止

TP1/Messaging は、TP1/LiNK を起動、および停止するときに、同じタイミングで自動的に起動、および停止します。

TP1/Messaging を起動するときは、TP1/LiNK を起動します。

TP1/LiNK を起動するには、画面に表示されているアイコンの中から TP1/LiNK コントロールアイコンをダブルクリックし、TP1/LiNK コントロール画面を表示します。次に、TP1/LiNK コントロール画面内の [起動 (S)] ボタンをクリックし、TP1/LiNK を起動します。

TP1/Messaging を停止するときは、TP1/LiNK を停止、または強制停止させます。TP1/Messaging を正常に停止する場合は、TP1/LiNK を停止してください。このとき、TP1/Messaging の終了モードは、計画停止 A となります。

また、業務の都合によって、TP1/Messaging を強制的に停止させる場合は、TP1/LiNK を強制停止してください。このときの TP1/Messaging の終了モードは、強制停止となります。

TP1/LiNK を停止、または強制停止するには、起動時と同様に TP1/LiNK コントロールアイコンをダブルクリックし、TP1/LiNK コントロール画面を表示します。次に、TP1/LiNK コントロール画面内の [停止 (T)] ボタン、または [強制停止 (O)] ボタンをクリックし、TP1/LiNK を停止、または強制停止します。

TP1/LiNK の起動、停止、および強制停止の詳細については、マニュアル「TP1/LiNK 使用の手引」を参照してください。

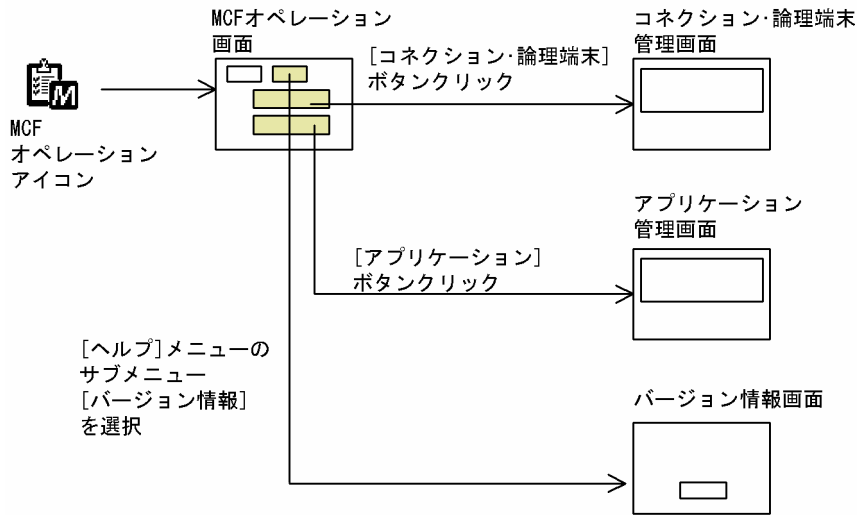
3.2 MCF のオペレーション

3.2.1 GUI の画面からのオペレーション (MCF)

MCF のオペレーションは、必ず TP1/LiNK および TP1/Messaging の起動中に行います。

MCF オペレーション時の画面構成を次の図に示します。

図 3-1 MCF オペレーション時の画面構成



MCF オペレーションを起動すると、オペレーション画面が表示されます。



画面に表示されている項目について説明します。

[コネクション・論理端末 (C)] ボタン

コネクションおよび論理端末の画面を表示します。

詳細については、「3.2.1(1) コネクションおよび論理端末の管理」を参照してください。

[アプリケーション (A)] ボタン

アプリケーションの画面を表示します。

詳細については、「3.2.1(2) アプリケーションの管理」を参照してください。

メニューバー

[ファイル (F)] メニュー

このメニューから、[終了 (X)] をクリックすると、MCF または MHP のオペレーションを終了します。

[ヘルプ (H)] メニュー

このメニューから、[バージョン情報] をクリックすると、バージョン情報が表示されます。詳細については、「3.2.1(3) バージョン情報の表示」を参照してください。

(1) コネクションおよび論理端末の管理

MCF オペレーション画面で [コネクション・論理端末 (C)] ボタンをクリックすると、コネクションおよび論理端末の画面が表示されます。この画面では、TP1/Messaging で環境設定されている通信サービスのコネクション、および論理端末について、情報および状態を一覧で表示します。



画面に表示されている項目について説明します。

メッセージ出力欄

コネクションおよび論理端末の画面を表示する直前に実行されたオペレーションに対して、メッセージを表示します。表示されるメッセージを次に示します。

- コネクション確立要求を行っています…しばらくお待ちください
- コネクション解放要求を行っています…しばらくお待ちください
- 論理端末の閉塞解除要求を行っています…しばらくお待ちください
- 論理端末の閉塞要求を行っています…しばらくお待ちください
- 最新のコネクションと論理端末状態を調べています…しばらくお待ちください
- 年/月/日 時:分:秒 現在のコネクションと論理端末の状態

上記に示すメッセージ以外に、OpenTP1 のメッセージがダイアログで表示される場合があります。OpenTP1 のメッセージの詳細については、マニュアル「OpenTP1 メッセージ」を参照してください。

状態表示欄

各コネクション、および論理端末の状態を表示します。

表示内容の詳細については、「[3.2.1\(1\)\(e\) コネクションおよび論理端末の状態表示](#)」を参照してください。

識別子

コネクション名に示すコネクションが属する通信サービスのプロセス識別子を表示します。

コネクション名

TP1/Messaging で環境設定されているコネクションの名称を表示します。

コネクション状態

コネクション名に示すコネクションの状態を表示します。表示の詳細については、「[3.2.1\(1\)\(e\) コネクションおよび論理端末の状態表示](#)」を参照してください。

論理端末名

コネクション名に示すコネクションに対応する論理端末名を表示します。

論理端末状態

論理端末名に示す論理端末の状態を表示します。

【コネクションの確立 (A)】 ボタン

コネクションを確立します。

【コネクションの解放 (D)】 ボタン

コネクションを解放します。

【論理端末の閉塞解除 (S)】 ボタン

論理端末を閉塞解除します。

【論理端末の閉塞 (F)】 ボタン

論理端末を閉塞します。

【最新の情報 (N)】 ボタン

コネクション、およびコネクションに対応する論理端末の最新の情報を表示します。

【終了 (E)】 ボタン

コネクション、および論理端末のオペレーションを終了します。

上記に示すボタンには、OpenTP1 で実行する運用コマンドに対応しているものがあります。それぞれのボタンと運用コマンドとの対応を次の表に示します。

表 3-1 オペレーションボタンと対応する運用コマンド (コネクション・論理端末画面)

オペレーションボタン	実行される運用コマンド
【最新の情報】 ボタン	mcftlscn mcftlsle
【コネクションの確立】 ボタン	mcftactcn

オペレーションボタン	実行される運用コマンド
[接続の解放] ボタン	mcftdctcn
[論理端末の閉塞解除] ボタン	mcftactle
[論理端末の閉塞] ボタン	mcftdctle
[終了] ボタン	—

(凡例)

—：対応するコマンドがないことを示します。

接続・論理端末画面から行える操作について説明します。

(a) 接続の確立

解放状態の接続の接続名を状態表示欄から選択し、[接続の確立 (A)] ボタンをクリックすると、選択した接続が確立されます。接続は、複数を選択して確立することもできます。

接続が確立されると、選択された接続の状態は「確立」になります。

(b) 接続の解放

確立状態の接続の接続名を状態表示欄から選択し、[接続の解放 (D)] ボタンをクリックすると、選択した接続が解放されます。接続は、複数を選択して解放することもできます。

接続が解放されると、選択された接続の状態は「解放」になります。

(c) 論理端末の閉塞解除

閉塞状態の論理端末の論理端末名を状態表示欄から選択し、[論理端末の閉塞解除 (S)] ボタンをクリックすると、選択した論理端末が閉塞解除されます。論理端末は、複数を選択して閉塞解除することもできます。

論理端末が閉塞解除されると、選択された論理端末の状態は「閉塞解除」になります。

(d) 論理端末の閉塞

閉塞解除状態の論理端末の論理端末名を状態表示欄から選択し、[論理端末の閉塞 (F)] ボタンをクリックすると、選択した論理端末が閉塞されます。論理端末は、複数を選択して閉塞することもできます。

論理端末が閉塞されると、選択された論理端末の状態は「閉塞」になります。

(e) 接続および論理端末の状態表示

[最新の情報 (N)] ボタンをクリックすると、接続、および対応する論理端末の最新の情報が表示されます。

表示されるコネクションの状態を次に示します。

- 「確立処理中」：該当するコネクションは確立処理中です。
- 「確立」：該当するコネクションは確立されています。
- 「解放処理中」：該当するコネクションは解放処理中です。
- 「解放」：該当するコネクションは解放されています。

また、表示される論理端末の状態は次のとおりです。

- 「閉塞解除」：該当する論理端末は閉塞解除されています。
- 「閉塞」：該当する論理端末は閉塞されています。

状態表示されるコネクションおよび論理端末は、TP1/Messaging で環境設定されている通信サービスのコネクション、および論理端末です。なお、一つのコネクションに対して一つの論理端末が対応しています。

(2) アプリケーションの管理

オペレーション画面で [アプリケーション (A)] ボタンをクリックすると、アプリケーションの画面が表示されます。この画面では、TP1/Messaging で環境設定されている通信サービスに対応するアプリケーションについて、情報および状態を一覧で表示します。

一つのアプリケーションが複数の通信サービスに対応している場合は、同じアプリケーション名が複数表示されます。

アプリケーションは512個まで表示できます。アプリケーションの表示数が多くなると、初回描画時間が大幅に増えるので注意してください。



画面に表示されている項目について説明します。

メッセージ出力欄

アプリケーション画面を表示する直前に実行されたオペレーションに対して、メッセージを表示します。表示されるメッセージを次に示します。

- アプリケーションの閉塞解除要求を行っています…しばらくお待ちください

- アプリケーションの閉塞要求を行っています…しばらくお待ちください
- 最新のアプリケーション状態を調べています…しばらくお待ちください
- 年/月/日 時:分:秒 現在のアプリケーションの状態
- プロセス識別子の取得に失敗したため、状態を表示できません

上記に示すメッセージ以外に、OpenTP1 のメッセージがダイアログで表示される場合があります。OpenTP1 のメッセージの詳細については、マニュアル「OpenTP1 メッセージ」を参照してください。

状態表示欄

アプリケーションの状態を表示します。

表示内容の詳細については、「3.2.1(2)(c) アプリケーションの状態表示」を参照してください。

識別子

アプリケーション名に示すアプリケーションが属する通信サービスのプロセス識別子を表示します。

アプリケーション名

TP1/Messaging で環境設定されているアプリケーションの名称を表示します。一つの通信サービスに複数のアプリケーションが対応している場合は、同じ識別子を持つアプリケーション名が複数表示されます。

種別

アプリケーション名に示す MCF のアプリケーションの種別を表示します。

- 「ユーザ」: ユーザのアプリケーションであることを示します。
- 「MCF」: OpenTP1 の MCF イベントであることを示します。

入力状態

アプリケーション名に示す MCF のアプリケーションの入力状態を表示します。

- 「閉塞解除」: 該当するアプリケーションの入力は閉塞解除されています。
- 「閉塞」: 該当するアプリケーションの入力は閉塞されています。
- 「SPP」: 該当するアプリケーションは、SPP のアプリケーションです。

スケジュール状態

アプリケーション名に示す MCF のアプリケーションのスケジュール状態を表示します。

- 「閉塞解除」: 該当するアプリケーションのスケジュールは閉塞解除されています。
- 「閉塞」: 該当するアプリケーションのスケジュールは閉塞されています。
- 「SPP」: 該当するアプリケーションは、SPP のアプリケーションです。

サービスグループ名

アプリケーション名が示す MCF アプリケーションに対応するサービスグループ名を表示します。

サービス名

アプリケーション名が示す MCF アプリケーションに対応するサービス名を表示します。

【閉塞解除 (A)】 ボタン

アプリケーションを閉塞解除します。

【閉塞 (D)】 ボタン

アプリケーションを閉塞します。

【最新の状態 (N)】 ボタン

すべてのアプリケーションの最新の状態を表示します。

【終了 (E)】 ボタン

アプリケーションのオペレーションを終了します。

上記に示すボタンには、OpenTP1 で実行する運用コマンドに対応しているものがあります。それぞれのボタンと運用コマンドとの対応を次の表に示します。

表 3-2 オペレーションボタンと対応する運用コマンド (アプリケーション画面)

オペレーションボタン	実行される運用コマンド
【閉塞解除】 ボタン	mcfactap
【閉塞】 ボタン	mcfadctap
【最新の状態】 ボタン	mcfalsap
【終了】 ボタン	—

(凡例)

— : 対応するコマンドがないことを示します。

次に、アプリケーション画面から行える操作について説明します。

(a) アプリケーションの閉塞解除

入力状態またはスケジュール状態が「閉塞」のアプリケーション名を状態表示欄から選択し、【閉塞解除 (A)】 ボタンをクリックすると、選択したアプリケーションが閉塞解除されます。アプリケーションは、複数を選択して閉塞解除することもできます。

アプリケーションが正常に閉塞解除されると、選択されたアプリケーションの状態は「閉塞解除」になります。

(b) アプリケーションの閉塞

入力状態またはスケジュール状態が「閉塞解除」のアプリケーション名を状態表示欄から選択し、【閉塞 (D)】 ボタンをクリックすると、選択したアプリケーションが閉塞されます。アプリケーションは、複数を選択して閉塞することもできます。

アプリケーションが正常に閉塞されると、選択されたアプリケーションの状態は「閉塞」になります。

(c) アプリケーションの状態表示

アプリケーション名を状態表示欄から選択し、[最新の状態 (N)] ボタンをクリックすると、すべてのアプリケーションの状態が表示されます。

表示されるアプリケーションの状態を次に示します。

- 「閉塞解除」：該当するアプリケーションは閉塞解除されています。
- 「閉塞」：該当するアプリケーション閉塞されています。

状態表示されるアプリケーションは、TP1/Messaging で環境設定されている通信サービスのアプリケーションです。なお、一つの接続に対して、一つまたは複数の論理端末が対応しています。

(3) バージョン情報の表示

オペレーション画面のメニューバーで [ファイル (F)] を選択し、[バージョン情報] をクリックすると、バージョン情報画面が表示されます。この画面には、次の情報が表示されます。

- TP1/Messaging のバージョンおよびリビジョン
- コピーライト
- ライセンス登録名 (OpenTP1 管理者の名前および会社名)

表示内容を確認後、[OK] ボタンをクリックすると、オペレーション画面に戻ります。

(4) MCF のオペレーションの終了

接続および論理端末のオペレーション、またはアプリケーションのオペレーションを終了する場合は、それぞれの画面に表示されている [終了 (E)] ボタンをクリックします。

MCF のオペレーションをすべて終了する場合は、オペレーション画面のメニューバーから [ファイル (F)] を選択し、[終了 (E)] をクリックしてください。

3.2.2 コマンドプロンプト画面からのオペレーション (MCF)

MCF に対するオペレーションは、コマンドプロンプト画面から運用コマンドを実行して行えます。コマンドプロンプトとは、キーボードから文字を直接入力して、コマンドを実行する操作です。コマンドプロンプト画面からのオペレーションをするときは、Windows の GUI から画面を切り替えます。

注意事項

MCF のオペレーションは、必ず TP1/LiNK および TP1/Messaging の起動中に行ってください。

TP1/Messaging で実行できる MCF の運用コマンドを次の表に示します。表に示す運用コマンド、およびその他の運用コマンドの詳細については、マニュアル「OpenTP1 運用と操作」を参照してください。

表 3-3 TP1/Messaging で実行できる MCF の運用コマンド

運用コマンド名	機能
mcftactcn	コネクションの確立
mcftdctcn	コネクションの解放
mcftlscn	コネクションの状態表示
mcftchcn※1	コネクションの切り替え
mcftslcn※2	ネットワークの状態表示
mcftonln※2	サーバ型コネクションの確立要求の受付開始
mcftofln※2	サーバ型コネクションの確立要求の受付終了
mcftlstrd※2	メッセージ多重処理状況の表示
mcftactle	論理端末の閉塞解除
mcftdctle	論理端末の閉塞
mcftlsle	論理端末の状態表示
mcftldoq	論理端末の出力キュー処理の保留
mcftlsoq	論理端末の出力キュー処理の保留解除
mcftdlqle	論理端末の出力キュー削除
mcftspqle	論理端末のメッセージキューの先頭スキップ
mcftactsv	サービスの閉塞解除
mcftdctsv	サービスの閉塞
mcftlssv	サービスの状態表示
mcftlsbuf	バッファグループの使用状況表示
mcftswptr	MCF イベントトレースファイルの強制スワップ
mcfaactap	アプリケーションの閉塞解除
mcfadctap	アプリケーションの閉塞
mcfalsap	アプリケーションの状態表示
mcfaclap	アプリケーションの異常終了回数の初期化
mcfalstap※2	アプリケーションに関するタイマ起動要求の表示
mcfadltap	アプリケーションに関するタイマ起動要求の削除
mcftactsg	サービスグループの閉塞解除

運用コマンド名	機能
mcftdctsg	サービスグループの閉塞
mcftlssg	サービスグループの状態表示
mcftldiq	サービスグループの入力キュー処理の保留
mcftrlsiq	サービスグループの入力キュー処理の保留解除
mcftdlqsg	サービスグループの入力キュー削除
mcfuevt	アプリケーションプログラムの起動
mcftstptr	MCF トレース取得の終了
mcftstrtr	MCF トレース取得の開始
mcftlscm	MCF 通信サービスの状態参照
mcftlsum ^{※2}	ユーザタイム監視の状態表示

注※1

このコマンドを使用する場合、TP1/NET/High Availability が必要です。

注※2

このコマンドを使用する場合、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

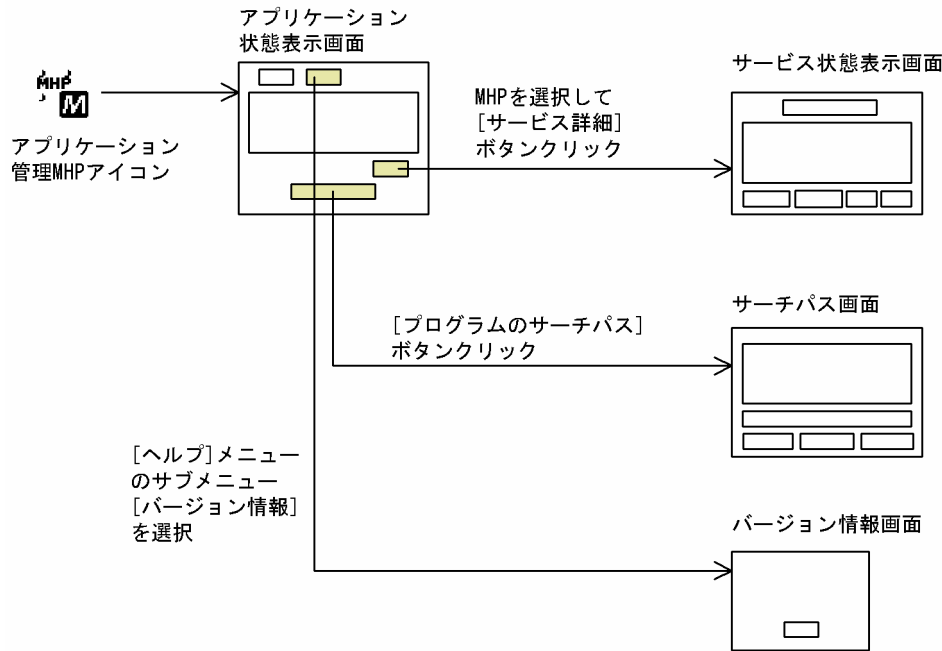
3.3 MHP のオペレーション

3.3.1 GUI の画面からのオペレーション (MHP)

MHP のオペレーションは、TP1/LiNK の起動中に行います。

MHP オペレーション時の画面構成を次の図に示します。

図 3-2 MHP オペレーション時の画面構成



アプリケーション管理 MHP を起動すると、アプリケーション管理画面が表示されます。



画面の表示項目について説明します。

MHP 状態表示部

ユーザサーバ状態

MHP のユーザサーバの状態を表示します。

ユーザサーバ状態は、この画面内にある [最新情報に更新 (L)] ボタンをクリックした場合も、同様に表示されます。

ユーザサーバ名

MHP のユーザサーバ名を表示します。

サービスグループ名

MHP のユーザサーバのサービスグループ名を表示します。

常駐 非常駐

MHP のユーザサーバの常駐、および非常駐プロセス数を表示します。

[起動 (S)] ボタン

MHP 状態表示部で選択されている MHP ユーザサーバを起動します。

[停止 (T)] ボタン

MHP 状態表示部で選択されている MHP ユーザサーバを停止します。

[最新情報に更新 (L)] ボタン

MHP ユーザサーバの情報を更新し最新のものにします。このボタンをクリックすると、MHP 状態表示部にすべての MHP ユーザサーバの最新の状態が表示されます。

[強制停止 (O)] ボタン

MHP 状態表示部で選択されている MHP ユーザサーバを強制停止します。

[サービス詳細 (A)] ボタン

MHP 状態表示部で選択されている MHP ユーザサーバのサービスグループについて、サービスの詳細を表示します。MHP ユーザサーバ名を選択してこのボタンをクリックすると、サービス状態表示画面が表示されます。

画面の詳細については、「3.3.1(2) サービスの管理」を参照してください。

[閉塞 (D)] ボタン

MHP 状態表示部で選択されている MHP ユーザサーバを閉塞します。

[閉塞解除 (R)] ボタン

MHP 状態表示部で選択されている MHP ユーザサーバを閉塞解除します。

[プログラムのサーチパス (P)] ボタン

MHP のアプリケーションが格納されているディレクトリのパス名を表示します。このボタンをクリックすると、サーチパス画面が表示されます。

【サーバ定義 (E)】 ボタン

MHP ユーザサーバの環境を設定します。MHP 状態表示部で MHP を選択しないでこのボタンをクリックすると、アプリケーション環境画面が表示されます。MHP を選択してこのボタンをクリックすると、MHP 環境設定画面が表示されます。

MHP の環境設定の詳細については、「[2.3 実行環境の設定](#)」を参照してください。

【終了 (C)】 ボタン

MHP のオペレーションを終了します。

上記に示すボタンには、OpenTP1 で実行する運用コマンドに対応しているものがあります。それぞれのボタンと運用コマンドとの対応を次の表に示します。

表 3-4 オペレーションボタンと対応する運用コマンド (TP1/Messaging アプリケーション管理 MHP 画面)

オペレーションボタン	実行される運用コマンド
【起動】 ボタン	dcsvstrt
【停止】 ボタン	dcsvstop
【最新の情報に更新】 ボタン	prcls
【強制停止】 ボタン	dcsvstop
【サービス詳細】 ボタン	mcftlssg
【閉塞】 ボタン	mcftdctsg
【閉塞解除】 ボタン	mcftactsg
【プログラムのサーチパス】 ボタン	—
【サーバ定義】 ボタン	—
【終了】 ボタン	—

(凡例)

— : 対応するコマンドがないことを示します。

メニューバー

【ファイル (F)】 メニュー

このメニューから、【終了 (X)】 をクリックすると、MHP のオペレーションを終了します。

【ヘルプ (H)】 メニュー

このメニューから、【バージョン情報】 をクリックすると、バージョン情報が表示されます。表示内容は、MCF のオペレーションの場合と同じです。詳細については、「[3.2.1\(3\) バージョン情報の表示](#)」を参照してください。

(1) MHP ユーザサーバの管理

(a) MHP ユーザサーバの起動

MHP 状態表示部から MHP ユーザサーバ名を選択し、[起動 (S)] ボタンをクリックすると、選択した MHP ユーザサーバが起動されます。このとき選択できるのは、ユーザサーバ状態が「停止中」のユーザサーバです。

MHP ユーザサーバが正常に起動された場合は、該当する MHP の状態表示部の情報が更新されます。正常に起動されなかった場合はエラーとなり、メッセージが表示されます。

(b) MHP ユーザサーバの停止

MHP 状態表示部から MHP ユーザサーバ名を選択し、[停止 (T)] ボタンをクリックすると、選択した MHP ユーザサーバが停止されます。このとき停止できるのは、ユーザサーバ状態が「閉塞」または「閉塞解除」のユーザサーバです。

MHP ユーザサーバが正常に停止された場合は、該当する MHP の状態表示部の情報が更新されます。正常に停止されなかった場合はエラーとなり、メッセージが表示されます。

(c) MHP ユーザサーバの強制停止

MHP 状態表示部から MHP ユーザサーバ名を選択し、[強制停止 (O)] ボタンをクリックすると、選択した MHP ユーザサーバが強制停止されます。このとき強制停止できるのは、ユーザサーバ状態が「閉塞」または「閉塞解除」のユーザサーバです。

MHP ユーザサーバが正常に強制停止された場合は、該当する MHP の状態表示部の情報が更新されます。正常に強制停止されなかった場合はエラーとなり、メッセージが表示されます。

(d) サービスグループの閉塞解除

MHP 状態表示部から MHP ユーザサーバのサービスグループ名を選択し、[閉塞解除 (R)] ボタンをクリックすると、選択したサービスグループが閉塞解除されます。このとき閉塞解除できるのは、ユーザサーバ状態が「閉塞」のサービスグループです。

サービスグループが正常に閉塞解除された場合は、該当する MHP の状態表示部の情報が更新されます。正常に閉塞解除されなかった場合はエラーとなり、メッセージが表示されます。

(e) サービスグループの閉塞

MHP 状態表示部から MHP ユーザサーバのサービスグループ名を選択し、[閉塞 (D)] ボタンをクリックすると、選択したサービスグループが閉塞されます。このとき閉塞できるのは、ユーザサーバ状態が「閉塞解除」のサービスグループです。

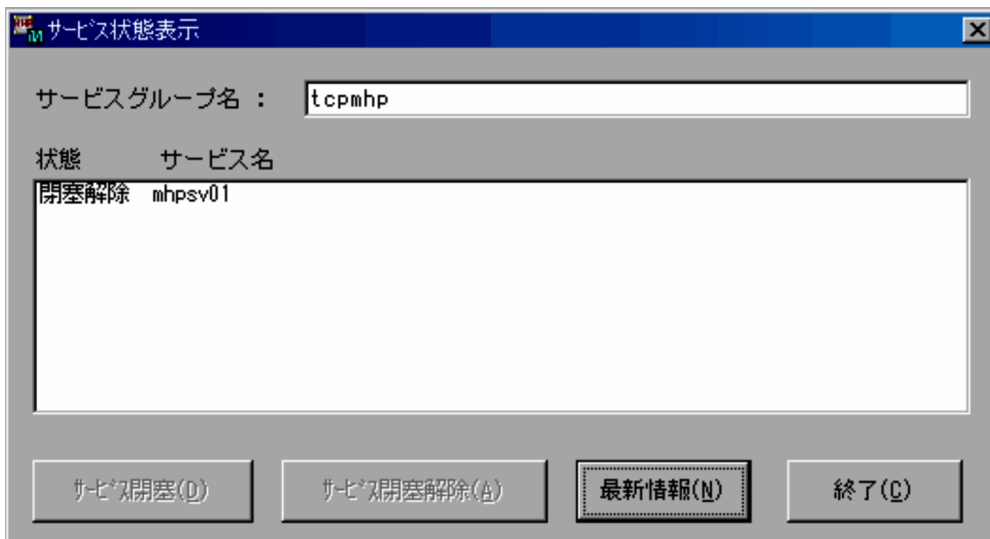
サービスグループが正常に閉塞された場合は、該当する MHP の状態表示部の情報が更新されます。正常に閉塞されなかった場合はエラーとなり、メッセージが表示されます。

(f) MHP ユーザーバおよびサービスグループの状態表示

アプリケーション管理画面の [最新情報に更新 (L)] ボタンをクリックすると、表示されているすべての MHP について、最新の情報を取得します。情報が正常に取得された場合は、MHP 状態表示部に状態が表示されます。正常に取得されなかった場合は、エラーとなり、メッセージが表示されます。

(2) サービスの管理

サービスの状態を表示する場合、またはサービスに対してオペレーションをする場合は、MHP 状態表示部からサービスグループ名を選択し、[サービス詳細 (A)] ボタンをクリックしてください。



画面に表示されている項目について説明します。

サービスグループ名

アプリケーション管理画面の MHP 状態表示部で選択したサービスグループ名を表示します。

サービス状態表示部

状態

サービス名に示すサービスの状態を表示します。

この表示は、画面内の [最新情報 (N)] ボタンをクリックした場合も、表示されます。

サービス名

サービスグループ名に示すサービスグループに属するサービスを一覧で表示します。

[サービス閉塞 (D)] ボタン

サービス状態表示部で選択されているサービスを閉塞します。

[サービス閉塞解除 (A)] ボタン

サービス状態表示部で選択されているサービスを閉塞解除します。

【最新情報 (N)】 ボタン

サービスグループ名に示すサービスグループに属するすべてのサービスの最新情報を、サービス状態表示部に表示します。

【終了 (C)】 ボタン

サービス状態の表示を終了します。

このボタンをクリックすると、アプリケーション管理画面に戻ります。

上記に示すボタンには、OpenTP1 で実行する運用コマンドに対応しているものがあります。それぞれのボタンと運用コマンドとの対応を次の表に示します。

表 3-5 オペレーションボタンと対応する運用コマンド (サービス状態表示画面)

オペレーションボタン	実行される運用コマンド
[サービス閉塞] ボタン	mcftdctsv
[サービス閉塞解除] ボタン	mcftactsv
[最新情報] ボタン	mcftlssv
[終了] ボタン	—

(凡例)

—：対応するコマンドがないことを示します。

次に、サービス状態表示画面で行うオペレーションについて説明します。

(a) サービスの閉塞解除

サービス状態表示部からサービス名を選択し、[サービス閉塞解除 (A)] ボタンをクリックします。このとき選択できるのは、状態が「閉塞」のサービスです。また、閉塞解除するサービスは複数選択できます。

(b) サービスの閉塞

サービス状態表示部からサービス名を選択し、[サービス閉塞 (D)] ボタンをクリックします。このとき選択できるのは、状態が「閉塞解除」のサービスです。また、閉塞するサービスは複数選択できます。

(c) サービスの状態の表示

サービス状態表示画面の [最新情報 (N)] ボタンをクリックすると、表示されているすべてのサービスについて、最新の情報を取得します。情報が正常に取得された場合は、サービス状態表示欄の情報が更新されます。正常に取得されなかった場合は、エラーとなり、メッセージが表示されます。

(d) サービスのオペレーションの終了

サービス状態表示画面の [終了 (C)] ボタンをクリックすると、サービスのオペレーションを終了し、アプリケーション管理画面に戻ります。

(3) プログラムのサーチパス

プログラムのサーチパスとは、アプリケーションがどのディレクトリにあるかを示す機能です。アプリケーションが属しているディレクトリまでの階層構造を、一つの連続した名称（パス名）で表現しています。サーチパス機能を使用することで、目的のアプリケーションがどのようなディレクトリを通過して格納されているかが確認できます。

アプリケーション管理画面の [プログラムのサーチパス (P)] ボタンをクリックすると、サーチパス画面が表示されます。



サーチパス画面に表示されている項目について説明します。

サーチパス状態 (P)

TP1/Messaging で設定されているすべてのサーチパスが表示されます。六つ以上のサーチパスが設定された場合、この欄の右側にスクロールバーが表示されます。

変更サーチパス名 (N)

設定、または削除するサーチパス名を表示します。

サーチパス名は、キーボードから直接入力するか、またはサーチパス状態欄に表示されている名称を選択し、表示させてください。

[設定 (S)] ボタン

変更サーチパス名に表示されているサーチパスを設定します。

[削除 (D)] ボタン

変更サーチパス名に表示されているサーチパスを削除します。

[終了 (C)] ボタン

サーチパスを終了し、アプリケーション管理画面に戻ります。

上記に示すボタンには、OpenTP1 で実行する運用コマンドに対応しているものがあります。それぞれのボタンと運用コマンドとの対応を次の表に示します。

表 3-6 オペレーションボタンと対応する運用コマンド (TP1/Messaging サーチパス画面)

オペレーションボタン	実行される運用コマンド
[設定] ボタン	prcpath
[削除] ボタン	prcpath
[終了] ボタン	—

(凡例)

—：対応するコマンドがないことを示します。

サーチパス画面で行えるオペレーションを次に示します。

(a) サーチパスの参照

サーチパス状態欄に表示されているサーチパスから、該当するサーチパスを参照します。

(b) サーチパスの設定

変更サーチパス名欄に、設定するサーチパス名を直接入力し、[設定 (S)] ボタンをクリックしてください。サーチパスが正常に設定された場合は、サーチパス状態欄に新しいサーチパスが表示されます。正常に設定されなかった場合は、エラーとなり、メッセージが表示されます。

(c) サーチパスの削除

サーチパス状態欄から、削除するサーチパス名を選択し、変更サーチパス名欄に表示させてから、[削除 (D)] ボタンをクリックしてください。サーチパスが正常に削除された場合は、サーチパス状態欄から該当するサーチパスが削除されます。正常に設定されなかった場合は、エラーとなり、メッセージが表示されます。

(d) サーチパスのオペレーションの終了

サーチパス画面の [終了 (C)] ボタンをクリックすると、サーチパスのオペレーションが終了し、アプリケーション管理画面に戻ります。

(4) バージョン情報の表示

アプリケーション管理画面のメニューバーで [ファイル (F)] を選択し、[バージョン情報] をクリックすると、バージョン情報が表示されます。表示内容は、MCF オペレーションの場合と同じです。詳細については、[「3.2.1\(3\) バージョン情報の表示」](#)を参照してください。

表示内容を確認後、[OK] ボタンをクリックすると、アプリケーション管理画面に戻ります。

(5) MHP のオペレーションの終了

サービス状態表示画面、およびサーチパス画面のオペレーションを終了する場合は、それぞれの画面に表示されている [終了 (C)] ボタンをクリックします。

MHP のオペレーションをすべて終了する場合は、アプリケーション管理画面の [終了 (C)] ボタンをクリックしてください。

3.3.2 コマンドプロンプト画面からのオペレーション (MHP)

TP1/LiNK が起動されている状態で、コマンドプロンプト画面から MHP のオペレーションができます。オペレーションは、MHP の運用コマンドを実行して行います。

TP1/Messaging で実行できる MHP の運用コマンドを次の表に示します。表に示す運用コマンド、およびその他の運用コマンドの詳細については、マニュアル「OpenTP1 運用と操作」を参照してください。

表 3-7 TP1/Messaging で実行できる MHP の運用コマンド

運用コマンド名	機能
mcftactsv	サービスの閉塞解除
mcftdctsv	サービスの閉塞
mcftlssv	サービスの状態表示
mcftactsg	サービスグループの閉塞解除
mcftdctsg	サービスグループの閉塞
mcftlssg	サービスグループの状態表示

4

トラブルが発生したら

この章では、TP1/Messaging で発生するトラブルと、ユーザの対処について説明します。

4.1 トラブルの種類と原因

TP1/Messaging で発生するトラブルの具体的な現象と対処方法を説明します。

TP1/Messaging 運用中に、TP1/LiNK にトラブルが発生した場合の対応については、マニュアル「TP1/LiNK 使用の手引」を参照してください。

4.1.1 TP1/Messaging のトラブル

(1) TP1/Messaging を開始できない場合

TP1/Messaging を開始できない原因には、次の理由が考えられます。

(a) TP1/Messaging が正しくセットアップされていない

TP1/Messaging をセットアップし直してください。セットアップし直す場合は、1 度アンインストールしてから、再度インストールしてください。

(b) メモリの容量不足、またはディスクの容量不足

メモリ、またはディスクの容量が不足していることを知らせるメッセージが出力されます。

稼働中の不要なユーザサーバを停止させるか、または不要なファイルを削除してから、TP1/Messaging を再び開始させてください。

(c) MCF または MHP の環境設定が正しく行われていない

- MCF または MHP の環境設定を、GUI の画面から再度行ってください。次の表に示す環境設定不正の要因と対策を参照して定義の設定を見直してください。

表 4-1 環境設定不正の要因と対策

設定種別	画面名称	設定項目	要因と対策
MCF 環境設定	TCP/IP コネクション属性設定画面	[コネクション名 (N)]	コネクション名が OpenTP1 システム内で重複していることが考えられます。OpenTP1 システム内で一意となるように名称を変更してください。
		[論理端末名 (L)]	論理端末名が OpenTP1 システム内で重複していることが考えられます。OpenTP1 システム内で一意となるように名称を変更してください。
		[アプリケーション名 (A)]	次に示す設定内容が一致していないことが考えられます。設定内容が一致するように変更してください。

設定種別	画面名称	設定項目	要因と対策
MCF 環境設定	TCP/IP コネクション属性設定画面	[アプリケーション名 (A)]	<ul style="list-style-type: none"> • TCP/IP 通信サービス環境設定画面で設定したアプリケーショングループ名とアプリケーション名 • アプリケーショングループ環境設定での設定内容
		[コネクションリプレースの使用]	TCP/IP 通信サービス環境設定画面で設定するコネクション内で、同じシステムのポート番号を持つサーバ型コネクションが複数ある場合は、コネクションリプレースを使用する/使用しないの設定値が統一されていないことが考えられます。設定値を統一してください。

- 定義テキストファイルの内容の不正によって GUI を起動できなくなった場合は、次に示す手順でバックアップファイルから定義情報を元の状態に戻すことができます。
 1. 各定義テキストファイル格納フォルダ内の定義テキストファイル、および各定義オブジェクトファイル格納フォルダ内の定義オブジェクトファイルをすべて削除してください。ただし、表 4-2 に示す初期設定ファイルは削除しないでください。
 2. 定義テキストファイルのバックアップファイルの拡張子 (.bak) を削除して、定義テキストファイルの格納フォルダにコピーしてください。
表 4-3 に定義テキストファイルのバックアップファイルのファイルパスを示します。
 3. GUI を再起動してください。

表 4-2 初期設定ファイルの格納フォルダ

定義種別	ファイルパス名 (TEXTPATH=%DCCONFPATH%\mcfconf\TEXT)	
マネージャ定義	TEXTPATH\MNG\mcfmng.mng	
アプリケーション定義	TEXTPATH\APL\mcfag01.apl	
アプリケーション間通信サービス定義	通信構成定義共通部	TEXTPATH\PSV\CCM\mups01.ccm
	アプリケーション起動環境定義	TEXTPATH\PSV\CPR\mups01.psv
TCP/IP 通信サービス定義	通信構成定義共通部	TEXTPATH\TCP\CCM\mutc01.ccm
	TCP/IP 定義	TEXTPATH\TCP\CPR\mutc01.tip

表 4-3 定義テキストファイルのバックアップファイルの格納フォルダ

定義種別	ファイルパス名 (TEXTPATH=%DCCONFPATH%\mcfconf*_TEXT_BACKUP)
マネージャ定義	TEXTPATH\MNG\mcfmng.bak

定義種別		ファイルパス名 (TEXTPATH=%DCCONFPATH%\mcfconf%_TEXT_BACKUP)
アプリケーション定義		TEXTPATH\APL\アプリケーショングループ名.bak
アプリケーション間通信サービス定義	通信構成定義共通部	TEXTPATH\PSV\CCM\アプリケーション間通信サービス名.bak
	アプリケーション起動環境定義	TEXTPATH\PSV\CPR\アプリケーション間通信サービス名.bak
TCP/IP 通信サービス定義	通信構成定義共通部	TEXTPATH\TCP\CCM\TCP/IP 通信サービス名.bak
	TCP/IP 定義	TEXTPATH\TCP\CPR\TCP/IP 通信サービス名.bak
ユーザサービス定義		%DCCONFPATH%_MHP_BACKUP\ユーザサーバ名.bak

- 定義ソースファイルを直接編集して環境設定をしている場合は、マネージャ定義オブジェクトファイル名に注意してください。TP1/Messaging では、マネージャ定義オブジェクトファイル名は必ず'_mumngr'としてください。誤ったファイル名で作成している場合は、'_mumngr'で再作成してください。
また、テキストファイル%DCCONFPATH%\sysconf に次のとおり記述されているか確認してください。'_mumngr'でない場合は、'_mumngr'に修正してください。

```
dcsvstrt -m _mumngr
```

(2) TP1/Messaging を終了できない場合

TP1/Messaging のアプリケーション管理 MHP の画面、TP1/LiNK アプリケーション管理 SPP の画面、または TP1/LiNK アプリケーション管理 SUP の画面から、[最新情報に更新 (L)] ボタンをクリックして、現在のユーザサーバの状態を確認してください。ユーザサーバが終了していない場合は、終了を待つか、または終了していないユーザサーバを強制停止させてください。

(3) TP1/Messaging が異常終了した場合

TP1/Messaging の内部処理で異常を検出した場合、メッセージ、および異常の原因を示す理由コードが出力されます。これらの情報を保守員へ連絡してください。

(4) 定義内容の矛盾によってエラーが発生した場合

MCF 環境設定と MHP 環境設定で設定する定義内容に矛盾がある場合、エラーダイアログボックスが表示されることがあります。エラーダイアログボックスが表示された場合は、ここで説明する事例と対策方法を参考にしてエラーの要因を取り除いてください。問題が解決しない場合は、保守員に連絡してください。

(a) サービスグループ名の不一致

アプリケーション管理 MHP の GUI 画面を操作中に、次に示すエラーダイアログボックスが表示されることがあります。



このエラーダイアログボックスが表示される要因と対策を次に示します。

要因

GUI で環境設定をする場合

アプリケーション属性設定画面で設定したサービスグループ名と MHP 環境設定で設定したサービスグループ名との間に、一致するサービスグループがない場合に発生します。

定義ソースファイルを直接編集して環境設定をする場合

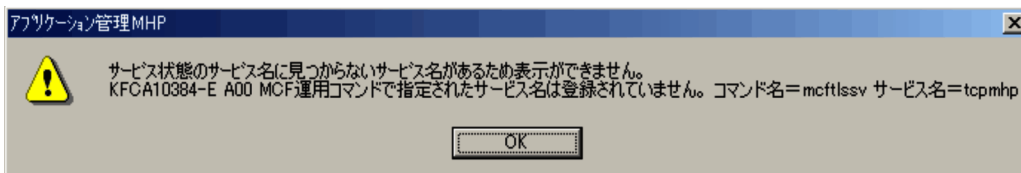
アプリケーション属性定義の servgrpnm オペランドで設定したサービスグループ名と MHP 環境設定画面で設定したサービスグループ名との間に、一致するサービスグループがない場合に発生します。

対策

アプリケーション属性設定画面で設定したサービスグループ名、またはアプリケーション属性定義の servgrpnm オペランドで設定したサービスグループ名と MHP 環境設定画面で設定したサービスグループ名が一致するように再度環境設定をしてください。

(b) サービス名の不一致

アプリケーション管理 MHP の GUI 画面を操作中に、次に示すエラーダイアログボックスが表示されることがあります。



このエラーダイアログボックスが表示される要因と対策を次に示します。

要因

GUI で環境設定をする場合

アプリケーション属性設定画面で設定したサービス名と MHP 環境設定画面で設定したサービス名との間に、一致するサービスがない場合に発生します。

定義ソースファイルを直接編集して環境設定をする場合

アプリケーション属性定義の servname オペランドで設定したサービス名と MHP 環境設定画面で設定したサービス名との間に、一致するサービスがない場合に発生します。

対策

アプリケーション属性設定画面で設定したサービス名，またはアプリケーション属性定義の servname オペランドで設定したサービス名と MHP 環境設定画面で設定したサービス名が一致するように再度環境設定をしてください。

4.2 トラブルシュート情報

TP1/Messaging では、障害対策用に、次のファイルを作成します。

- MCF イベントトレースファイル

TP1/Messaging では、各プロセスで発生したイベントや、送受信データなどの情報を取得しています。これらの情報を MCF イベントトレースといい、MCF イベントトレースを格納するファイルを、MCF イベントトレースファイルといいます。MCF イベントトレースファイルは、%DCDIR%\%SPPOOL%ディレクトリの下に mcft××××というファイル名で出力されます。

MCF イベントトレースファイルを強制的にスワップして参照したい場合は、コマンドプロンプト画面から mcftswptr コマンドを入力してください。スワップする直前までの MCF イベントトレースが参照できます。

mcftswptr コマンドの詳細については、マニュアル「OpenTP1 運用と操作」を参照してください。

- MCF ダンプファイル

TP1/Messaging のローカルメモリおよび共用メモリをダンプするファイルです。%DCDIR%\%SPPOOL ディレクトリの下に mcfd××××というファイル名で出力されます。

- コアダンプファイル

異常終了したプロセスのコアを退避するファイルです。%DCDIR%\%SPPOOL%\SAVE ディレクトリの下にサーバ名.n というファイル名で出力されます。n は 1 けたの数字です。

■ 注意事項

障害が発生した場合は、上記に示すファイルを確保してから、保守員へ連絡してください。

4.3 メッセージ

TP1/Messaging では、システム情報やエラーをメッセージで通知します。メッセージは、ダイアログボックスで画面に表示されます。

表示されるメッセージには、値の設定や操作が適切でないときに、エラーとして通知するものと、システムの動作またはユーザの操作について、確認するものがあります。

- **エラーメッセージが通知された場合**

表示された内容について、設定した値やコマンドの操作が正しいかどうかを確認してください。必要な場合は設定をし直すなどの処置をしてください。

- **メッセージの最後に「しばらくお待ちください。」という説明がある場合**

TP1/Messaging が内部処理を終了していません。内部処理終了後、次の操作を行ってください。

- **ダイアログボックス内の説明にシステムメッセージが付いている場合**

システムメッセージのメッセージ ID (KFCA×××××) を基に、マニュアルを参照して対処してください。

システムメッセージについては、マニュアル「OpenTP1 メッセージ」を参照してください。

上記以外で、ユーザ側で対処できないトラブルが発生したときは、保守員に連絡してください。

付録

付録 A TP1/Messaging と MCF の差異

<参照するマニュアルの制限事項>

このマニュアルでは、OpenTP1 の機能、定義、運用コマンド、および関数の説明に関して、OpenTP1 の関連マニュアルを参照している箇所があります。関連マニュアルは、TP1/Messaging で使用できない機能、定義、運用コマンド、および関数についても説明しています。関連マニュアルを参照する場合は、TP1/Messaging で使用できる機能、定義、運用コマンド、および関数かどうかを確認してください。

ここでは、機能、定義、運用コマンド、および関数について、TP1/Messaging のメッセージ送受信機能と、TP1/Message Control, TP1/NET/Library, および TP1/NET/TCP/IP で実現するメッセージ送受信機能の差異を示します。

一覧表で使用している記号の凡例を次に示します。

(TP1/Messaging でのサポートの有無に関する凡例)

- ：MCF と同じ機能をサポートしています。
- △：MCF との機能差異や TP1/Messaging での制限事項があります。
- ×：サポートしていません。

(TP1/Messaging - Extension 1 の要否に関する凡例)

- ：TP1/Messaging - Extension 1 が必要です*。
- ×：TP1/Messaging - Extension 1 が不要です。
- －：該当しません。

注*

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしていない場合の動作は保証できません。

付録 A.1 TP1/Messaging と MCF の機能の差異

TP1/Messaging では使えない MCF の機能を、次に示します。

- 正常終了
- 計画停止 B
- 強制正常終了
- 再開始時の状態引き継ぎ
- 開始処理高速化
- メッセージの再送
- MCF からの SPP 起動
- メモリキューでの縮退運転

- キューサービス（ディスクキュー）
- MCF 部分入れ替え
- MCF オンラインテスト
- ジャーナル取得
- MCF 稼働統計情報
- UOC
- OpenTP1 セキュリティ
- マッピングサービス
- 共用メモリ自動増分時のログ出力
- MCF 構成変更再開始
- 再開始時のエラーイベント引き継ぎ
- UOC へのアプリケーション情報通知
- 異常終了 MHP の再スケジュール順序変更
- データ操作言語（DML）
- 同期受信
- 継続問い合わせ応答

注意事項

TP1/Messaging では、OpenTP1 の UOC（ユーザオウンコーディング）機能は使用できません。そのため、MCF メイン関数の作成、およびディレクトリの組み込みは必要ありません。

付録 A.2 TP1/Messaging と MCF の定義の差異

TP1/Messaging と MCF の定義の差異を、次に示します。

表 A-1 MCF マネージャ定義の差異

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/Messaging でのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcfmenv	-m	id	MCF マネージャプロセス識別子	×	—
			name	MCF マネージャ名	○	×
	mcfmcomn	-n		出力通番を使用する論理端末数	○	×
			-p	MCF 作業領域長	△※	×

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcfmcomn	-i		MCF 作業領域を追加確保した場合に、KFCA10242-I メッセージを出力するかどうかを指定	×	—
		-j		MCF マネジャプロセスのジャーナルバッファの大きさ	×	—
		-o	cmdsname	MCF オンラインコマンドサービス名	×	—
		-w	stats	MCF 稼働統計情報を取得するかどうかを指定	×	—
	mcfmcname	-s	mcfsvname	MCF 通信サービス名	○	×
			sysssvname	システムサービス情報定義ファイル名	○	×
	mcfmuap	-d		通信関数の発行回数の上限值	○	×
		-t	sndtim	同期型送信監視時間	○	×
			sndrcvtim	同期型送受信監視時間	○	×
			recvtim	同期型受信監視時間	○	×
		-j		ユーザサービスのジャーナルバッファの大きさ	×	—
		-e	segsize	エラーイベント処理用 MHP 起動時、またはアプリケーション起動機能使用時の最大セグメント長	△※	×
		-l	initseq	出力通番の初期値	○	×
			maxseq	ラップ時の出力通番の最大値	○	×
			minseq	ラップ後の出力通番の開始値	○	×
		-u	ntmetim	非トランザクション MHP 限界経過時間	○	×
-a		delaytim	アプリケーション起動時の遅延許容時間	○	×	
-c		order	メッセージ送信順序および再送順序ならびにアプリケーション起動順序の選択	○	×	
	noansreply	非応答型の MHP からの問い合わせ応答をするかどうかを指定	△※	○		
	commitdml	データ操作言語の COMMIT 文を使用するかどうかを指定	×	—		

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcfmuap	-c	otqinhold	出力キューの入力保留中の動作を指定	○	×
			errevt_recovery	OpenTP1 再開始時のエラーイベントを引き継ぐかどうかを指定	×	—
			itqretryorder	MHP の再スケジュール時に受信メッセージを入力キューに格納する位置	×	—
		-r	reschedulecnt	アプリケーション異常終了時の再スケジュール回数	○	○
			rescheduleint	アプリケーション異常終了時の再スケジュール間隔	○	○
			reschedule log	異常終了したアプリケーションを再スケジュールするときに、ログメッセージを出力するかどうかを指定	○	○
mcfmqgid	-q	quekind	キュー種別	×	—	
		quegrp id	キューグループ ID	×	—	
mcfmexp	-g		サービスグループの登録数	×	—	
			論理端末の登録数	×	—	
			入力用ディスクキューが使用できないときに縮退運転するかどうかを指定	×	—	
			出力用ディスクキューが使用できないときに縮退運転するかどうかを指定	×	—	
mcfmsts	-g		サービスグループ数上限値	×	—	
			サービス数上限値	×	—	
mcfmmsg	-m		ログファイルへの出力を抑制するメッセージ ID	○	○	
mcfmsvg	-g	servgrp n	サービスグループ名	○	○	
		-w	watchcnt	入力キューの滞留監視数	○	○
	watchint		入力キューの滞留監視インタバル時間	○	○	
	expectcnt		MHP に期待するサービス要求の処理数	○	○	

形式	コマンド	オプション	オペラント	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマ ンド	mcfmsvg	-w	abort	MHP の処理能力不足時の OpenTP1 システムのダウン可否	○	○

注※

詳細については、「付録 A.5 TP1/Messaging と MCF の仕様差異」を参照してください。

表 A-2 MCF 通信構成定義共通部の差異

形式	コマンド	オプション	オペラント	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマ ンド	mcftenv	-s		MCF 通信プロセス識別子, また はアプリケーション起動プロセス 識別子	△※	×
		-m		MCF マネージャ識別子	×	—
		-a		MCF アプリケーション定義オブ ジェクトファイル名	○	×
		-q	diskitq	入力キューにディスクキューを使用 するかどうかを指定	×	—
	mcftcomn	-j		MCF 通信プロセス, またはアプ リケーション起動プロセスの ジャーナルバッファの大きさ	×	—
	mcfttred	-m		最大処理多重度	△※	×
コマ ンド	mcfttim	-t	btim	時間監視間隔	○	×
			mtim	未処理送信メッセージ滞留時間	○	×
			rmtim	未処理受信メッセージ滞留時間	○	×
		-p	usertime	ユーザタイム監視機能を使用する かどうかを指定	○	×
			timereqno	最大タイム監視要求数	○	×
			msgsize	最大メッセージ長	○	×
			msgout	メッセージを出力するかどうかを 指定	○	×
コマ ンド	mcfttrc	-t	size	MCF トレースバッファの大きさ	○	×
			disk	MCF トレースディスク出力機能 を使用するかどうかを指定	○	×
			bufcnt	MCF トレースバッファの数	○	×

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマ ンド	mcfttrc	-t	trccnt	MCF トレースファイルの数	○	×
			msgsize	トレースとして取得する送受信 メッセージの最大サイズ	○	×
		-m		MCF トレースファイルの数を超 えたときの処置	○	×
	mcftsts	-a		アプリケーション数上限値	×	—
		-l		論理端末数上限値	×	—
	mcftbuf	-g	groupno	メッセージ送受信用、およびメッ セージ編集用バッファグループ 番号	○	×
			length	メッセージ送受信用、およびメッ セージ編集用バッファ長	○	×
			count	メッセージ送受信用、およびメッ セージ編集用バッファ数	○	×
			extend	拡張するバッファ数	×	—

注※

詳細については、「付録 A.5 TP1/Messaging と MCF の仕様差異」を参照してください。

表 A-3 アプリケーション起動環境定義の差異

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマ ンド	mcftpsvr	-c		内部通信路名	○	×
		-o	reruntm	リラン時のタイマ起動を引き継ぐ かどうかを指定	×	—
コマ ンド	mcftalcle	-l		論理端末名称	○	×
		-t		論理端末の端末タイプ	○	×
		-m	mmsgcnt	メモリ出力メッセージ最大格納数	×	—
			dmsgcnt	ディスク出力メッセージ最大格 納数	×	—
		-k	quekind	出力メッセージの割り当て先	×	—
			quegrpid	キューグループ ID	×	—

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcftped			アプリケーション起動環境定義の終了	○	×

表 A-4 MCF アプリケーション定義の差異

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcfaenv	-a		MCF アプリケーション定義識別子	○	×
		-p		アプリケーション起動プロセス識別子	△※	×
コマンド	mcfaalcap※	-n	name	アプリケーション名, または MCF イベント名	○	×
			kind	アプリケーション種別	○	×
			type	アプリケーションの型	△※	×
			aplihold	アプリケーション異常終了時のアプリケーションの処置	○	×
			msgcnt	入力メッセージ最大格納数	○	×
			lname	論理端末名称	○	×
			cname	内部通信路名	○	×
			tempsize	継続問い合わせ応答用一時記憶データ格納用領域サイズ	×	—
			trnmode	アプリケーションのトランザクション属性	○	×
			errevt	通信イベント障害時のエラーイベントを通知するかどうかを指定	○	○
		replychk	応答送信チェックをするかどうかを指定	○	○	
		-N	modelname	モデルアプリケーション名, またはモデル MCF イベント名	○	○
		-g	servgrpn	アプリケーション名に対応するサービスグループ名	○	×
quegrpid	キューグループ ID		×	—		
quekind	入力メッセージの割り当て先		×	—		

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcfaalcap※	-g	srvghold	アプリケーション異常終了時のサービスグループの処置	○	×
			recvmsg	異常終了した UAP の受信メッセージの扱い	×	—
		-v	servname	アプリケーション名に対応するサービス名	○	×
			servhold	アプリケーション異常終了時のサービスの処置	○	×
			ntmetim	非トランザクション MHP 限界経過時間	○	×
		-d	holdlimit	アプリケーション異常終了限界回数	○	×
			holdlmtyp	アプリケーション異常終了回数のカウント方法	○	×
			reschedulecnt	アプリケーション異常終了時の再スケジュール回数	○	○
			rescheduleint	アプリケーション異常終了時の再スケジュール間隔	○	○
			reschedulelog	異常終了したアプリケーションを再スケジュールするときに、ログメッセージを出力するかどうかを指定	○	○
		-j	ij	他システムから受信したメッセージの入力キュー登録時に、履歴情報を取得するかどうかを指定	×	—
			oj	UAP からのメッセージ送信要求時に、履歴情報を取得するかどうかを指定	×	—
			gj	UAP からのメッセージ受信要求時に、履歴情報を取得するかどうかを指定	×	—
		-e	evtlogout	ERREVT1~ERREVT4 を起動するとき、ログメッセージを出力するかどうかを指定	○	○

注※

詳細については、「付録 A.5 TP1/Messaging と MCF の仕様差異」を参照してください。

表 A-5 MCF 性能検証用トレース定義の差異

形式	オペランド	定義内容	TP1/Messaging でのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1 の要否
set	prf_file_size	MCF 性能検証用トレース情報ファイルのサイズ	○	×
	prf_file_count	MCF 性能検証用トレース情報ファイルの世代数	○	×

表 A-6 システムサービス情報定義の差異

形式	オペランド	定義内容	TP1/Messaging でのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1 の要否
set	module	MCF 通信サービスを起動するための MCF 実行形式プログラム名	TP1/Messaging では、システムサービス情報定義は編集できません。	—
	mcf_prf_trace	MCF 通信サービスごとに MCF 性能検証用トレース情報を取得するかどうかを指定		—

表 A-7 システムサービス共通情報定義の差異

形式	オペランド	定義内容	TP1/Messaging でのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1 の要否
set	max_socket_descriptors	ソケット用ファイル記述子の最大数	○	○
	max_open_fds	MCF 通信プロセスでアクセスするファイルの最大数	△※	○
	thdlock_sleep_time	スレッド間で排他が競合した場合のスレッドの待ち時間	○	×
	mcf_prf_trace_level	MCF 性能検証用トレース情報の取得レベル	○	×
	mcf_start_watch_interval	MCF 開始時プロセス間監視時間間隔	○	○
putenv	DCMCFQUEBAK	MCF 構成変更準備停止時のバックアップファイル名	×	—

注※

詳細については、「付録 A.5 TP1/Messaging と MCF の仕様差異」を参照してください。

表 A-8 リアルタイム取得項目定義の差異

形式	オペランド	定義内容	TP1/Messaging でのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1 の要否
set	rts_mcf_ap_scd_stay	スケジュール待ち情報を取得するかどうかを指定	○	○

形式	オペランド	定義内容	TP1/Messaging でのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1 の要否
set	rts_mcf_ap_usr_srv_c	ユーザサービス実行情報を取得するかどうかを指定	○	○
	rts_mcf_in_msg_scd_wait	論理端末単位の受信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	○	○
	rts_mcf_out_msg_sync_scd_wait	同期型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	○	○
	rts_mcf_out_msg_resp_scd_wait	問い合わせ応答型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	○	○
	rts_mcf_out_msg_priority_scd_wait	優先分岐型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	○	○
	rts_mcf_out_msg_normal_scd_wait	一般分岐型送信メッセージの処理待ち情報を取得するかどうかを指定	○	○
	rts_mcf_queue_scd_wait_num	入力キューの滞留数の情報を取得するかどうかを指定	○	○

表 A-9 MCF 通信構成定義 TCP/IP 固有部の差異

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/Messaging でのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcftalccn※1	-c		コネクション ID	○	×
		-N	modelname	モデルコネクション ID	○	○
		-p		プロトコルの種別	○	×
		-g	sndbuf	メッセージ送信用バッファグループ番号	○	×
			rcvbuf	メッセージ受信用バッファグループ番号	○	×
		-e	msgbuf	メッセージ編集用バッファグループ番号	×	-
			count	メッセージ編集用バッファ数	×	-
		-i		コネクションの確立方法	○	×
		-b	bretry	コネクション確立障害時の確立再試行するかどうかを指定	○	×
			bretrycnt	コネクション確立障害時の確立再試行回数	○	×
bretryint	コネクション確立障害時の確立再試行間隔		○	×		

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcftalccn※1	-b	concmptim	コネクション確立時の監視時間	×	—
			sndcmptim	メッセージ送信完了までの監視時間	×	—
		-w	srtimout	コネクション切断抑止をするかどうかを指定	○	×
		-t		トランスポート層のプロトコルの種別	○	×
		-y	mode	クライアントとサーバの種別	○	×
		-r	ipaddr	自システムのホストの IP アドレス	×	—
			hostname	自システムのホスト名	×	—
			portno	自システムのホストのポート番号	○	×
		-o	oipaddr	相手システムのホストの IP アドレス	○	×
			ohostname	相手システムのホスト名	○	×
			oportno	相手システムのホストのポート番号	○	×
		-k	keepalive	ソケットオプション 「SO_KEEPALIVE」を使用するかどうかを指定	○	×
			nodelay	ソケットオプション 「TCP_NODELAY」を使用するかどうかを指定	○	○
			notrftime	無通信状態監視時間	○	○
		-f	kind	相手システムからのコネクション解放の通知	○	×
			cnrelease	コネクション解放形態	○	○
			release log	コネクション解放時のログメッセージの形式	○	×
			cnerr log	障害によるコネクション切断時のログメッセージの形式	○	×
		-A	mastercn※2	現用コネクション ID	○	×
		-u	masm	受信メッセージ組み立て機能を使用するかどうかを指定	△※1	×
ntimer	後続セグメント受信の監視タイマ		○	×		

形式	コマンド	オプション	オペラント	定義内容	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
コマンド	mcftalccn※1	-u	ntime	後続セグメント受信の監視タイム値	○	×
			delichk	メッセージ送達確認機能を使用するかどうかを指定	△※1	○
			msghold	受信メッセージを保留するかどうかを指定	×	—
			holdlimit	受信メッセージの最大保留数	×	—
		-h	addrchk	相手アドレス情報のチェックをするかどうかを指定	○	○
			chgconn	コネクション確立要求を受け付けた場合、未確立コネクションがなかったときの動作（コネクションリプレース機能を使用するかどうかを指定）	○	×
			listen	オンライン開始時から自動的にコネクション確立要求を受け付けるかどうかを指定	○	○
		-C	lscnfmt	mcftlscn コマンドの表示形式	×	—
		-l	replymsg	問い合わせ応答形態および継続問い合わせ応答形態のメッセージ送受信を行うかどうかを指定	○	○
			cnassign	相手からのコネクション確立要求時にコネクションを割り当てる対象の選択	○	○
	mcftalcle※1	-l	論理端末名称		○	×
			-N	modelname	モデル論理端末名称	○
		-t	論理端末の端末タイプ		○	×
		-m	mmsgcnt	メモリ出力メッセージ最大格納数	×	—
dmsgcnt			ディスク出力メッセージ最大格納数	×	—	
-i		論理端末の閉塞解除方法		○	×	
-k		quekind	出力メッセージの割り当て先	×	—	
		quegrpид	キューグループ ID	×	—	
-o		aj	メッセージ送信完了ジャーナルを取得するかどうかを指定	×	—	

形式	コマンド	オプション	オペランド	定義内容	TP1/Messagingでのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1の要否
コマンド	mcftalcle※1	-v		アプリケーション名	○	×
		-d	replacemsg	コネクション再確立時に未送信メッセージを送信するかどうかを指定（コネクション再確立時の未送信メッセージの送信抑止機能を使用するかどうかを指定）	○	○
	mcftalced			コネクション定義の終了	○	×

注※1

詳細については、「付録 A.5 TP1/Messaging と MCF の仕様差異」を参照してください。

注※2

このオペランドを指定する場合、TP1/NET/High Availability が必要です。

付録 A.3 TP1/Messaging と MCF の運用コマンドの差異

TP1/Messaging と MCF の運用コマンドの差異を、次に示します。

表 A-10 運用コマンドの差異

機能		運用コマンド	TP1/Messagingでのサポートの有無	TP1/Messaging - Extension 1の要否
コネクション管理	コネクションの状態表示	mcftlscn	○	×
	コネクションの確立	mcftactcn	○	×
	コネクションの解放	mcftdctcn	○	×
	コネクションの切り替え※	mcftchcn	○	×
	ネットワークの状態表示	mcftlsln	○	○
	サーバ型コネクションの確立要求の受付開始	mcftonln	○	○
	サーバ型コネクションの確立要求の受付終了	mcftofln	○	○
	メッセージ多重処理状況の表示	mcftlstrd	○	○
アプリケーション管理	アプリケーションの状態表示	mcfalsap	○	×
	アプリケーションの閉塞	mcfadctap	○	×
	アプリケーションの閉塞解除	mcfaactap	○	×

機能		運用コマンド	TP1/ Messaging で のサポートの 有無	TP1/Messaging - Extension 1 の 要否
アプリケーション管理	アプリケーション異常終了回数の初期化	mcfaclcap	○	×
	アプリケーションに関するタイマ起動要求の表示	mcfa1stap	○	○
	アプリケーションに関するタイマ起動要求の削除	mcfa1tap	○	×
アプリケーション運用支援	アプリケーションプログラムの起動	mcfuevt	○	×
論理端末管理	論理端末の状態表示	mcftlsle	○	×
	論理端末の閉塞	mcftdctle	○	×
	論理端末の閉塞解除	mcftactle	○	×
	論理端末のメッセージキューの先頭スキップ	mcftspqle	○	×
	論理端末の出力キュー処理の保留	mcfthldoq	○	×
	論理端末の出力キュー処理の保留解除	mcftrlsoq	○	×
	論理端末の出力キュー削除	mcftdlqle	○	×
	論理端末に関するメッセージジャーナルの取得開始	mcftactmj	×	—
	論理端末に関するメッセージジャーナルの取得終了	mcftdctmj	×	—
	論理端末に対する継続問い合わせ応答処理の強制終了	mcftendct	×	—
	代行送信の開始	mcftstalt	×	—
	代行送信の終了	mcftedalt	×	—
サービスグループ管理	サービスグループの状態表示	mcftlssg	○	×
	サービスグループの閉塞	mcftdctsg	○	×
	サービスグループの閉塞解除	mcftactsg	○	×
	サービスグループの入力キュー処理の保留	mcfthldiq	○	×
	サービスグループの入力キュー処理の保留解除	mcftrlsiq	○	×
	サービスグループの入力キュー削除	mcftdlqsg	○	×
サービス管理	サービスの状態表示	mcftlssv	○	×

機能		運用コマンド	TP1/ Messaging で のサポートの 有無	TP1/Messaging - Extension 1 の 要否
サービス管理	サービスの閉塞	mcftdctsv	○	×
	サービスの閉塞解除	mcftactsv	○	×
バッファ管理	バッファグループの使用状況表示	mcftlsbuf	○	×
マップ管理	マップファイルのパス名変更	dcmapchg	×	—
	マップファイルのロード済み資源の表示	dcmapls	×	—
キュー管理	入出力キューの内容複写	mcftdmpqu	×	—
MCF トレース取得 管理	MCF トレースファイルの強制スワップ	mcftswptr	○	×
	MCF トレース取得の開始	mcftstrtr	○	×
	MCF トレース取得の終了	mcftstpnr	○	×
MCF 稼働統計情報 管理	MCF 稼働統計情報の編集	mcfreport	×	—
	MCF 稼働統計情報の出力	mcfstats	×	—
MCF 通信サービス 管理	MCF 通信サービスの部分停止	mcftstop	×	—
	MCF 通信サービスの部分開始	mcftstart	×	—
	MCF 通信サービスの状態参照と開始待ち合わせ	mcftlscom	○	×
ユーザタイム管理	ユーザタイム監視の状態表示	mcftlsutm	○	○

注※

このコマンドを使用する場合、TP1/NET/High Availability が必要です。

付録 A.4 TP1/Messaging と MCF の関数の差異

TP1/Messaging と MCF の関数の差異を、次に示します。

表 A-11 関数の差異

機能		関数名※	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
メッセージ 送受信	アプリケーションに関するタイム起動要求の削除	dc_mcf_adltap CBLDCMCF('ADLTAP△△')	○	○
	アプリケーション情報通知	dc_mcf_ap_info CBLDCMCF('APINFO△△')	○	○

機能		関数名※	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
メッセージ 送受信	UOC へのアプリケーション情報 通知	dc_mcf_ap_info_uoc -	×	-
	MCF 環境のクローズ	dc_mcf_close CBLDCMCF('CLOSE△△△')	○	×
	MHP のコミット	dc_mcf_commit CBLDCMCF('COMMIT△△')	○	×
	継続問い合わせ応答の終了	dc_mcf_contend CBLDCMCF('CONTEND△')	×	-
	アプリケーションプログラムの起動	dc_mcf_execap CBLDCMCF('EXECAP△△')	○	×
	MHP のサービス開始	dc_mcf_mainloop CBLDCMCF('MAINLOOP')	○	×
	MCF 環境のオープン	dc_mcf_open CBLDCMCF('OPEN△△△△')	○	×
	メッセージの受信	dc_mcf_receive CBLDCMCF('RECEIVE△')	○	×
	同期型のメッセージの受信	dc_mcf_recvsync CBLDCMCF('RECVSYNC')	×	-
	応答メッセージの送信	dc_mcf_reply CBLDCMCF('REPLY△△△')	○	○
	メッセージの再送	dc_mcf_resend CBLDCMCF('RESEND△△')	×	-
	MHP のロールバック	dc_mcf_rollback CBLDCMCF('ROLLBACK')	○	×
	メッセージの送信	dc_mcf_send CBLDCMCF('SEND△△△△')	○	×
	同期型のメッセージの送受信	dc_mcf_sendrecv CBLDCMCF('SENDRECV')	○	×
	同期型のメッセージの送信	dc_mcf_sendsync CBLDCMCF('SENDSYNC')	○	○
	コネクションの確立	dc_mcf_tactcn CBLDCMCF('TACTCN△△')	○	○
	論理端末の閉塞解除	dc_mcf_tactle CBLDCMCF('TACTLE△△')	○	○

機能		関数名※	TP1/ Messaging でのサポート の有無	TP1/ Messaging - Extension 1 の要否
メッセージ 送受信	コネクションの解放	dc_mcf_tdctcn CBLDCMCF('TDCTCN△△')	○	○
	論理端末の閉塞	dc_mcf_tdctle CBLDCMCF('TDCTLE△△')	○	○
	論理端末の出力キュー削除	dc_mcf_tdlqle CBLDCMCF('TDLQLE△△')	○	○
	一時記憶データの受け取り	dc_mcf_tempget CBLDCMCF('TEMPGET△')	×	—
	一時記憶データの更新	dc_mcf_tempput CBLDCMCF('TEMPPUT△')	×	—
	ユーザタイマ監視の取り消し	dc_mcf_timer_cancel CBLDCMCF('TIMERCAN')	○	×
	ユーザタイマ監視の設定	dc_mcf_timer_set CBLDCMCF('TIMERSET')	○	×
	コネクションの状態取得	dc_mcf_tlscn CBLDCMCF('TLSCN△△△')	○	○
	MCF 通信サービスの状態取得	dc_mcf_tlscom CBLDCMCF('TLSCOM△△')	○	○
	論理端末の状態取得	dc_mcf_tlsle CBLDCMCF('TLSLE△△△')	○	○
	サーバ型コネクションの確立要求の 受付状態取得	dc_mcf_tlsln CBLDCMCF('TSLN△△△')	○	○
	サーバ型コネクションの確立要求の 受付終了	dc_mcf_tofln CBLDCMCF('TOFLN△△△')	○	○
	サーバ型コネクションの確立要求の 受付開始	dc_mcf_tonln CBLDCMCF('TONLN△△△')	○	○

注※

上段が C 言語の関数、下段が COBOL-UAP 作成用プログラムです。TP1/Messaging では、DML は使えません。

付録 A.5 TP1/Messaging と MCF の仕様差異

TP1/Messaging と MCF の仕様差異を、次に示します。

表 A-12 TP1/Messaging と MCF の仕様差異 (指定値の差異)

定義	コマンド	オプション	オペランド	指定値	
				TP1/Messaging	MCF
MCF マネージャ定義	mcfmcomn	-p	—	((100~2000000))	((100~1945599))
	mcfmuap	-e	segsize	((512~2147483647)) 《512*》	((512~2147483647)) 《32768》
		-c	noansreply	yes 《no*》	《yes》 no
MCF 通信構成定義 共通部	mcftenv	-s	—	((01~ee)) (アプリケーション起動プロセス識別子の場合: ef)	((01~ef))
	mcfttred	-m	—	((1~10)) 《10》	((1~1000)) 《10》
MCF アプリケーション定義	mcfaenv	-p	—	ef	((01~ef))
	mcfaalcap	-n	type	ans 《noans》	ans 《noans》 cont
MCF 通信構成定義 TCP/IP 固有部	mcftalccn	-u	masm	《yes》 no	yes 《no》
			delichk	dccm2m dccm2s dccm3m dccm3s 《nouse》	dccm2m dccm2s dccm3m dccm3s use 《nouse》
システムサービス 共通情報定義	—	—	max_open_fds	〈符号なし整数〉 ((100~4032))	〈符号なし整数〉 ((500~4032))

注※

07-51 より前のバージョンでのデフォルト値と同じ値です。

表 A-13 TP1/Messaging と MCF の仕様差異(指定数の差異)

定義	コマンド	指定数	
		TP1/Messaging	MCF
MCF アプリケーション定義	mcfaalcap	1~64 または 1~8192 ^{※1}	1~8192
MCF 通信構成定義 TCP/IP 固有部	mcftalccn	1~16 または 1~300 ^{※2}	1~2048
	mcftalcle	1~16 または 1~300 ^{※2}	1~2048

注※1

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしていない場合: 1~64

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしている場合: 1~8192

注※2

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしていない場合: 1~16

TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしている場合: 1~300

付録 B バージョンアップ時の変更点

バージョンアップ時の変更点について説明します。

付録 B.1 07-51 での変更点

TP1/Messaging 07-51 での関数、定義、およびコマンドの追加と削除を次の表に示します。

表 B-1 TP1/Messaging 07-51 での関数、定義、およびコマンドの追加と削除

種類	分類	内容
追加	関数	dc_mcf_adltap ^{※1}
		dc_mcf_ap_info ^{※1}
		dc_mcf_reply ^{※1}
		dc_mcf_sendsync ^{※1}
		dc_mcf_tactcn ^{※1}
		dc_mcf_tactle ^{※1}
		dc_mcf_tdctcn ^{※1}
		dc_mcf_tdctle ^{※1}
		dc_mcf_tdlqle ^{※1}
		dc_mcf_tlscn ^{※1}
		dc_mcf_tlscom ^{※1}
		dc_mcf_tlsle ^{※1}
		dc_mcf_tlsln ^{※1}
		dc_mcf_tofln ^{※1}
		dc_mcf_tonln ^{※1}
		CBLDCMCF('ADLTAP△△') ^{※1}
		CBLDCMCF('APINFO△△') ^{※1}
		CBLDCMCF('REPLY△△△') ^{※1}
		CBLDCMCF('SENDSYNC') ^{※1}
		CBLDCMCF('TACTCN△△') ^{※1}
CBLDCMCF('TACTLE△△') ^{※1}		

種類	分類	内容
追加	関数	CBLDCMCF('TDCTCN△△')※1
		CBLDCMCF('TDCTLE△△')※1
		CBLDCMCF('TDLQLE△△')※1
		CBLDCMCF('TLSCN△△△')※1
		CBLDCMCF('TLSCOM△△')※1
		CBLDCMCF('TLSLE△△△')※1
		CBLDCMCF('TSLN△△△')※1
		CBLDCMCF('TOFLN△△△')※1
		CBLDCMCF('TONLN△△△')※1
		定義
MCF アプリケーション定義 <ul style="list-style-type: none"> • mcfaalcap 定義コマンドの-n オプション errevt オペランド※1 replychk オペランド※1 • mcfaalcap 定義コマンドの-N オプション modelname オペランド※1 • mcfaalcap 定義コマンドの-d オプション reschedulecnt オペランド※1 rescheduleint オペランド※1 reschedulelog オペランド※1 • mcfaalcap 定義コマンドの-e オプション 		

種類	分類	内容
追加	定義	<p>evtlogout オペランド※1</p> <hr/> <p>MCF 通信構成定義</p> <ul style="list-style-type: none"> • mcfttim 定義コマンドの-p オプション usertime オペランド timereqno オペランド msgsize オペランド msgout オペランド • mcftalccn 定義コマンドの-N オプション modelname オペランド※1 • mcftalccn 定義コマンドの-w オプション srtimout オペランド • mcftalccn 定義コマンドの-k オプション nodelay オペランド※1 notrftime オペランド※1 • mcftalccn 定義コマンドの-f オプション cnrelease オペランド※1 releaselog オペランド cnerrlog オペランド • mcftalccn 定義コマンドの-A オプション mastercn オペランド※2 • mcftalccn 定義コマンドの-u オプション delichk オペランド※1 • mcftalccn 定義コマンドの-h オプション addrchk オペランド※1 listen オペランド※1 • mcftalccn 定義コマンドの-l オプション cnassign オペランド※1 • mcftalcle 定義コマンドの-N オプション modelname オペランド※1 • mcftalcle 定義コマンドの-d オプション replacemsg オペランド <hr/> <p>ユーザーサービス定義</p> <ul style="list-style-type: none"> • service オペランド <hr/> <p>システムサービス共通情報定義</p> <ul style="list-style-type: none"> • max_socket_descriptors オペランド※1 • max_open_fds オペランド※1 • mcf_prf_trace_level オペランド • mcf_start_watch_interval オペランド※1 <hr/> <p>MCF 性能検証用トレース定義</p> <ul style="list-style-type: none"> • prf_file_size オペランド

種類	分類	内容
追加	定義	<ul style="list-style-type: none"> prf_file_count オペランド
		リアルタイム取得項目定義 <ul style="list-style-type: none"> rts_mcf_ap_scd_stay オペランド※1 rts_mcf_ap_usr_srvc オペランド※1 rts_mcf_in_msg_scd_wait オペランド※1 rts_mcf_out_msg_sync_scd_wait オペランド※1 rts_mcf_out_msg_resp_scd_wait オペランド※1 rts_mcf_out_msg_prio_scd_wait オペランド※1 rts_mcf_out_msg_norm_scd_wait オペランド※1 rts_mcf_que_scd_wait_num オペランド※1
	コマンド	mcftchcn コマンド※2
		mcftsln コマンド※1
		mcftonln コマンド※1
		mcftofln コマンド※1
		mcftlstrd コマンド※1
		mcfalstap コマンド※1
		mcftlsutm コマンド※1

注※1

この変更は、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

注※2

この変更は、TP1/NET/High Availability が必要です。

TP1/Messaging 07-51 での動作の変更点を次に示します。

表 B-2 TP1/Messaging 07-51 での動作の変更

分類	内容
定義	mcfaalcap 定義コマンドの指定数の上限を 64 から 8192 に変更※
	mcftalccn 定義コマンドの指定数の上限を 16 から 300 に変更※
	mcftalcle 定義コマンドの指定数の上限を 16 から 300 に変更※
	次のオペランドに ans を指定できるように変更※ MCF アプリケーション定義 <ul style="list-style-type: none"> mcfaalcap 定義コマンドの-n オプション type オペランド
	次のオプションに request を指定できるように変更※ アプリケーション起動環境定義

分類	内容
定義	<ul style="list-style-type: none"> mcftalcle 定義コマンドの-t オプション
メッセージ	KFCA10365-I <ul style="list-style-type: none"> 出力情報に最大未送信メッセージ数の情報を追加
	KFCA10366-I <ul style="list-style-type: none"> 出力情報に最大バッファ使用数の情報を追加
	KFCA10505-I, KFCA10509-I <ul style="list-style-type: none"> 出力情報に-m オプションと-r オプションを追加
	KFCA01892-I <ul style="list-style-type: none"> 出力情報に保守情報 8, 9 の情報を追加
その他	MCF ダンプファイルの出力上限数を 99 から 3 に変更
	出力キューのメッセージ最大格納数を無制限から 65535 に変更
	<p>サーバ型コネクションのアドレス割り当てに失敗した場合、MCF 通信プロセスの起動を中断しないように変更 サーバ型コネクションで受付処理の再試行回数が上限(bretrycnt オペランドの指定値)を超えた場合、次のように対処する。</p> <p>TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしていない場合：TP1/Messaging を再起動する。 TP1/Messaging - Extension 1 をインストールしている場合：運用コマンド (mcfonln) を入力するか、または API (dc_mcf_tonln 関数もしくは CBLDCMCF('TONLN△△△')) を発行し、コネクションの確立要求の受付を開始する。</p>

注※

この変更は、TP1/Messaging - Extension 1 が必要です。

TP1/Messaging 07-51 でのデフォルト値の変更点を次の表に示します。

表 B-3 TP1/Messaging 07-51 でのデフォルト値の変更

分類	内容
定義	MCF マネージャ定義 <ul style="list-style-type: none"> mcfmuap 定義コマンドの-c オプションの order オペランドのデフォルト値 (function) を commit に変更

付録 B.2 07-00 での変更点

TP1/Messaging 07-00 での変更点を次の表に示します。

表 B-4 TP1/Messaging 07-00 での変更

種別	分類	内容
追加	GUI	TCP/IP コネクション属性設定画面に [コネクションリプレースの使用] オプションボタンを追加
	定義	MCF マネージャ定義の mcfmuap 定義コマンドの-c オプションの order オペランドを追加

種別	分類	内容
追加	定義	MCF 通信構成定義の mcfttrc 定義コマンドの-t オプションの msgsize オペランドを追加
		MCF 通信構成定義 mcftalccn 定義コマンドの-h オプションの chgconn オペランドを追加
変更	GUI	アプリケーション属性設定画面の [アプリケーションの型] オプションボタンの応答型を非活性に変更
		アプリケーション間通信環境設定画面の [端末タイプ] オプションボタンの問い合わせ応答型を非活性に変更
		TCP/IP コネクション属性設定画面の [ポート番号] の指定範囲 (1024~65525) を 1~65535 に変更
		MHP 環境設定画面の [プログラム名] の指定範囲 (1~8) を 1~14 に変更
		MHP 環境設定画面の [サービス滞留件数] の指定範囲 (1~512) を 0~512 に変更
	定義	MCF 通信構成定義 mcftalccn の-o オプションの oporno オペランドの指定範囲 (1024~65535) を 1~65535 に変更
		MCF アプリケーション定義 mcfaalcap の-n オプションの type オペランドの指定値を noans だけに変更
廃止	定義	MCF 通信構成定義 mcftalccn の-b オプションの dretry オペランド, dretrycnt オペランド, および dretryint オペランドを廃止
		MCF マネージャ定義 mcfmcomn の-i オプションを廃止

TP1/Messaging 07-00 でのデフォルト動作の変更点を次の表に示します。

表 B-5 TP1/Messaging 07-00 でのデフォルト動作の変更

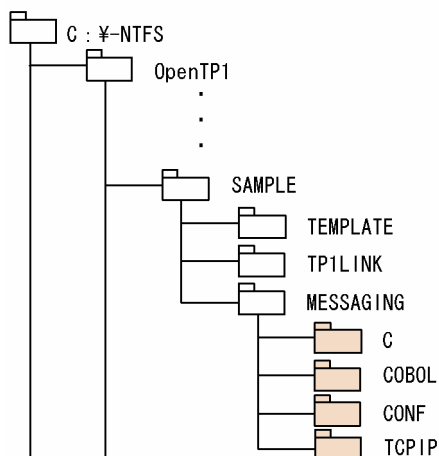
分類	内容
定義	MCF 通信構成定義 mcfttim の-t オプションの btim オペランドのデフォルト値 (5 秒) を 1 秒に変更
	MCF 通信構成定義 mcfttrc の-t オプションの size オペランドのデフォルト値 (20480 バイト) を 204800 バイトに変更
	MCF 通信構成定義 mcfttrc の-t オプションの disk オペランドのデフォルト値 (no) を yes に変更
その他	定義テキストファイルのバックアップファイルを取得するように仕様を変更

付録 C サンプルプログラム


TP1/Messaging では、UAP のサンプルプログラムを用意しています。サンプルプログラムを使用すると、コーディング時の負荷を減らせます。

TP1/Messaging のサンプルプログラムが格納されているディレクトリを次に示します。

C:¥OpenTP1 は、OpenTP1 のホームディレクトリ (%DCDIR%) です。この値は、セットアップ時に仮定されている初期値です。



(凡例)

 : サンプルプログラムが格納されているディレクトリを示します。

ディレクトリと、格納されているプログラムの内容を次に示します。

- C¥ : C 言語でコーディングしたアプリケーション (MHP)
- COBOL¥ : COBOL 言語でコーディングしたアプリケーション (MHP)
- CONF¥ : サンプルプログラムの実行環境を設定したファイル
- TCPIP¥ : TCP/IP 通信機能でコーディングしたアプリケーション (SUP,SPP,MHP)

(英字)

GUI

グラフィカルユーザインタフェースといい、画面に表示された絵をクリックすることで、環境設定や運用を行う操作方法です。Windows システムでは、この方法によって、複雑な文法規則を意識しないで操作ができます。

MCF

OpenTP1 システムのメッセージ制御機能です。メッセージの送受信に必要なコネクションおよび論理端末について、設定や管理を行います。

MHP

OpenTP1 システムで使用するユーザアプリケーションプログラムのうち、メッセージ送受信を制御するためのプログラムです。TP1/Messaging では、ユーザのアプリケーションとして、MHP を使用します。

TCP/IP

システム間で通信をする際の通信規約（プロトコル）の一つです。OSI で規定している 7 層構造のうち、主に第 4 層と第 3 層の通信規約について定めています。

(ア行)

アプリケーション

TP1/Messaging でユーザが使用する業務プログラムです。TP1/Messaging で使用できるのは、MHP です。OpenTP1 システムでユーザアプリケーションプログラム（UAP）と呼んでいる、プログラムの中の一つを指します。

(カ行)

コネクション

OpenTP1 でメッセージ送受信をする場合に、自システムと相手システムとの間に確立する論理的な通信路です。TP1/Messaging で TCP/IP プロトコルを使用して通信をする場合にも、コネクションを確立する必要があります。

コマンドプロンプト

システムの環境設定や運用をする場合に、キーボードからコマンドの文字列を入力し、対話形式で行う画面のことです。UNIX システムの場合は、この画面で操作します。Windows システムの場合は、GUI で操作します。

(サ行)

サーチパス

システム内で、アプリケーションがどのディレクトリにあるかを示す機能です。この機能を使用すると、目的のアプリケーションがどのようなディレクトリを通過して格納されているかが確認できます。

索引

数字

- 07-00 での変更点 114
- 07-51 での変更点 110

G

- GUI 15, 117
- GUI による環境設定 21
- GUI の画面からのオペレーション (MCF) 64
- GUI の画面からのオペレーション (MHP) 74

I

- [IP アドレス指定] テキストボックス 34

M

- MCF 117
- MCF アプリケーションの環境設定 19
- MCF アプリケーション名 19
- MCF イベントトレースファイル 89
- MCF オペレーション GUI 15
- MCF 環境設定 22
- MCF 環境設定 GUI 15
- MCF 環境設定時の画面構成 21
- MCF 環境設定で生成される定義オブジェクトファイル一覧 37
- MCF 環境設定で生成される定義テキストファイル一覧 37
- MCF ダンプファイル 89
- MCF 通信サービスとアプリケーションの対応づけ 20
- MCF のオペレーション 64
- MCF のオペレーションの終了 71
- MHP 117
- MHP 一覧表示部 41
- MHP 環境設定 19, 38, 41
- MHP 環境設定 GUI 15
- MHP 環境設定画面で設定する項目 44
- MHP 管理 39
- MHP 状態表示部 40, 75

- MHP のオペレーション 74
- MHP のオペレーションの終了 81
- MHP ユーザサーバおよびサービスグループの状態表示 78
- MHP ユーザサーバの管理 77
- MHP ユーザサーバの起動 20, 77
- MHP ユーザサーバの強制停止 77
- MHP ユーザサーバの停止 77

T

- TCP/IP 117
- TCP/IP コネクション属性設定 33
- TCP/IP 通信環境設定欄 24
- TCP/IP 通信サービス環境設定 31
- TCP/IP 通信サービス環境設定画面で設定する項目 32
- [TCP/IP 通信サービス名 (S)] テキストボックス 31
- [TCP/IP 通信サービス名 (T)] リストボックス 24
- TP1/LiNK 起動 20
- TP1/Messaging 13
- TP1/Messaging と MCF の運用コマンドの差異 104
- TP1/Messaging と MCF の関数の差異 106
- TP1/Messaging と MCF の機能の差異 92
- TP1/Messaging と MCF の差異 92
- TP1/Messaging と MCF の仕様差異 108
- TP1/Messaging と MCF の定義の差異 93
- TP1/Messaging の概要 13
- TP1/Messaging の環境設定項目 21
- TP1/Messaging の起動と停止 63
- TP1/Messaging の機能 15
- TP1/Messaging のトラブル 84
- TP1/Messaging - Extension 1 13

U

- UOC 93

あ

- 相手システム属性欄 34

[値 (Z)] テキストボックス 43
アプリケーション 117
[アプリケーション (A)] ボタン 64
アプリケーション間通信環境設定 28
アプリケーション間通信環境設定欄 23
[アプリケーション間通信サービス識別子 (I)] テキストボックス 29
[アプリケーション間通信サービス名 (P)] リストボックス 23
[アプリケーション間通信サービス名 (S)] テキストボックス 29
アプリケーショングループ環境設定 25
アプリケーショングループ環境設定欄 23
[アプリケーショングループ名 (G)] テキストボックス 25, 29, 31
[アプリケーショングループ名 (G)] リストボックス 23
アプリケーション属性設定 26
アプリケーション属性設定欄 25
[アプリケーションの型] オプションボタン 27
アプリケーションの管理 68
[アプリケーションの種別] オプションボタン 27
アプリケーションの準備 18
アプリケーションの状態表示 71
アプリケーションの閉塞 70
アプリケーションの閉塞解除 70
アプリケーション名 69
[アプリケーション名 (A)] テキストボックス 27, 34
[アプリケーション名 (P)] リストボックス 25

え

[エントリポイント名 (E)] テキストボックス 43

お

オペレーション 62

か

開始画面で設定する項目 24
[確立モード] オプションボタン 34
環境設定 16

環境設定終了時の表示画面 35

環境設定の手順 17

環境設定をする前に 17

き

起動 63

[起動 (S)] ボタン 75

強制停止 63

[強制停止 (O)] ボタン 75

共用メモリ 15

共用メモリ算出用定義ソースファイルの編集による環境設定 60

<

[グローバル] リストボックス 43

こ

コアダンプファイル 89

コーディング 19

コネクション 117

コネクションおよび論理端末の管理 65

コネクションおよび論理端末の状態表示 67

コネクション状態 66

コネクション属性欄 32

コネクションの解放 67

[コネクションの解放 (D)] ボタン 66

コネクションの確立 67

[コネクションの確立 (A)] ボタン 66

[コネクションの自動確立] オプションボタン 34

コネクション名 66

[コネクション名 (N)] テキストボックス 33

[コネクション名 (N)] リストボックス 32

[コネクションリプレースの使用] オプションボタン 34

[コネクション・論理端末 (C)] ボタン 64

コマンドプロンプト 118

コマンドプロンプト画面からのオペレーション (MCF) 71

コマンドプロンプト画面からのオペレーション (MHP) 82

コンパイルとリンケージ 19

さ

- サーチパス 118
- サーチパス状態 80
- サーチパスのオペレーションの終了 81
- サーチパスの削除 81
- サーチパスの参照 81
- サーチパスの設定 81
- [サーバ定義 (E)] ボタン 40, 76
- サービスグループの閉塞 77
- サービスグループの閉塞解除 77
- サービスグループ名 69, 75, 78
- [サービスグループ名 (G)] テキストボックス 27, 42
- [サービス詳細 (A)] ボタン 75
- サービス状態表示部 78
- [サービス滞留件数 (Q)] ボックス 43
- サービスのオペレーションの終了 79
- サービスの管理 78
- サービスの状態の表示 79
- サービスの閉塞 79
- サービスの閉塞解除 79
- [サービス閉塞 (D)] ボタン 78
- [サービス閉塞解除 (A)] ボタン 78
- サービス名 69, 78
- [サービス名 (S)] テキストボックス 27, 43
- [最新情報 (N)] ボタン 79
- [最新情報に更新 (L)] ボタン 75
- [最新の状態 (N)] ボタン 70
- [最新の情報 (N)] ボタン 66
- 作業の流れ 18
- サンプルプログラム 116
- サンプルプログラムが格納されているディレクトリ 116

し

- 識別子 66, 69
- 資源自動見積もり機能 15
- 自システム属性欄 34
- 実行環境の設定 21
- 実行形式ファイル名 47

- [実行形式プログラム名 (E)] テキストボックス 29, 31
- [自動起動あり] リストボックス 46
- 自動起動設定 45
- [自動起動設定 (A)] ボタン 41, 44
- [自動起動なし] リストボックス 46
- 種別 69
- [詳細設定 (T)] ボタン 32
- 状態 78
- 状態表示欄 66, 69
- 常駐 75
- [常駐 (R)] ボックス 42
- 初期設定ファイルの格納フォルダ 85
- [初期値設定 (I)] ボタン 44

す

- [スケジュール (H)] ボックス 42
- スケジュール状態 69
- スケジュール情報欄 43
- スタブソースファイル 19
- ステータスファイル 15

た

- [端末タイプ] オプションボタン 30

つ

- [追加 (A)] ボタン 32
- [通信サービス識別子 (I)] テキストボックス 31

て

- 定義オブジェクトファイル一覧 58
- 定義ソースファイル編集による環境設定 47
- 定義テキストファイルのバックアップファイルの格納フォルダ 85
- 定義変換コマンド一覧 58
- 停止 63
- [停止 (T)] ボタン 75

と

- 登録するサービス欄 43
- [登録するサービス] リストボックス 43

トラブルが発生したら 83
トラブルシュート情報 89
トラブルの種類と原因 84
[トランザクション機能 (T)] チェックボックス 27, 43

な

[内部通信路名 (P)] テキストボックス 29

に

入力状態 69
[任意のポート番号] オプションボタン 34

は

バージョンアップ時の変更点 110
バージョン情報の表示 36, 71, 81

ひ

非常駐 75
[非常駐 (N)] ボックス 42

ふ

プログラムのサーチパス 80
[プログラムのサーチパス (P)] ボタン 75
[プログラム名 (P)] テキストボックス 42
[プロセス (M)] ボックス 42
プロセス数欄 42

へ

[閉塞 (D)] ボタン 70, 75
[閉塞解除 (A)] ボタン 70
[閉塞解除 (R)] ボタン 75
変更サーチパス名 80
[変数 (Y)] テキストボックス 43

ほ

[ポート番号 Free] オプションボタン 34
[ポート番号] オプションボタン 34
[ホスト名称設定] テキストボックス 34

め

メッセージ 90
メッセージ出力欄 65, 68
メニューバー 24, 40, 65, 76

ゆ

ユーザサーバ状態 75
ユーザサーバの環境変数欄 43
ユーザサーバ名 75
[ユーザサーバ名 (U)] テキストボックス 42
[ユーザメッセージ長] オプションボタン 32
優先順位欄 42

よ

用語解説 117

ろ

[ローカル] リストボックス 43
論理端末状態 66
論理端末属性欄 30
論理端末の閉塞 67
[論理端末の閉塞 (F)] ボタン 66
論理端末の閉塞解除 67
[論理端末の閉塞解除 (S)] ボタン 66
論理端末名 66
[論理端末名 (L)] テキストボックス 33
[論理端末名 (L)] リストボックス 30